

得ルニハ永續的表示ナルコトヲ要スルカ故ニ夫ノ砂上ニ書シタル文字若クハ教室内ノ黑板ニ書シタル文字ノ如キハ其一時的ナル點ニ於テ文書ト云フヲ得サルヘシ、然レトモ苟クモ永續的表示ナル以上ハ其文字ノ顯出セラレタル方法ノ如何ヲ問ハサルカ故ニ其筆記ナルト印刷ナルト彫刻ナルト其他ナルトヲ區別セス、又其記録セラレタル材料ノ如何ヲ問ハサルカ故ニ紙、板、皮若クハ其他ヲ區別セス、又思想ノ表示タルコトヲ要スルカ故ニ其レ自體ニ於テ何等ノ思想ヲモ表示セサル扁額、看板、門札若クハ名刺ノ如キハ所謂文書ト目スヘキモノニ非ラスト、雖モ一般ノ慣習上文字又ハ之ニ代ハルヘキモノ、節略ニ因ル思想ノ表示ハ猶ホ文書タリ、例セハ鐵道若クハ電車ノ乗車券ノ如キハ其性質上文書タルヲ失ハサルカ如シ、從來大審院カ白紙委任狀ヲ以テ權利義務ニ關スル文書ナリト判示シタルハ蓋シ此主旨ニ外ナラス

三、文書偽造罪ノ目的物タル文書ハ其作成名義者ノ如何ニ因リ之ヲ別チテ三類トナス曰ク大權文書、曰ク公文書、曰ク私文書是レナリ、(一)大權文書トハ御璽、國璽若クハ御名ヲ使用シテ作成ス可キ文書ヲ謂ヒ、(二)公文書トハ公務所又ハ公務員カ其職務上作成ス可キ文書ヲ謂ヒ、(三)私文書トハ私人カ其私人タル資格ニ於テ作成ス可

キ文書ヲ謂ヒ更ニ之ヲ別チテ權利義務ニ關スルモノハト事實證明ニ關スルモノハトナス、然レトモ本法ハ有價證券ニ關シテハ別ニ次章ニ規定スル所アルヲ以テ爰ニ所謂文書中ニハ有價證券ヲ含マサルコト勿論ナリ

又本法ハ圖書ヲ以テ文書ト同列ニ置キタリ舊刑法ニ於テハ別ニ明示ナキ結果大審院ハ文書中ニ之ヲ包含スヘキモノナリト判示セシト雖モ上述セル文書ノ觀念ニ從ヘハ此判示ノ不當ナルコト多言ヲ要セスシテ明カナルヘシ

四、文書ノ偽造トハ作成權ナキ者カ他人名義ヲ詐ハリテ眞文書ト誤信セシムヘキ文書ヲ新ニ作成スルノ謂ナリ、但シ公務員カ其職務上作成スヘキ文書ニ虛偽ノ記載ヲ爲シタル場合ハ其作成名義ヲ詐ハリタルニ非ラサルモ法律ハ之ヲ特ニ一種ノ偽造罪ト認メタリ、通貨偽造罪ニアリテハ現存スル眞貨ニ模擬シタルコトヲ要スルニ反シ、文書偽造罪ニアリテハ眞文書ノ現存スルコトヲ必要トセス、是レ二者ノ性質ノ相異セル當然ノ結果ナリトス、文書偽造ニ關シテハ左ノ數點ニ注意スヘシ

(イ) 文書偽造罪ノ本質ハ他人ノ作成名義ヲ詐ハルニ在ルカ故ニ其作成名義ヲ詐ハルコトナキ以上ハ縱令其内容ニ虛偽ノ記載アリトスルモ罪トナラサルト同

時ニ其作成名義ヲ詐ハリタル以上ハ其内容ノ眞僞ヲ問ハスシテ犯罪成立スヘク又其詐ハラレタル人ノ内外人タルヲ問ハス

口、他人ノ名義ヲ詐ハルコトヲ要スルカ故ニ實際會テ社會ニ存在セサル虛無人ニ就テハ文書偽造罪成立セスト云フヲ通説トス(判例モ然リ)然レトモ此點ニ關シテハ獨乙ニアリテハ有罪說多數ニシテ我國學者中ニアリテモ亦有罪說ヲ採ルモノアリ

ハ、死者名義ノ文書ニ關シテハ判例ハ其作成日附カ死者ノ生存時ニ係ルトキハ有罪トシ死亡後ニ係ルトキハ無罪ナリトス、然レトモ虛無人ニ關スル場合ヲモ有罪ナリトスル學者ハ勿論本場合ニ就テモ其死亡後ニ付キ猶ホ有罪ナリト論結スルナリ

ニ、文書偽造ハ當該名義ノ眞文書ナリト信セシムルヲ以テ足ルカ故ニ正確ニ其氏名ヲ表示スルコトヲ要セス、通例其人カ慣用スル雅號、屋號等ヲ用ヒテ文書ヲ偽造スルモ猶ホ偽造罪トナスヲ妨ケス、

ホ、同様ニ官文書ニ關シテモ其官署ノ名稱ニ多少ノ相違アルモ苟クモ實在セル官署ヨリ出テタルモノナリトシテ人ヲ欺クニ足ル可キモノニ係ルトキハ官文

書偽造タルヲ妨ケス(判例モ亦是認ス)然レトモ全ク存在セサル官廳名義ニ係ルトキハ無罪タルヘキナリ、

五、文書ノ變造トハ無權利者カ不正ニ既存文書ヲ變更增加若クハ削除スルヲ謂フ、然レトモ之ヲ變更シタル結果全ク既存文書ト其性質ヲ異ニスヘキ新文書ヲ作爲シタリト認メ得ヘキ場合ニ於テハ變造ニ非ラスシテ偽造ナリトス、是レ從來學說及ヒ判例ノ一致スル所タリ例セハ貸借證ヲ變更シテ贈與證トナシタルカ如キハ縱令其變更部分ハ僅少ナリトスルモ猶ホ偽造タルカ如シ、要スルニ文書ノ偽造變造ハ其分量ノ差異ニ非ラスシテ性質上ノ差異ナリ、約言スレハ單ニ其文書ノ内容タル權利關係其他事實ノ效力態様ノ一部分ヲ變更スル場合ニ限り變造ナリトス、六、偽造變造文書ノ行使トハ其用法ニ從ヒ偽造變造ニ係ル文書ヲ眞文書トシテ使用スルノ謂ヒニシテ相手方ヲシテ之ヲ了知シ得ヘキ状態ニ置クヲ以テ足り、必ラスシモ閱讀了知セシメタル事實アルヲ要セス、但シ反對說アリ猶ホ此點ニ關シテハ左ノ數點ニ付キ注意スヘシ

イ、偽造變造文書ノ行使トハ原本其物ノ行使ヲ意味ス從テ其謄本抄本ヲ行使シタル場合ニ於テハ未タ以テ法律上偽造變造文書ノ行使アリタリト云フヲ得ス、

但シ公務員カ作成スヘキ謄本、抄本ハ其自體ニ於テ一文書ナルカ故ニ其公務員ノ作成名義ヲ冒シテ其謄本、抄本ニ模擬シタル文書ヲ作爲シ之ヲ行使スルハ其偽造、變造ニ係ル謄本、抄本自體ノ行使ナルカ故ニ偽造、變造ノ文書ノ謄本、抄本ヲ行使シタル場合ト混同セサルコトヲ要ス、

(ロ) 文書ノ性質ニヨリテ一定ノ場所ニ備付クル用ニ供スヘキモノハ其備付ヲ以テ行使アリトナス、例セハ諸官衙若クハ會社ノ帳簿、公證人ノ作成スヘキ公正證書等ノ如キハ其管理スヘキ場所ニ備付ケタル一事ヲ以テ人ノ了知シ得ヘキ状態ニ置キタルモノナリト云ヒ得ヘキカ故ニ行使アリト云フヲ妨ケス(判例同趣旨)

(ハ) 同一理由ニ基ツキ偽造、變造文書ヲ相手方ニ送付スヘク郵便ニ付シタルトキハ相手方ニ到達スルヲ俟タスシテ行使アリタリト論スルコトヲ得ヘシ

(ニ) 自己ノ訴訟代理人ニ真正證據文書トシテ交付シタルトキハ其裁判所ニ提出セラル、ヲ俟タスシテ行使アリトナス(判例同趣旨)

(ホ) 最後ニ注意スヘキコトハ偽文書ヲ其用法ニ從ヒテ使用シタル以上ハ相手方カ之ニヨリテ誤信ヲ懷キタルト否トヲ問ハス行使アリタルコト之ナリ

七、本章ハ題シテ文書偽造ノ罪ト云フト雖モ其規定ノ内容ハ文書及ヒ圖書ヲ偽造、變造スル罪、公務員ニ對シ、虛偽ノ申立ヲナシ不實ノ記載ヲ爲サシメタル罪及ヒ偽造、變造ニ係ル文書、圖書ヲ行使シタル罪ノ規定ヲ含ミ舊刑法ニ比シ改正セラレタル點多々アリ其主要ナル點ハ左ノ如シ

(イ) 舊刑法ニ在リテハ其第二編第四章中ニ於テ官文書偽造ト私文書偽造トヲ各別節ニ規定セラレタリシモ凡ソ偽造ノ罪ハ文書ノ種類ノ如何ニ因リ其本質ヲ異ニスヘキモノニ非ラサルヲ以テ本法ハ之ヲ一括シテ本章中ニ併セ規定シタル

(ロ) 舊刑法ニ在リテハ文書偽造、變造ニ因ル印章偽造若クハ印章不正使用ヲ各別箇ノ犯罪トナシタリシモ(官文書ニ關シテハ特ニ第二百六條ノ規定アリ)通常文書ニハ捺印アルヲ例トシ而カモ之ナキニ於テハ其文書ニ對スル信用厚カラサルヲ例トスルカ故ニ本法ハ文書ヲ偽造、變造スルニ付テ偽印ヲ使用シ又ハ盜用シタル場合ヲ一結合犯トシテ處斷スヘキコト、シタリ

(ハ) 舊刑法ニ在リテハ文書、證書ニ關シ例外アリヲ偽造シテ行使シタルコトヲ要シタル結果トシテ單ニ文書ヲ偽造シテ止ミタル場合ニ於テハ之ヲ罪トシテ論

セサリキ、然ルニ本法ハ偽造ト行使トヲ全ク別箇ノ所爲ト認メ同一人カ偽造シテ行使シタル場合ハ第五十四條ヲ適用スヘキ一罪ナリトス

(二) 舊刑法ニ在リテハ公務員ニ對シ不實ノ申述ヲ爲シ公務員ヲシテ之ヲ公正證書ニ記載セシメタル場合ニ關スル規定(所謂間接偽造)ヲ缺如シタリシカ本法ハ特ニ之ニ關スル規定ヲ補足シタリ

(ホ) 舊刑法ニ在リテハ公債證書、約束手形其他有價證券ニ關スル規定ヲ文書偽造罪中ニ規定シタリシモ有價證券ハ他ノ一般ノ文書ニ異ナル特質ヲ有スルモノナルカ故ニ本法ハ文書偽造罪中ヨリ之ヲ除外シ別ニ次章ニ於テ之カ規定ヲ設ケタリ

(ハ) 舊刑法ニ在リテハ犯罪ヲ別チテ公益ニ對スル罪ト私益ニ對スル罪トナシタル結果私文書ヲ毀棄シタル罪ハ私益ニ對スルモノトシテ之ヲ其第四百二十四條ニ規定セラレタリシニ拘ラス官文書毀棄罪ハ公益ニ對スルモノトシテ之ヲ官文書偽造罪中ニ規定セラレタリ、然レトモ本法ハ罪ヲ公私ニ區別セサリシ結果文書ノ毀棄ハ其官文書ナルト私文書ナルトヲ問ハス之ヲ財物毀棄罪ノ中ニ收メタリ、

猶ホ詳細ニ關シテハ各本條ニ就キ説明スルニ方リ叙説スヘシ

第五十四條

行使ノ目的ヲ以テ御璽、國璽若クハ御名ヲ使用シテ詔書其他ノ文書ヲ偽造シ又ハ偽造シタル御璽、國璽若クハ御名ヲ使用シテ詔書其他ノ文書ヲ偽造シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

御璽、國璽ヲ押捺シ又ハ御名ヲ署シタル詔書其他ノ文書ヲ變造シタル者亦同シ

本條ハ御璽、國璽若クハ御名ヲ使用シテ作成スヘキ文書即チ所謂大權文書ノ偽造

變造ニ關スル規定ナリ(舊刑法第二百二條)

第一項、本項ハ其偽造ニ關スル規定ニシテ前段ト後段トニヨリテ其成立要件ヲ異ニス左ニ之ヲ分説スヘシ

一、成立要件

甲、前段ノ罪 本罪ハ行使ノ目的ヲ以テ御璽、國璽若クハ御名ヲ不正ニ使用シテ詔書其他ノ文書ヲ偽造シタル場合ニシテ(一)目的物ハ詔書其他ノ文書ナルコト、(二)偽造シタルコト、(三)偽造スルニ付キ真正ナル御璽、國璽若クハ御名ヲ不正ニ使用シタルコト、(四)行使ノ目的ヲ以テシタルコトノ四要件ヨリ成ル、

第一要件 目的物ハ詔書其他ノ文書ナルコト、詔書トハ皇室ノ大事ヲ宣詔シ及ヒ大權ノ施行ニ關スル勅旨ヲ宣詔シ給フ文書ニシテ御璽、國璽若クハ御名ヲ

以テ作成セラルヘキ所謂大權文書ノ例示ニ過キス、即チ本條ノ罪ハ御璽、國璽若クハ御名ヲ使用シテ作成スヘキモノハ一切之ヲ含ミ、其内容ノ如何ヲ問ハサルカ故ニ天皇カ國家ノ首長トシテ國務ニ關シ下シ給フヘキモノナルト然ラサルモノナルトヲ區別スルコトナシ(例セハ單純ナル宸翰)

第二要件 偽造シタルコト 本章冒頭ニ於テ述ヘタル如ク作成權ナキモノカ其名義ヲ冒シテ眞正詔書其他ノ文書ト誤信セシムヘキ文書ヲ新ニ作成スルニヨリテ本罪ハ成ル

第三要件 偽造スルニ付キ眞正ナル御璽、國璽若クハ御名ヲ不正ニ使用シタルコト、「御璽」トハ天皇ノ印章ナリ、「國璽」トハ日本帝國ノ印章ナリ、「御名」トハ天皇ノ御名ナリ(公式令參照)而シテ本罪ハ偽造スルニ付キ之ヲ不正ニ使用スルコトヲ要スルカ故ニ若シ此要件ヲ缺如シタルトキハ他罪ヲ構成スルハ格別本罪トナラス

第四要件 行使ハ目的ヲ以テシタルコト 此目的ニ出ツルヲ要ス故ニ此目的ヲ缺如シタランニハ決シテ本罪ヲ構成スルコトナシ、舊刑法カ其目的ノ如何ヲ問ハス詔書ヲ偽造シタル所爲自體ヲ以テ罪トシタルニ反シ注目スヘキ修正點

ナリトス

乙、後段ノ罪 本罪ハ偽造シタル御璽、國璽若クハ御名ヲ使用シテ詔書其他ノ文書ヲ偽造シタル場合ニシテ(一)目的物ハ詔書其他ノ文書ナルコト、(二)偽造シタルコト、(三)偽造スルニ付偽造シタル御璽、國璽若クハ御名ヲ使用シタルコト、(四)行使ノ目的ヲ以テシタルコトノ四要件ヨリ成ル而シテ其趣旨ハ前段ノ罪ニ同シキヲ以テ只其特殊ナル點ニ付テノミ述ヘン

偽造シタル御璽、國璽若クハ御名ハ文書偽造者自ラ偽造セルト將タ又第三者ノ偽造シタルトヲ問ハス而シテ同一人カ之ヲ偽造シ因テ文書ヲ偽造シタル場合ニ於テハ所謂結合犯ニシテ只本條ノ一罪トシテ處斷スヘキモノトス(判例同趣旨)

法文ハ本條第一項前段ニ於テ眞正ナル御璽、國璽若クハ御名ヲ不正ニ使用シテ詔書其他ノ文書ヲ偽造シタル場合ヲ規定シ、後段ニ於テ偽造ニ係ル御璽、國璽若クハ御名ヲ使用シテ詔書其他ノ文書ヲ偽造シタル場合ヲ規定シ、前段後段ニ跨カル一罪ト關シテ或ハ疑ヲ挾ムモノアル可ケンモ此場合ニ於テハ前段後段ニ跨カル一罪ト

シテ處分スヘキモノトス

二、處分 本項ノ罪ヲ犯シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス、皇室本位ノ我帝國ニ於テハ此種ノ犯罪ニ對シ重刑ヲ科スヘキ必要アルコト古往今來渝ルコトナシ別ニ説明ヲ要セス

第二項 本項ハ詔書其他ノ文書ヲ變造シタル場合ノ規定ニシテ其成立要件ト處分トハ次ニ述フル所ノ如シ

一、成立要件 本罪ハ(一)御璽、國璽ヲ押捺シ又ハ御名ヲ署シタル眞正ナル詔書其他ハ文書ナルコト、(二)變造シタルコト、(三)行使ハ目的ヲ以テシタルコトノ三要件ヨリ成ル、而シテ其詳細ノ説明ニ關シテハ本章冒頭及ヒ前第一項ニ付キ述ヘタル所ヲ參照スレハ自ラ判明スヘキニヨリ茲ニ再ヒセス

二、處分 本項ノ罪ヲ犯シタル者ハ前項ノ罪ニ同シク無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

第一百五十五條 行使ノ目的ヲ以テ公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ圖畫ヲ偽造シ又ハ偽造シタル公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ圖畫ヲ偽造シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

公務所又ハ公務員ノ捺印若クハ署名シタル文書若クハ圖畫ヲ變造シタル者亦同シ
前二項ノ外公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ圖畫ヲ偽造シ又ハ公務所又ハ公務員ノ作リタル文書若クハ圖畫ヲ變造シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

本條ハ公務所又ハ公務員ノ作成スヘキ文書即チ所謂官文書偽造、變造ノ罪ヲ規定ス、舊刑法ニ於テハ官吏ノ作成スヘキ官文書ノ偽造、變造ニ關スル場合ヲ規定シテ公吏ノ作成スヘキ公文書ニ及ハサリシ結果公文書ニ關シテハ特ニ明治二十三年法律第百號ニヨリ其官文書ニ關スル規定ヲ適用スルコト、シタリシカ本法ハ之ヲ一括シテ本條ニ規定シタリ、舊刑法第二百三條、第二百四條、明治二十三年法律第百號

第一項 本項ハ公文書偽造ニ關スル規定ニシテ前段ト後段トニヨリ其罪素ヲ異ニスルコト前條規定ニ同シ

一、成立要件

甲、前段ノ罪 本場合ハ偽造ノ手段トシテ公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用シタル規定ニシテ三ヶノ要件ヨリ成ル即チ(一)目的物ハ公務所又ハ公務員ノ作成スヘキ文書又ハ圖畫ナルコト、(二)公務所又ハ公務員ノ印章又ハ署名ヲ使

用シテ之ヲ偽造シタルコト、(三)行使ノ目的ニ出テタルコト是ナリ

第一要件 目的物ハ公務所又ハ公務員ノ作ルハキ文書又ハ圖書ナルコト、公務所又ハ公務員ノ意義ニ付テハ本法第七條ニ之ヲ定ム其詳細ニ關シテハ同條說明ヲ參照セラレヨ

舊刑法ノ下ニ於テハ判例ハ地圖ヲ文書中ニ包含スト說明シタレトモ是レ文書ノ觀念上是認シ難キ說タリ、故ニ本法ハ明文ヲ以テ圖書ヲ文書ト同列ニ規定シタリ

公務所又ハ公務員ノ作ルヘキ文書ニ付キ舊刑法ハ之ヲ公證文書(同法第二百四條)ト其他ノ文書(同法第二百三條)トニ別チ其刑ヲ異ニシタリシト雖モ本法ハ其必要ナシトシテ一括シテ之ヲ規定シタリ所謂公務所又ハ公務員ノ作ルヘキ文書トハ其權限内ニ於テ帝國ノ公務所又ハ公務員タル名義ニ於テ作成ス可キ文書ヲ指稱シ從テ外國官憲ノ文書ヲ含マス其内容ノ如何ヲ問ハサルカ故ニ其對外的文書ナルト對内的文書ナルトヲ問ハス、又公法上ノ行爲ニ關スルト(例セハ裁判所ノ判決)私法上ノ行爲ニ關スルト(例セハ官署カ一ケ人ト請負契約ヲ締結スル文書)ヲ區別セス、又公務所又ハ公務員ノ名義ヲ使用シタル以上ハ縱令現今

法制ニ認メサル廢所廢官ナリト雖モ其作成日附カ其現存當時ノモノニ係ルトキハ猶公文書偽造、變造タルヲ妨ケス、故ニ判例ハ維新以前ノ國老名義ヲ冒シタル文書ヲ偽造シタル場合ヲ官文書偽造罪ナリト認メタリ、又通例公文書ハ一定ノ程式ヲ遵守スルコトヲ要スト雖モ(例セハ司法裁判所ノ判決ニハ裁判シタル判事及ヒ書記ノ署名捺印、作成者ノ契印、裁判シタル年月日及裁判所立會檢事ノ氏名等ヲ具備スルコトヲ要スルカ如シ)其之ヲ缺キタルカ爲メニ判決トシテハ效力ナキモ猶ホ官文書トシテノ存在ヲ失ハス、從テ之ヲ偽造變造シタルトキハ公文書偽造變造ノ罪ヲ構成スヘシ、判例カ官文書偽造罪ハ一般ニ人ヲシテ官文書ナリト信セシムヘキ形式ヲ具備スル程度ノモノタルヲ以テ足レリトナセルハ蓋シ此趣旨ニ外ナラサルモノトス、然レトモ公文書タルニハ法令若クハ執務例規ニ依リ與ヘラレタル權限内ニ於テ作成セラルヘキモノタルコトヲ要スルカ故ニ縱令公務所又ハ公務員カ作成シタル文書ナリト雖モ其權限外ニ屬スルトキハ官文書トシテノ存在ヲ否定スヘキモノナルカ故ニ之ヲ偽造スルモ本罪ヲ構成セス、例セハ檢事ノ名義ヲ以テ判決ヲ作成シタルカ如キ、判事名義ヲ以テ戶籍謄本ヲ作成シタルカ如キ若クハ公務員カ私ニ往復スル文書等之ナリ從テ

係争文書ノ官文書ナルヤ否ヤヲ決スルニ當リ其文書カ法規ニ依リ官吏ノ作成
 ス可キモノナルトキハ裁判所ハ其官文書ナルコトヲ認定スルニ當リ證據ニ依
 リ其理由ヲ説明スルノ要ナキモ若シ法規ニ何等別段ノ規定ナク只官廳ノ内規
 等局外者ノ知ルコトヲ得サル執務上ノ例規ニ依リ作成セラレタル文書ニ關シ
 テハ斯カル例規ノ果シテ存在スルヤ否ヤヲ事實問題トシテ證據ニ依リ説明シ
 タル上該文書カ官文書ナルヤ否ヤヲ判定セサル可ラサルナリ
 舊刑法ノ解釋トシテハ職權上官ノ保管ニ係ル文書ハ其私人名義ニ於テ作成セ
 ラレタルモノ例セハ諸種ノ届書、願書、申請書等ノ如キモノ之ヲ官文書ナリトスル
 ニ付キ學說、判例ノ一致セル所ナリシト雖モ新刑法ハ明カニ「公務所又ハ公務員
 ノ作ル可キ文書云々」ト規定シアルカ故ニ此ノ如キモノハ之ヲ官文書ト論スル
 コトヲ得サルヤ一點ノ疑ヲ容レス、然レトモ形式上一體ヲ爲ス文書ナル以上ハ
 其内容官文書及ヒ私文書ヲ包含スルモ之ヲ單一ナル官文書ト見ルヘキモノナ
 リ例セハ執達吏ノ送達證書ノ如キモノニアリテハ其内容ハ公務員タル執達吏
 ノ作成スヘキ部分ト受領者タル一私人ノ作成スヘキ部分トアルモ包括シテ一
 ツノ官文書タル送達證書ト見ルカ如シ、又與書ナル形式ニ依リテ證明セラル、

範圍ニ於テハ其私文書タル部分モ亦包括シテ官文書ノ性質ヲ有スルモノトス
 例セハ登記簿等ノ所謂公證文書ニ於ケルカ如シ

猶ホ叙上ノ説明ヲ補足センカ爲メニ左ニ官文書ニ關スル判例ノ注目スヘキモ
 ノ二三ヲ舉ケテ參考ニ資セントス

(一)官報ハ印刷局カ内閣總理大臣ノ管理ノ下ニ行政事務ノ一部トシテ編輯印刷
 スル官ノ文書ナリトス從テ官報印刷中ニ植字セラレタル活字ヲ變換シテ虛
 偽ノ事項ヲ印刷シタル所爲ハ官文書偽造ナリ

(二)電報賴信紙ハ一般私人ノ作成スヘキモノナルコト勿論ナリト雖モ電報送達
 紙ハ郵便局ニ於テ作成スル文書ナレハ之ヲ偽造シタル所爲ハ官文書偽造ナ
 リ

(三)警察官吏カ行政警察上ノ職權ニ基ツキ人民ニ對シテ發スル諭告書ハ官文書
 ノ性質ヲ有スルモノトス而シテ該文書中偶々警察署ノ權限ニ屬セサル事項
 ノ記載アルモ之カ爲メニ其性質ヲ變スルコトナシ

(四)官吏ノ出納旅費内譯明細表ハ旅費請求ノ爲メ出張日數及ヒ金額等ヲ詳記セ
 ル説明書ニ外ナラサレハ職權上作成スヘキ官文書ニ非ラスシテ一ノ私文書

- (五)官署ノ名稱ニ多少ノ相違アルモ苟クモ官署ヨリ出テタル文書ナリトシテ人ヲ欺罔スルニ足ル可キモノヲ偽造シタル所爲ハ官文書ノ偽造ナリ
- (六)縣ノ出納官吏タル郡長ノ資格ヲ詐ハリ同郡長ノ文書トシテ人ヲ欺罔スルニ足ル可キ文書ヲ偽造行使シタルトキハ該文書ニ表示セラレタル名義人カ虛無ナルト將タ其行使ノ當時該文書ニ表示セラレタル官職ヲ有スルト否トヲ問ハス官文書偽造ナリ
- (七)登記濟ナル記載アル不動産ノ賣買其他ノ證書ハ其性質上官吏ノ公證文書ナリ從テ之ヲ偽造シタル所爲ハ公證文書ノ偽造ナリ
- (八)華族世襲財産タルヘキコトヲ明カニスル爲メ公債證書ニ爲華族世襲財産ナル印章ヲ押捺シタルモノヲ洗除シ普通ノ公債證書ノ如ク裝ヒタル所爲ハ公證文書ヲ變換シタルモノトシテ論スヘク文書毀棄罪ヲ以テ論スヘキニ非ラス
- (九)登記申請書ハ元ト私文書ナルモ被告カ之ニ記入シタル虛偽ノ受付年月日番號等ノ記入ハ登記官吏ノ爲スヘキモノナレハ其虛偽ノ記入ハ官文書ノ偽造

ナリ而シテ同一文書ニシテ一面ハ私文書ノ偽造ナリ一面ハ官文書ノ偽造トナル場合ニ於テハ私文書ハ自ラ官文書中ニ含マレ一ツノ官文書ノ偽造ヲ以テ論スヘキナリ

- (十)鐵道院ノ作成ニ係ル驛名札ハ其性質上刑法ニ所謂公務所ノ作成スヘキ文書ニ該當スルヲ以テ之ヲ偽造スルハ官文書偽造ナリ
- 第二要件 眞正ナル公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ不正ニ使用シテ偽造シタルコト、偽造ノ意義ニ關シテハ既ニ前說セリ、偽造スルニ付キ公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ不正ニ使用シタル所爲ヲ包括シテ一結合犯トナシタルカ故ニ別ニ印章若クハ署名ノ不正使用ノ問題ヲ惹起セス而シテ法文ニ所謂印章若クハ署名ヲ不正ニ使用シテアルハ印章若クハ署名ヲ文書自體ニ使用スルコトヲ意味スルカ故ニ文書ヲ離レテ他ノ物體ニ爲シタル押印若クハ署名ハ縱令其物體カ該文書ニ添付セラレ又ハ封入スルノ用ニ供セラレタル場合ナリト雖モ文書ノ一部分ヲ爲スヘキモノニ非ラサルカ故ニ該文書ト他物體ニ爲サレタル印章若クハ署名ノ不正使用トハ各獨立シテ其效力ヲ有スルヲ以テ此場合ニ於テハ本條第一項ノ罪ニ非ラスシテ本條第三項及ヒ第百六十五條

ノ罪ヲ構成スヘキモノトス之レ我大審院カ最近判示スル所タリ但シ此判示趣旨ニ對シテハ異論アルヘシ

公務所ハ印章トハ當該公務所ヲ表示スヘキ印章ニシテ印文ニ何々官署ノ印ト刻シアリ公務員ハ印章トハ當該公務員ヲ表示スヘキ印章ニシテ印文ニ其官職氏名ヲ刻シアルヲ通例トス所謂職印之ナリ而シテ公務員ノ印章中ニ其公務員ノ名下ニ押捺セラレタル認印ヲ含ムカ否カニ付テハ積極消極ノ二説アリ判例ハ消極説ヲ採用ス蓋シ正當ナリ、

署名トハ法律關係アル事實ヲ證明スル爲メニ記載セラレタル證明者ノ名義ト云フ意義ニシテ法律上印章ト其値ヲ同シウスルモノトス猶之カ説明ニ關シテハ第十九條印章偽造ノ罪ニ付テ後述スル所ヲ參照セラルヘシ

第三要件、行使ノ目的ヲ以テシタルコト、即チ偽造ノ所爲ハ公文書トシテ使用スルノ意思ニ出テタルモノナルゴトヲ要ス、

乙、後段ノ罪、本罪ハ偽造シタル公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ公文書又ハ圖書ヲ偽造シタル場合ニシテ三ヶノ要件ヨリ成ル即チ(一)目的物ハ公務所又ハ公務員ハ作ルヘキ文書又ハ圖書ナルコト、(二)偽造ニ係ル公務所又ハ

公務員ハ印章若クハ署名ヲ使用シテ之ヲ偽造シタルコト、(三)行使ノ目的ヲ以テシタルコト、是ナリ而シテ是等要件其他ニ關シテハ既ニ前述シタル所ヲ參酌スレハ自ラ理解セラルヘキニヨリ茲ニ再説セス、

二、處分、本項ノ罪ヲ犯シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス、舊刑法ノ輕懲役ナルニ比シ刑期範圍頗ル擴大セラレタリ、

第二項、本項ハ公文書又ハ圖書ノ變造ニ關スル規定ニシテ其成立要件ト處分トハ次ニ述フルカ如シ、

一、成立要件、本項ノ罪ハ三ヶノ要件ヨリ成ル即チ(一)目的物ハ公務所又ハ公務員ハ捺印若クハ署名シタル文書若クハ圖書ナルコト、(二)變造シタルコト、(三)行使ノ目的ヲ以テシタルコト、是レナリ而シテ其意義ニ關シテハ前述セル所ヲ參酌シテ明了ナルヘシ、

二、處分、本項ノ罪ヲ犯シタルモノハ前項偽造ノ刑ニ同シク一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス、

第三項、本項ハ公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用セスシテ公文書又ハ圖書ヲ偽造變造シタル場合ノ規定ニシテ只偽造變造スルニ付キ公務所又ハ公務

員ハ印章若クハ署名ヲ使用セサルコトノ外其他ノ點ニ關シテハ總テ前二項ノ趣旨ニ同シ、但シ本項ノ場合ハ前二項ノ場合ニ比シ情狀輕キカ故ニ科刑モ亦從テ輕ク僅ニ三年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス、

第二百五十六條 公務員其職務ニ關シ行使ノ目的ヲ以テ虛偽ノ文書若クハ圖畫ヲ作り又ハ文書若クハ圖畫ヲ變造シタルトキハ印章署名ノ有無ヲ區別シ前二條ノ例ニ依ル

本條ハ公務員カ虛偽ノ文書又ハ圖畫ヲ作成シ又ハ之ヲ變造シタル場合ノ規定ニシテ學說上所謂無形偽造ナリ、舊刑法第二百五條第一項第二百六條)

一、成立要件、本罪ハ四ケノ要件ヨリ成ル、即チ(一)主體ハ公務員ナルコト、(二)其職務ニ關シ虛偽ノ文書若クハ圖畫ヲ作り又ハ之ヲ變造シタルコト、(三)偽造變造スルニ付キ公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用シ又ハ全ク之レヲ使用セザリシコト、(四)行使ノ目的ニ出テタルコト是ナリ、

第一要件 主體ハ公務員タルコト、本罪ノ成立ニハ公務員タル身分アルコトヲ必要トス、故ニ公務員ニ非ラサル雇員ニ及ハス、但シ非公務員カ公務員ト共ニ犯シタルトキハ第六十五條第一項ニヨリ共犯トシテ本條ノ適用ヲ受クヘシ、

第二要件 其職務ニ關シ虛偽ハ文書若クハ圖畫ヲ作り又ハ之ヲ變造シタルコト、公務員カ其職務ニ關シ自己名義ヲ以テ作成スヘキ文書ニ虛偽ノ記載ヲナシタル場合(即チ内容ノ偽造)ニ於テハ形式主義ノ見地ヨリ論スレハ文書偽造ト云フヲ得ス、故ニ本法ハ作成權ナキ者カ擅ニ作成シタル場合ト區別シテ偽造ナル文字ヲ避ケ虛偽ノ文書若クハ圖畫ヲ作り云々ト規定シタリ、之ニ反シテ既存文書ニ至リテハ假令公務員自身ノ作成ニ係リシ場合ナリト雖モ既ニ一ツノ官文書タリ事後ニ於テ恣ニ改變ヲ加フルコトヲ許サス從テ此場合ニ於テ作成名義人タリシ公務員カ變更スルモ猶ホ官文書變造タリ、故ニ本法モ此場合ニ關シテハ之ヲ他ノ場合ニ同シク變造ナル語ヲ用ヒタリ、而シテ注文ニハ公務員其職務ニ關シ云々トアリテ職權内ノ作成ニ限ルヘキヲ以テ事物及ヒ土地ノ管轄アルヲ要スルノミナラス公務員ト雖モ休職又ハ停職中ノ者ハ職權ナキモノナレハ是等公務員ノ所爲ニ係ルトキハ本條ノ適用ナク前二條ニ從テ處斷スヘキモノナリトス、

第三要件 偽造變造スルニ付公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用シ又ハ全ク之ヲ使用セザリシコト、

第四要件、行使ノ目的ヲ以テシタルコト、

右二要件ニ付テハ既ニ前二條ニ付キ説明セル所ヲ參照シテ之ヲ了解セラレヘシ、

二、處分、 法文ニ印章署名ノ有無ヲ區別シ前二條ノ例ニ依ルトアリ、故ニ公務員カ真正ナル御璽國璽若クハ御名ヲ使用シ又ハ偽造シタル御璽國璽若クハ御名ヲ使用シテ虛偽ノ詔書其他ノ文書ヲ作成シタル者、御璽國璽ヲ押捺シ又ハ御名ヲ署シタル詔書其他ノ文書ヲ變造シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處スヘク、真正ナル公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ不正ニ使用シ又ハ偽造シタル公務所若クハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ虛偽ノ公文書若クハ圖書ヲ作りタル者及ヒ公務所又ハ公務員ノ捺印若クハ署名シタル公文書若クハ圖書ヲ變造シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處スヘク、公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用セスシテ虛偽ノ公文書若クハ圖書ヲ作り又ハ之ヲ變造シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十七條 公務員ニ對シ虛偽ノ申立ヲ爲シ權利義務ニ關スル公正證書ノ原本ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス、
前二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス、

公務員ニ對シ虛偽ノ申立ヲ爲シ免狀、鑑札又ハ旅券ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス、
前二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス、

本條ハ公務員ニ對シ虛偽ノ申立ヲ爲シ因テ公正證書ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタル場合ノ規定ナリ、舊刑法ニ於テハ此場合ニ關スル規定ナク判例ハ無罪ニ傾キタリシモ學者間ニアリテハ異論アルヲ免レサリシカ故ニ本法ハ特ニ之カ明文ヲ設ケタルモノナリ、

第一項、 本項ハ權利義務ニ關スル公正證書ノ原本ニ虛偽ノ記入ヲ爲サシメタル場合ノ規定ニシテ其成立要件ト處分トハ次ニ述フルカ如シ、

一、成立要件 本項ノ罪ハ(一)公務員ニ對シ虛偽ノ申立ヲナシタルコト、(二)權利義務ニ關スル公正證書ノ原本ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタルコトノ二要件ヨリ成ル、
第一要件、 公務員ニ對シ虛偽ノ申立ヲ爲シタルコト、 情ヲ知ラサル公務員ニ對シ不實ノ事ヲ構ヘテ申立ヲ爲シタルコトヲ要ス若シ公務員ニシテ其情ヲ知リ申立人ト共謀シタル場合ニ於テハ本條ノ罪ヲ構成セスシテ前條ニヨリ處罰スヘキナリ、而シテ其申立ハ書面ニヨルト口頭ニヨルトヲ區別セス又自ラ直接

ニナスト他人ヲ介シ間接ニナストヲ問ハス又申立ノ虚偽ナルコトハ其意思表示自體ニ關スルト將タ又申立人ノ資格氏名等ニ關スルトヲ問ハス
 第二要件、權利義務ニ關スル公正證書ノ原本ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタルコト、茲ニ所謂公正證書トハ單ニ公證人ノ作成スヘキ文書ノミヲ指稱スルニ非ラスシテ其他身分登記簿、不動産登記簿等ノ如キ公務員ノ作成スヘキ一切ノ文書ヲ意味ス而シテ本罪ノ目的物タル公正證書ハ權利義務ニ關スルモノタルコトヲ要スルカ故ニ權利義務ニ關セサル公正證書ハ本條適用ノ以外ニアリトス
 原本トハ謄本正本抄本ニ對スル名稱ニシテ固有ノ公正證書自體ヲ謂フ而シテ本罪ハ原本ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタルヲ以テ成立ス故ニ虚偽ノ申立ヲ爲スモ未タ原本ニ虚偽ノ記載ヲ爲スニ至ラサルトキハ本罪ノ未遂ナリ本罪カ原本ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタル場合ニ限レルハ公務員ノ作成スル謄本、正本、抄本ニ關シテハ此ノ如キ場合ノ生シ得サルニ因ルモノナリ、何トナレハ謄本、正本、抄本ハ原本ニ由リテ作成スヘキモノナレハ其間虚偽ノ申立ヲ容ルヘキ餘地ナケレハナリ、若シ夫レ謄本、正本、抄本ヲ作成スヘキ公務員ニ依囑シテ虚偽ノ記載アル文書ヲ作成セシメンカ之レ本條ノ範圍内ニアラスシテ其公務員ト共ニ前條

ノ適用ヲ受クヘキノミ、

二、處分 本罪ヲ犯シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス、

第二項、本項ハ公務員ニ對シ虚偽ノ申立ヲ爲シ免狀、鑑札又ハ旅券ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタル場合ノ規定ニシテ其成立要件ト處分トハ左ノ如シ、

一、成立要件、本項ノ罪ハ(一)公務員ニ對シ虚偽ノ申立ヲ爲シタルコト、(二)免狀、鑑札又ハ旅券ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタルコトノ二要件ヨリ成ル、而シテ其第一要件ハ前項ニ付キ述ヘタル所ニ同シケレハ之ヲ略シ、第二要件中ノ特殊ナル點ニ關シ少シク説明ヲ試ミン、

免狀トハ法律カ或ル一私人ニ對シ一般ニ許サレサル特種ノ行爲ヲ爲スコトヲ得セシムヘキ效力ヲ付與スルモノヲ謂ヒ、例セハ醫師、藥劑師、獸醫若クハ蹄鐵工ノ免狀ノ如キヲ指シ、試験及篤證ノ如キヲ含マス、鑑札モ亦免狀ノ一種ト見ルヘク只一定ノ簡明ナル形式ニ因テ作成セラレタルモノヲ謂フ、例セハ諸種ノ營業鑑札、人力車、自轉車ノ鑑札等ノ如キモノヲ指ス、即チ此二種ハ性質上ノ區別ニ非ラスシテ行政上ノ便宜ニ出テタル形式的區別ナリトス、旅券トハ海外ニ旅行スル帝國臣民ニ對スル保護ノ依頼狀ニシテ一見免狀ニ類スト雖モ其本質ハ全ク相異ス

二、處分、本項ノ罪ヲ犯シタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス
前項ノ目的物ニ比シ輕微ナルヲ以テ科刑亦輕シ

第三項、本項ハ前二項ノ罪ノ未遂ヲ罰スヘキ規定ナリ、前二條ノ罪ニアリテハ其未遂ヲ罰スヘキ規定ナシ、蓋シ前二條ニアリテハ其未遂ノ場合ニ於テモ猶ホ多クハ印章若クハ署名ノ偽造又ハ其不正使用ノ所爲アルヘキヲ以テ文書ノ偽造變造ノ未遂ヲ處罰セサルモ猶ホ印章若クハ署名ノ偽造又ハ其不正使用ノ罪トシテ之ヲ處罰スルコトヲ得ヘキノミナラス若シ印章若クハ署名ノ偽造又ハ不正使用トシテ之ヲ處罰シ得サル程度ナルニ於テハ文書偽造變造罪ノ未遂トシテモ亦殆ント其實害ヲ見サルヘキニ依リ之カ未遂ニ關スル規定ヲ設ケサリシモノナルヘシ然ルニ本條第一項、第二項ノ場合ニ於テハ此ノ如キ關係ナキヲ以テ特ニ其未遂ヲ罰スヘキコトトナシタルナリ、

第百五十八條 前四條ニ記載シタル文書又ハ圖畫ヲ行使シタル者ハ其文書又ハ圖畫ヲ偽造若クハ變造シ又ハ虛偽ノ文書若クハ圖畫ヲ作り又ハ不實ノ記載ヲ爲サシメタル者ト同一ノ刑ニ處ス、
前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス、

本條ハ偽造、變造ニ係ル詔書其他ノ文書、公文書、私文書若クハ圖畫ヲ行使シタル場

合ノ規定ニシテ其偽造變造ノ罪ト離レテ行使ノミヲ別罪トシタル新刑法ノ一特色ナリ、

第一項、本項ハ本罪ノ既遂ニ關スル規定ニシテ其成立要件ト處分トハ次ニ述フル所ノ如シ、

一、成立要件、本項ノ罪ハ二ヶノ要件ヨリ成ル、即チ(一)目的物ハ前四條ニ記載シタル文書又ハ圖畫ナルコト、(二)行使シタルコト是ナリ、

第一要件、目的物ハ前四條ニ記載シタル文書又ハ圖畫ナルコト、即チ本罪ノ目的物ハ第百五十四條ノ詔書其他ノ文書、第百五十五條ノ公文書若クハ圖畫、第百五十六條ノ虛偽ノ記載アル公文書若クハ圖畫又ハ第百五十七條ノ公正證書、免狀、鑑札又ハ旅券ナルコトヲ要ス、猶ホ其詳細ニ關シテハ各當該法條ニ付キ説明シタル所ヲ參照セラルヘシ、

第二要件、行使シタルコト、舊刑法ニ於テハ文書ヲ偽造變造シテ行使シタルコトヲ一罪トシテ處罰シタリシモ、本法ハ既ニ前四條ニ於テ行使ノ目的ニ出テタルトキハ單ニ其文書又ハ圖畫ヲ偽造變造シタル所爲自體ヲ獨立罪トシテ規定シタル結果本條ハ其行使ノミヲ亦一獨立罪トシテ規定シタリ、而シテ偽造變

造ニ係ル文書又ハ圖畫ナル以上ハ行使者自ラ之ヲ偽造變造シタルト他人カ之ヲ偽造變造シタルトヲ問ハス、但シ後ノ場合ニアリテハ行使者ハ其情ヲ知リタルコトヲ要スルヤ勿論ナリ、論者或ハ偽造變造者自身カ併セテ行使シタル場合ニ於テハ其行使ハ偽造變造罪中ニ當然包含セラレ別ニ行使罪ヲ構成セストナスモノアリト雖モ予輩ハ之ヲ採ラス、大審院ハ初メ包含説ヲ採リシモ聯合審判ノ結果更メテ二罪説ヲ採ルニ至リタリ、而シテ偽造變造者自ラ行使シタル場合ニ於テハ第五十四條ノ適用アルヘキコト勿論ナリトス、

二處分、本罪ヲ犯シタル者ハ其文書ヲ偽造變造シタル者ト同一ノ刑ニ處ス、故ニ詔書其他ノ文書ニ係ルトキハ第五十四條所定ノ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ、公文書ニ係ルトキハ印章若クハ署名ノ有無ニ依リ第一百五十五條所定ノ一年以上十年以下ノ懲役若クハ三年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ、公務員カ作成シタル虛偽ノ文書若クハ圖畫ニ係ルトキハ第一百五十五條ノ例ニ從ヒ、虛偽ノ申立ヲ爲シ不實ノ記載ヲ爲サシメタル文書ニ係ルトキハ其種類ノ如何ニ從ヒ第一百五十七條ノ例ニ從ヒテ處斷スヘキナリ、

第二項、本項ハ偽造變造ニ係ル文書ノ行使未遂ヲ處罰スル規定ニシテ別ニ説明

ヲ加フヘキ餘地ナシ、

第一百五十九條 行使ノ目的ヲ以テ他人ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ權利義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ偽造シ又ハ偽造シタル他人ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ權利義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ偽造シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス、

他人ノ印章ヲ捺捺シ若クハ他人ノ署名シタル權利義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ偽造シタル者亦同シ、

前二項ノ外權利義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ偽造又ハ變造シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス、

本條ハ所謂私文書偽造變造ニ關スル規定ナリ(舊刑法第二百十條)

第一項、本項ハ權利義務又ハ事實證明ニ關スル他人名義ノ文書若クハ圖畫ヲ偽造シタル場合ノ規定ニシテ其成立要件ト處分トハ次ニ述フル所ノ如シ、

一、成立要件、本項ノ罪ハ前段ト後段トニヨリ其罪素ヲ異ニス左ニ之ヲ分説スヘシ

甲、前段ノ罪、本段ハ偽造スルニ付キ真正ナル他人ノ印章若クハ署名ヲ使用シタル場合ノ規定ニシテ四ヶノ要件ヨリ成ル、即チ(一)目的物ハ權利、義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ナルコト、(二)偽造シタルコト、(三)偽造スルニ付キ真正

ナル他人ノ印章若クハ署名ヲ不正ニ使用シタルコト、四、行使ノ目的ヲ以テシタルコト是ナリ、

第一要件、目的、物ハ權利義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ナルコト、文書及圖畫ノ意義ニ付テハ既ニ前述セシ所ナルヲ以テ之ヲ省ク官公文書ノ偽造變造ニ關シテハ一般ニ其危害大ナルヲ以テ其内容ノ如何ヲ問ハス總テ之ヲ處罰スルコト、ナシタリシモ私文書ニ關シテハ大ニ其趣ヲ異ニシ多小重要ニシテ法律的關係ヲ生スルモノニ非ラサレハ法律ハ之ヲ保護スルノ必要ナキモノトシ、夫ノ詩歌、俳諧、艶文等ノ如キ法律的關係ニ何等ノ影響ヲ及ホスコトナキモノニ係ルトキハ罪トシテ罰セス之レ官文書偽造變造罪ト私文書偽造變造罪トノ間ニ於ケル重要ナル相異點ナリトス、而シテ本罪ノ目的物タル私文書、圖畫ニ關シテ法律ハ權利義務又ハ事實證明ニ關スルモノナルコトヲ要スト限定ス權利義務ニ關スル文書トハ舊刑法第二百十條第一項ニ所謂、賣買、貸借、贈遺、交換其他權利義務ニ關スル證書トアルニ同シク直接ニ權利義務ノ發生、消滅、變更ヲ生セシムルコトヲ目的トスル意思表示ヲ内容トスル文書ノ謂ニシテ財產上ノ權利義務ニ關スルト身分上ノ權利義務ニ關スルトヲ區別セス、例セハ賣買、貸借、贈與、交換

ニ關スル證書、金錢其他物品ノ受領證、事務處理ニ關スル委任狀等ノ如キ類之ナリ、從來判例ハ登記申請書、出納簿其他營業帳簿、保險證書、假住所届、養子縁組届、親族會ノ決議書、物品注文書、小切手取組ノ報告書、貯金通帳、送荷ノ案内狀及ヒ添狀等ヲ權利義務ニ關スル證書ナリト認メタリ、事實證明ニ關スル文書トハ直接ニ權利義務ニ關セスト雖モ法律上重要ナル係争事實ヲ證明スヘキ文書ヲ謂ヒ初メヨリ事實證明ノ目的ノ爲メニ作成セラレタルト否トヲ區別セス、凡ソ此ノ如キ文書ハ皆間接ニ權利義務ニ關係ヲ有スヘキモノナルカ故ニ所謂權利義務ニ關スル文書ト之ヲ明確ニ區別スルコトハ實際上頗ル難事ナリトス、然レトモ苟クモ權利義務又ハ事實證明ニ關スル文書ナル以上ハ内國人ノ作成ニ係ルト外國人ノ作成ニ係ルトヲ區別セサルコト判例ノ是認スル所タリ、

圖畫ニ關シテモ同様ニ權利義務又ハ事實證明ニ關スルモノタルコトヲ要ス、故ニ例セハ地域等ヲ明確ナラシムヘキ爲メニ公務所等ニ備付ケアル地圖、契約書ニ添付シアル圖面等ノ如キハ本條規定ヲ受クヘキコト勿論ナリト雖モ夫ノ美術品タル繪畫ニ關シテハ罪ヲ構成セサルモノトス、

第二要件、偽造シタルコト、之レ前述セル所ナルヲ以テ再セス、

第三要件、偽造スルニ付キ、真正ナル他人ノ印章若クハ署名ヲ不正ニ使用シタルコト、即チ真正ナル他人ノ印章若クハ署名ヲ不正ニ使用シタル所爲トヲ一結合犯トナシタルコト、印章若クハ署名ノ不正使用ハ其文書又ハ圖畫自體ニ爲サレタルコトヲ要スルハ猶前述シタル官文書偽造罪ニ於ケルカ如シ、

第四要件、行使ノ目的ヲ以テシタルコト、別ニ説明ヲ要セス、

乙、後段ノ罪、本段ノ罪ハ偽造スルニ付テ偽造ニ係ル他人ノ印章若クハ署名ヲ使用シタル場合ノ規定ニシテ前段ノ罪ニ同シク四ヶノ要件ヨリ成ル、即チ(一)目的物ハ權利義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ナルコト、(二)偽造シタルコト、(三)偽造スルニ付キ偽造ニ係ル他人ノ印章若クハ署名ヲ使用シタルコト、(四)行使ノ目的ヲ以テシタルコト、是レナリ、而シテ其説明ニ關シテハ前段及ヒ第百五十六條ニ付テ述ヘタル所ヲ參照シテ了解セラルヘシ、

二、處分、本項ノ罪ヲ犯シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス、舊刑法ノ四月以上四年以下ノ重禁錮ナルニ比シ僅ニ重シ、

第二項、本項ハ權利義務又ハ事實證明ニ關スル文書圖畫ヲ變造シタル場合ノ規

定ニシテ其成立要件ト處分トハ次ノ如シ、

一、成立要件、本項ノ罪ハ三ヶノ要件ヨリ成ル、即チ(一)他人ノ印章ヲ押捺シ若クハ他人ノ署名シタル權利義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ナルコト、(二)變造シタルコト、(三)行使ノ目的ニ出テタルコト、是レナリ、其趣旨第百五十五條第二項ニ同シケレハ同條項ノ説明ヲ參照シテ了解セラルヘシ、

二、處分、本項ノ罪ヲ犯シタル者ハ前項ノ罪ニ同シク三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス、

第三項、本項ハ單純ナル手段ニヨリテ偽造變造シタル場合ノ規定ニシテ其成立要件ト處分トハ次ノ如シ、

一、成立要件、本項ノ罪ハ三ヶノ要件ヨリ成ル、即チ(一)目的物ハ他人ノ印章若クハ署名ナキ權利義務又ハ事實證明ニ關スル文書ナルコト、(二)偽造若クハ變造シタルコト、(三)行使ノ目的ニ出テタルコト、是レナリ、而シテ其趣旨ハ第百五十五條第三項ニ同シケレハ同條項ヲ參照シテ了解セラルヘシ、

二、處分、本項ノ罪ヲ犯シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス、目的物輕微ナルカ故ニ科刑最モ輕シ、

第六十條 醫師公務所ニ提出ス可キ診斷書、檢案書又ハ死亡證書ニ虛偽ノ記載ヲ爲シタルトキハ三年以下ノ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス、

本條ハ醫師カ公務所ニ提出スヘキ診斷書、其他ニ虛偽ノ記載ヲ爲シタル場合ニ關スル規定ニシテ所謂無形偽造ノ一場合ニ屬ス(舊刑法第二百十五條第二項)

一、成立要件、本罪ハ三ヶノ要件ヨリ成ル、即チ(一)犯罪ノ主體ハ醫師ナルコト、(二)目的物ハ公務所ニ提出スヘキ診斷書、檢案書又ハ死亡證書ナルコト、(三)之ニ虛偽ノ記載ヲ爲シタルコト是レナリ、

第一要件、主體ハ醫師ナルコト、本罪ハ醫師カ自己ノ名義ヲ以テ作成スヘキ文書ニ虛偽ノ記載ヲ爲シタルニ因リテ成立ス、例令醫師ナリト雖モ他人名義ヲ冒シテ文書ヲ作成シタル場合ニ於テハ本條ノ罪ニアラスシテ前條ノ罪トナル而シテ所謂醫師トハ醫師ニ從事スルコトノ免許ヲ得タルモノヲ指稱シ私カニ醫業ヲ爲スモノ、如キハ本條適用ノ範圍外ニ在リトス、

第二要件、目的物ハ公務所ニ提出スヘキ診斷書、檢案書又ハ死亡證書ナルコト、本罪ノ目的物ハ本條列記ノモノニ限ル診斷書トハ自己ノ診斷シタル患者ノ病狀ヲ證明スル書面ヲ謂ヒ、檢案書トハ自己ノ診斷セサリシ者ノ屍體ニ付檢診シ

タル結果ヲ記載シタル書面ヲ謂ヒ、死亡證書トハ自己ノ診療シタル者ノ屍體ニ付キ其死亡原因ヲ證明スル書面ヲ謂ヒ、皆醫師ニ非ラサレハ作成シ得サル所ニ係ル、而シテ法文ハ公務所ニ提出スヘキモノニ限定スルカ故ニ若シ公務所ニ提出スヘキモノニ非ラサルトキハ本罪ヲ構成セサルモノトス、但シ公務所ニ提出スヘキモノナル以上ハ公務所又ハ公務員ノ命令ニ因リ作成シタルト(例セハ司法官ノ命ニヨリ作りタル變死者ニ對スル檢案書、私人ノ依囑ニ因リ作成シタルト)例セハ戶籍役場ニ差出スヘキ死亡證書間ハサル可ク又實際公務所ニ提出セラレタルコトヲ要セサルモノトス

第三要件、虛偽ハ記載ヲナシタルコト、所謂虛偽トハ客觀的虛偽ナルヲ要スルカ將タ又主觀的虛偽ナルヲ以テ足ルヤニ關シ議論アルヘシト雖モ予輩ハ客觀說ヲ贊セントス、

二、處分、本罪ヲ犯シタル者ハ三年以下ノ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス、本罪ノ刑ハ本章中ノ他罪ト異ナリ定役ナキ禁錮ナルコトハ注意スヘキコトニ屬ス

第六十一條 前二條ニ記載シタル文書又ハ圖畫ヲ行使シタル者ハ其文書又ハ圖畫ヲ偽造若クハ變造シ又ハ虛偽ノ記載ヲ爲シタル者ト同一ノ刑ニ處ス

本條ハ偽造、變造ニ係ル私文書又ハ圖畫若クハ虛偽ノ記載アル醫師ノ診斷書其他ヲ行使シタル罪ノ規定ニシテ全ク第百五十八條ト趣旨ヲ同シウスルヲ以テ前ニ同條ニ關シ説明シタル所ヲ參酌セハ自ラ本條ノ意義明了ナルヘキニ付茲ニ之ヲ再ヒセス、

第十八章 有價證券偽造ノ罪

一、本章規定ニ相當スル舊刑法ノ規定ハ之ヲ官文書偽造罪中ノ第二百四條及ヒ私文書偽造罪中ノ第二百九條ニ散在スルヲ見ル、等シク有價證券タルノ性質ヲ具有シナカラ一ハ之ヲ官文書中ニ規定シ他ハ之ヲ私文書中ニ規定シタルカ如キハ立法上其當ヲ得タルモノナリトスルヲ得サルノミナラス有價證券ハ他ノ文書ニ比シ經濟上特殊ノ性質ヲ有スルヲ以テ本法ハ之ヲ他ノ文書ト區別シ一章ノ下ニ收メ以テ新ニ本章ヲ設ケタリ、

二、有價證券トハ證券面ニ表示セラレタル權利ノ行使ノ爲メニハ法律上其證券ノ占有ヲ必要トスルモノ、謂ナリ即チ有價證券ハ性質上權利義務ニ關スル文書ノ一種ナリト雖モ證券ノ移轉ニヨリテ其權利ヲ輾轉シ得ヘキ特質ヲ有スル所謂

流通證券ナリ例セハ公債證書、大藏證券、會社ノ株券、手形、運送狀、預證券、質入證券、船荷證券等ノ如キ之ナリ、

三、本罪ノ本質ハ一ツノ文書偽造罪ナルコト前述シタルカ如シ從テ本章規定ノ改正要點ハ他ノ文書偽造罪ノ其レニ共通セルヲ見ル左ノ如シ、

- (イ) 舊刑法ニ於テハ偽造若クハ變造シテ行使スルコトヲ要ストシ單ニ偽造、變造ト云フ行爲ヲ罰スル規定ヲ缺如シタリシカ本法ハ他ノ文書偽造罪ニ於ケルカ如ク本罪ニ付テモ亦偽造、變造ト其行使トヲ各別ニ處罰スルコト、シタリ、
- (ロ) 舊刑法ニ於テハ證書ノ偽造自體ト虛偽ノ記入トヲ區別セサリシカ本法ハ之ヲ別テ各別ニ犯罪ヲ構成スルモノトシタリ、
- (ハ) 舊刑法ニ於テハ其目的物ヲ公債證書、裏書ヲ以テ賣買ス可キ證書、約束手形ノ三者ニ限定シタリシカ狹キニ失スルヲ以テ本法ハ其他一般的ニ有價證券ニ關スル規定ニ擴大シタリ、

四、本章規定スル所僅ニ二ヶ條而シテ其包含スル罪ノ態樣ヲ別チテ三トナスヲ得ヘシ、即チ(一)有價證券ノ偽造、變造ノ罪、第百六十二條第一項、(二)虛偽ノ記入罪、同條第二項、及ヒ(三)行使及ヒ輸入罪、第百六十三條之ナリ、以下各本條ニ付キ其意義ヲ大

略説明セシ

第六十二條 行使ノ目的ヲ以テ公債證書、官府ノ證券、會社ノ株券其他ノ有價證券ヲ
偽造又ハ變造シタル者ハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス、
行使ノ目的ヲ以テ有價證券ニ虛偽ノ記入ヲ爲シタル者亦同シ、

本條ハ有價證券ノ偽造、變造及ヒ有價證券ニ虛偽ノ記入ヲナシタル罪ノ規定ナリ
〔舊刑法第二百四條第二百九條〕

第一項 本項ハ有價證券ノ偽造、變造ノ規定ニシテ其成立要件ト處分トハ次ノ如
シ、

一、成立要件 本項ノ罪ハ三箇ノ要件ヨリ成立ス即チ、(一)目的物ハ公債證書、官府ノ
證券、會社ノ株券其他ノ有價證券ナルコト、(二)偽造又ハ變造シタルコト、(三)行使ノ目
的ヲ以テシタルコト是ナリ、

第一要件 目的物ハ公債證書、官府ノ證券、會社ノ株券其他ノ有價證券ナルコト
公債證書、官府ノ證券、會社ノ株券ハ有價證券ノ例示ニ過ギス、公債證書トハ國
家若クハ地方自治團體ノ發行ニ係ル負債證書ニシテ各種ノ國債、地方債證券是
ナリ、官府ノ證券トハ法人トシテノ國家カ發行シタルニ非ラスシテ一官府ノ發

行ニ係ル證券ニシテ其主ナルモノハ大藏證券、郵便爲替證券是ナリ、會社ノ株券
トハ株主タルコトヲ表明スル爲メニ會社ノ發行ニ係ル證券ナリ、其他ノ有價證
券トハ例セハ會社ノ社債券、商法第二百五條、爲替手形(同法第四百四十五條以下
約束手形(同法第五百二十五條以下)、小切手(同法第五百三十條以下)、貨物引換證券
(同法第三百三十二條以下)、倉庫業者ノ預證券及ヒ質入證券(同法第三百五十七條
以下)、船荷證券(同法第六百二十條以下)等是ナリ、而シテ有價證券ノ意義ニ關シテ
ハ冒頭ニ述ヘタル所ヲ參照セラルヘシ

第二要件 偽造若クハ變造シタルコト、偽造、變造ノ意義ニ關シテハ前章文書
偽造罪ニ付テ述ヘタル所ニ同シケレハ再說セス唯茲ニ問題タルハ有價證券ヲ
偽造、變造スルニ付キ他人ノ印章若クハ署名ヲ不正ニ使用シ又ハ偽造シタル他
人ノ印章若クハ署名ヲ使用シタル場合ハ印章若クハ署名ノ不正使用又ハ偽造
罪ト有價證券偽造罪トノ二罪ナルカ將タ又印章若クハ署名ノ不正使用又ハ偽
造罪ハ有價證券偽造罪中ニ包含セラレテ單一罪タルコト前章規定ノ文書偽造
罪ニ於ケルカ如キカノ一事ナリ此點ニ關シテハ積極、消極ノ二說アルヘシト雖
モ予輩ハ有價證券ハ要式證券ナルカ故ニ其成立條件トシテ作成者ノ署名若ク

ハ捺印アルコトヲ要ス從テ有價證券ヲ偽造スルニ方リ署名若クハ印章ヲ偽造シ又ハ不正ニ使用スルモ有價證券偽造罪ノ外別ニ印章若クハ署名ノ偽造又ハ不正使用ノ問題ヲ惹起セス結合シテ有價證券偽造ノ單一罪ナリト斷スルヲ妥當ナリト信ス我大審院モ亦本問題ニ對シ本條ニハ第一百五十五條又ハ第一百五十九條ニ於ケルカ如ク特ニ他人ノ印章若クハ署名ヲ不正ニ使用シ又ハ偽造シタル印章若クハ署名ヲ使用シ云々ノ文詞ナキモ有價證券ノ偽造變造等ノ場合ニ於テハ偽造印章ノ使用等ノ所爲ハ自ラ證券偽造ノ所爲中ニ包含處罰セラル、コト明白ナルヲ以テ特ニ其旨ヲ明示セサリシモノナリト判示シ以テ積極說ヲ採用セラレタリ、

第三要件、行使ノ目的ヲ以テシタルコト、有價證券ノ偽造變造モ亦其實害ハ之ヲ行使セラル、點ニ存スルコト他ノ文書偽造罪ニ於ケルニ異ナラス故ニ之ヲ偽造變造スルモ其目的行使ニアラサル以上ハ之ヲ處罰スルノ要ナキナリ之レ法律カ本條件ヲ有價證券偽造罪ノ構成要件ノ一トナシタル所以ナリ而シテ其行使ノ何タルヤニ付テハ前章ニ於ケル說明ヲ參照センコトヲ希フ猶以上說明ヲ補足センカ爲メ左ニ注意スヘキ判例ノ二三ヲ舉示スヘシ

- (一)有價證券ハ要式證券ナルコト勿論ナリト雖モ之ヲ偽造スルニ方リ其要件ノ一二ヲ缺クモ仍ホ有價證券トシテ世人ヲ誤信セシムルニ足ルヘキトキハ有價證券偽造罪トシテ論スルヲ妨ケス、
- (二)他人ノ作成名義ヲ詐ハリテ手形ノ第一順位ノ裏書ヲ偽造シタル場合ニ於テ例令其手形ノ宛名人ト該裏書名義人トノ間ニ連續ヲ缺クモ其偽造ニ係ル裏書カ人ヲシテ手形上ノ裏書ナリト誤信セシムルニ足ル以上ハ手形偽造罪ヲ構成ス、
- (三)有價證券ヲ偽造行使シテ詐欺ヲ爲サントスルニ方リ同時ニ其裏書ヲモ偽造シタルトキハ別ニ裏書偽造罪ヲ構成セス單一ナル有價證券ノ偽造罪ヲ構成スルニ過キス、
- (四)鑛業所會計課カ其出納方ニ宛テ發行スル勞銀券ハ有價證券ニ非ラスシテ單純ナル私文書ナリトス、
- (五)鐵道乗車券ハ所謂權利義務ニ關スル證書ニシテ有價證券ニアラス、
- (六)一旦振出行爲ヲ了ハリ既ニ之ヲ流通ニ付シタル以上ハ振出人カ表面金額ノ記載ヲ變更シ其金額ヲ増減シタル時ト雖モ手形ノ變造罪ヲ以テ論スヘキモ

ノトス、

二、處分 本項ノ罪ヲ犯シタル者ハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス、本法ハ舊刑法ニ於ケルカ如ク有價證券ノ公成ナルト若クハ其記名ナルト無記名ナルトニ依リ其刑ヲ區別セスト雖モ有價證券ハ經濟上流通性ヲ有スルモノナルヲ以テ之カ信用ヲ確保スルノ必要上ヨリ科刑一般ニ重シ、

第二項、本項ハ有價證券ニ虛偽ノ記入ヲ爲シタル場合ノ規定ニシテ其成立要件ト處分トハ次ノ如シ、

一、成立要件 本項ノ罪ハ二ヶノ要件ヨリ成立ス、即チ(一)眞正ニ成立シタル有價證券ニ虛偽ノ記入ヲ爲シタルコト(二)行使ハ目的ヲ以テシタルコト是ナリ

抑々有價證券ニ虛偽ノ記入ヲ爲スハ有價證券其物ノ偽造ナリト云フヲ得スト雖モ其實害ノ點ニ至リテハ偽造ノ場合ニ於ケルト異ナルコトナシ、故ニ本法ハ明文ヲ以テ之ヲ處罰スルコト、シタリ、茲ニ所謂虛偽ノ記入トハ虛偽ノ裏書、引受、保證等ノ記入ヲ含ム、

二、處分、本項ノ罪ヲ犯シタル者ハ前項ノ偽造、變造ノ罪ニ同シク三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス、

第六十三條

偽造、變造ノ有價證券又ハ虛偽ノ記入ヲ爲シタル有價證券ヲ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ人ニ交付シ若クハ輸入シタル者ハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス、

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス、

本條ハ偽造、變造ニ係ル有價證券又ハ虛偽ノ記入アル有價證券ヲ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ他人ニ交付シ若クハ輸入シタル罪ノ規定ニシテ亦新刑法ノ一特色ナリ、

第一項、本項ハ本罪ノ既遂ニ關スル規定ニシテ其成立要件ト處分トハ次ノ如シ
一、成立要件 本罪ハ二ヶノ要件ヨリ成立ス、即チ(一)目的物ハ偽造、變造ニ係ル有價證券又ハ虛偽ノ記入ヲ爲シタル有價證券ナルコト(二)之ヲ行使シ又ハ行使ハ目的ヲ以テ他人ニ交付シ若クハ輸入シタルコト是ナリ、而シテ第一要件ニ關シテハ別ニ之レカ説明ヲ要セサルヘキニヨリ茲ニハ第二要件ニ付キ一言スル所アラントス、

前章ノ文書偽造罪ニ於ケル第五十八條、第六十一條ニ在リテハ單ニ行使ノ所爲ノミヲ處罰シタルニ反シ有價證券ニ關シテハ管ニ其行使ヲ罰スルノミナラス行使ノ目的ヲ以テ人ニ交付シ若クハ輸入シタルモノヲモ併セテ罰スルコトトシ

タルコト夫ノ通貨偽造罪ニ於ケル第四百四十八條第二項ニ同シ、蓋シ有價證券ハ他ノ文書ト異ナリ經濟上流通性ヲ有スルコト通貨ニ類スルカ故ニ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ他人ニ交付シ若クハ輸入シタル場合ニ於ケル危害ハ犯人自ラ之ヲ行使シタル場合ニ於ケルト異ナル所ナシ、之レ本法カ其交付ト輸入トヲ以テ行使ト同一視シタル所以ナリ、而シテ其交付、若クハ輸入ノ意義ニ關シテハ曾テ通貨偽造罪ニ就テ説明シタル所ヲ參照シテ之ヲ了解セラルヘシ、

二、處分、本罪ヲ犯シタル者ハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス、其實害ハ之ヲ偽造變造シタルニ異ナルコトナケレハ其刑モ亦同一ナルコト蓋シ至當ナリトス、

第二項、本項ハ偽造、變造ニ係ル有價證券ノ行使、交付若クハ輸入ノ未遂ヲ處罰スル規定ナリ、有價證券ニ關シテモ其偽造、變造ノ未遂ヲ罰セサルニ反シ其行使、交付若クハ輸入ノ未遂ヲ罰シタル所以ハ前章文書偽造罪ニ於ケル第六十一條第二項ニ付キ述ヘタル所ニ趣旨同シ、

第十九章 印章偽造ノ罪

一、本章ハ印章偽造ノ罪ト題スト雖モ其内容ハ印章ノ偽造、署名ノ偽造及ヒ印章

若クハ署名ノ不正使用ニ關スル規定ヲ包含ス、舊刑法ニ於テハ官印偽造ト私印偽造トヲ各別節ニ規定シタリシモ其印章タルノ點ニ於テハ二者異ナルコトナキヲ以テ本法ハ之ヲ一括シテ本章ノ下ニ集メ、又舊刑法ニ於テハ署名ニ關シ何等ノ規定ナカリント雖モ署名ハ印章ト獨立シテ法律上證明力ヲ有スルモノナルヲ以テ之ヲ保護スヘキコト至當ナルカ故ニ本法ハ新ニ之ニ關スル規定ヲ補足シテ本章中ニ之ヲ加ヘタリ

二、印章若クハ署名ヲ偽造シ又ハ之ヲ不正ニ使用シテ文書ヲ偽造シタル場合ニ於テハ法律ハ之ヲ一結合犯トシテ處罰スルコト、ナシタリト雖モ印章若クハ署名ハ文書ノ偽造ニ伴ハサル場合ニ於テモ仍ホ獨立シテ法律上重要ナル證明ノ用ニ供セラルルコトアルヘキヲ以テ本法ハ特ニ之カ偽造若クハ不正使用ヲ一獨立罪トシテ規定シタリ

三、舊刑法ニ於テハ官印(公印)ニ就テハ偽造ト使用トヲ各別ニ獨立罪トナシタリシカ私印ニ就テハ偽造及ヒ使用ヲ合シテ一結合犯トナシタリ然レトモ本法ハ文書偽造罪ノ例ニ倣ヒテ偽造ト使用トヲ各獨立罪トナシタリ故ニ同一人カ偽造シテ使用シタル場合ニアリテハ第五十四條ノ適用アルヘキモノトス

四、本章規定ノ目的物タル印章若クハ署名ヲ別チテ四種トナス、曰ク(一)御璽、國璽及ヒ御名ナリ、曰ク(二)公務所又ハ公務員ノ印章又ハ公務員ノ印章及ヒ署名ナリ、曰ク(三)公務所ノ記號ナリ、曰ク(四)私人ノ印章及ヒ署名ナリ、而シテ印ニハ濕印、通常肉池ヲ使用シテ押捺スルモノト乾印、燒印ノ類ノ別アリ、

五、印ニ印類ト印影トノ區別アリ、印章ノ偽造トハ印類ノ偽造ヲ云フカ、將タ又印影ノ偽造ヲ云フカ、舊刑法ノ解釋トシテハ學者多クハ印類說ヲ採リタリ、大審院ハ當初印類ニ因ラスシテ影出セラレタル場合ハ偽造ニ非ラストセシカ、後ニハ此場合モ亦印類偽造ト同シク偽造罪成立スト判示ス(即チ印類兼印影說、新刑法ノ下ニ於テモ亦同一ノ論争ハ繰返サル可シ)印類說ノ根據トスル所ハ(一)通常印章ト云ヘハ印類ヲ意味スルト(二)法律カ印章偽造罪ヲ認ムルハ實害ヲ生スルカ故ニ非ラスシテ其危險アルカ故ナリ、而シテ印類ヲ偽造スレハ之ニ因テ諸多ノ實害ヲ生スルノ危險アリ、若シ印影論者ノ如ク印類ノ偽造ハ未タ信用ヲ害スルニ至ラサルカ故ニ罪ト成ラストセハ假令印影ヲ偽造スルモ未タ之ヲ行使セサルニ於テハ猶之ヲ處罰ス可ラスト云フ論結ヲ生セン故ニ此理由ハ未タ以テ印類說ヲ覆スニ足ラス(三)舊刑法ニ於テハ印類ヲ偽造シタルヲ以テ偽印罪ナリトシタルニ新刑法ニ於テ

特ニ之ヲ改メタリト見ルヘキ沿革ナシトノ數點ニ在ルヘク、印影說ノ根據トスル所ハ(一)信用ヲ害スルハ印課ニ非ラスシテ印影ナリ(二)若シ印課說ノ如ク印影ヲ含マサルモノトスレハ印課ヲ製造スルコトナク單ニ印影ノミヲ描出シタル場合ノ如キ、明ニ印課ヲ不正ニ使用シタル場合ト異ナラサルニ之ヲ無罪トセサル可ラサルニ至リ甚タ不當ノ結果ヲ見ルト、(三)新法ニ於テハ印章偽造ヲ署名偽造ト同様ニ處罰シタルニ由リテ觀レハ立法ノ趣旨ハ印影ノ保護ニ在リト云フノ數點ニアリテ二說孰レモ長短アリ是ニ於テカ判例ノ如キ折衷シタル印課兼印影說生ス、此說ノ根據トスル所ハ(一)本法ハ舊刑法ノ如ク法文上影蹟又ハ印影ナル文字ヲ用ヒサルカ故ニ印章偽造トハ印課ト印影トヲ區別セス、蓋シ行使ノ目的ヲ以テ印課ヲ偽造シ未タ印影ヲ現出セサル場合ニ於テモ亦印課ヲ用ヒスシテ單ニ筆寫其他ノ方法ニ因リ印影ノミヲ偽造シタル場合ニ於テモ同様ニ一般信用社會ニ危險アルモノトシテ處罰スルニ足リ、(二)又解釋上法文ニ(第百五十九條第二項)印章ヲ押捺シタル場合ハ印課ヲ押シ若クハ印影ヲ捺シタルモノト稱スルコトヲ得ルト云フノ二點ニ在リ而シテ此三說ハ唯理論上ノ争ニ非ラスシテ實際上大ニ其結果ヲ異ニス、即チ印課說ニ從ヘハ印課ヲ製造スルコトナクシテ單ニ印影ヲ描出シタルニ止

マルトキハ罪ト成ラサルヘク、印影説ニ從ヘハ印課ヲ偽造スルモ未タ印影ヲ顯出セサルトキハ猶ホ偽印罪ノ豫備ト見ルヘク、印課印影説ニ從ヘハ其孰レノ場合モ偽印罪トシテ處分スヘキナリ、予輩ハ第三説ヲ贊セントス、

六、署名ナル語ハ既ニ他ノ法律ニ於テモ使用セラレタル所ナリ、即チ署名トハ法律關係アル事實ヲ證明スル爲メニ記載セラレタル證明者ノ名義ニシテ戶籍上ノ氏名ナルト雅號ナルト將タ又商號屋號ヲ含ムナルトヲ區別セス、名義主自ラ記載スルコトヲ要スルヤ(自署)否ヤニ付テ議論アルヘシト雖モ既ニ他ノ法律例セハ商法、訴訟法ニ於ケル所謂署名ハ自署ナルコトヲ要スルト、署名カ證明力ヲ有スルモノトシテ法律力之ヲ印章ト同様ニ保護シタルトニ由リテ觀レハ本條ニ所謂署名モ亦自署タルコトヲ要スルモノナリト解スルヲ相當ナリト信ス、從テ印刷シタル記名ヲ包含セサルモノトス、但シ反對説アルヘキコト勿論ナリ、

七、予輩ハ既ニ本法ニ所謂署名ヲ自署ナリト解スル當然ノ結果トシテ自署能力ナキ法人又ハ人格ナキ公務所ニ對シテハ署名偽造ナル問題ヲ惹起セストノ論結ヲ生ス、然レトモ自署能力アルモノニ對シテハ其代理資格ヲ冒シタル場合例セハ甲某代理人乙某ト記載シタル署名ハ即チ法律上本人タル甲某ノ署名ナリト云ヒ

得ヘキヲ以テ乙某ハ署名偽造犯人トシテ其罪責ニ任セサル可ラサルモノトス此點ニ付テハ我大審院カ最近ニ判示スル所タリ、

八、本章規定ハ屬人主義及ヒ保護主義ニ關シ適用アリ、故ニ帝國外ニ於テ犯サレタル場合ニ於テモ亦處罰セラルヘシ(刑法第二條第七號、同第三條第四號參照)

第六十四條 行使ノ目的ヲ以テ御璽、國璽又ハ御名ヲ偽造シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス、

御璽、國璽又ハ御名ヲ不正ニ使用シ又ハ偽造シタル御璽、國璽又ハ御名ヲ使用シタル者亦同シ、

本條ハ御璽、國璽又ハ御名ヲ偽造シ又ハ使用スル罪ヲ規定ス(舊刑法第九十五條) 第一項、本項ハ御璽、國璽又ハ御名ヲ偽造シタル罪ノ規定ニシテ其成立要件ト處分トハ次ノ如シ、

一、成立要件 本項ノ罪ハ三ケノ要件ヨリ成ル、即チ(一)目的物ハ御璽、國璽又ハ御名ナルコト、(二)偽造シタルコト、(三)行使ハ目的ニ出テタルコト之ナリ而シテ是等要件ニ關シテハ前來說明シタル所ヲ參酌セハ自ラ明白ナルヘキヲ以テ茲ニ之ヲ再說セス、

二、處分 本罪ヲ犯シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス、目的物重要ナルカ故ニ

其科刑ノ重キコト勿論ナリ、
第二項 本項ハ真正ナル御璽國璽又ハ御名ノ不正使用及ヒ偽造ニ係ル御璽國璽又ハ御名ヲ使用シタル罪ノ規定ニシテ其前段ト後段トニヨリ其要素ヲ異ニス、
 一、成立要件 本項前段ノ罪ハ、(一)目的物ハ真正ナル御璽國璽又ハ御名ナルコト、(二)不正ニ之ヲ使用シタルコトノ二要件ヨリ成リ後段ノ罪ハ、(一)目的物ハ偽造ニ係ル御璽國璽又ハ御名ナルコト、(二)使用シタルコトノ二要件ヨリ成ル、是等要件モ既ニ前述シタル所ヲ參酌シテ略ホ之ヲ知リ得ヘキヲ以テ茲ニハ其特殊ナル點ニ付テノミ一言スルニ止メン、

印章ハ使用トハ單ニ押捺シテ印影ヲ顯出セシメタルノミニテハ足ラス其押捺シタル印影ヲ其用法ニ從テ使用シタルコトヲ要ス、此點ハ印類說ニアリテハ特ニ注意スヘキコトニ屬ス、即チ印類ヲ偽造シ之ヲ押捺スルモ未タ所謂偽印使用ニアラス同様ニ真正ナル他人ノ印類ヲ盜捺スルモ未タ所謂盜用ニ非ラス、其押捺シタルモノヲ真正ナル印影トシテ使用シタルヲ俟テ茲ニ初メテ所謂印章ノ使用アリトナス之レ判例ノ是認スル所ナリ(但シ反對說アリ)
 不正ハ使用トハ舊刑法ニ所謂盜用ト云フニ同シク要スルニ權限ナクシテ他人ノ

真正ナル印章ヲ使用スルノ義ナリ、故ニ犯人自ラ擅ニ押捺シタル場合ハ勿論印主自ラ押捺シタルモノニ係ルト雖モ之ヲ其目的ノ範圍外ニ超逸シテ使用シタル場合ヲモ含ム故ニ例セハ委任狀ナリトシテ白紙ニ捺印セシメタル後擅ニ之ヲ借用證ニ變更作成スルカ如キハ不正使用ナリト論スルヲ妨ケサルカ如シ
二、處分 本罪ヲ犯シタル者ハ前項ノ罪ニ同シク二年以上ノ有期懲役ニ處ス、蓋シ其危害偽印シタルニ異ナルコトナケレハナリ、

第六十五條 行使ノ目的ヲ以テ公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ偽造シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス、
 公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ不正ニ使用シ又ハ偽造シタル公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用シタル者亦同シ

本條ハ公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ偽造シ又ハ真正ナル公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ不正ニ使用シ又ハ偽造ニ係ル公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用シタル罪ノ規定ナリ(舊刑法第九十五條明治二十三年法律第百號)

第一項 本項ハ公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ偽造シタル罪ノ規定ニシテ其成立要件ト處分トハ次ノ如シ、

一、成立要件、本項ノ罪ハ三個ノ要件ヨリ成ル、即チ(一)目的物ハ公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ナルコト、(二)偽造シタルコト、(三)行使ノ目的ヲ以テシタルコト是ナリ

第一要件、目的物ハ公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ナルコト、公務所ニ署名ナキコト本章冒頭ニ述ヘタルカ如シ從テ本罪ノ目的物ハ公務所ノ印章又ハ公務員ノ署名若クハ印章ノ三者ニ限ル、公務所ノ印章トハ公務所タルコトヲ顯ハスヘキ印ニシテ印文ニ何々官廳ノ印ト刻シアルヲ通例トスト雖モ茲ニ所謂公務所ノ印章トハ極メテ廣義ニ解スヘキモノナルカ故ニ管ニ所謂應印ノミニ限ラレス苟クモ公務所ノ印章トシテ使用セラルヘキモノハ一切之ヲ包含スルモノトス從テ夫ノ郵便局ノ日附印若クハ官署ノ契印ハ勿論官署ノ名稱等ニ多少ノ相違アルモ苟クモ人ヲシテ官署ノ印章ナリト誤信セシムルニ足ル以上ハ本罪ノ目的物タルヲ妨ケス、公務員ノ印章トハ公務員カ公用ニ供用スル所ノ印章ノ義ニシテ印章自體ニ於テ公務員カ使用スヘキ印章タルコトヲ示スヘキモノタルコトヲ要スト解ス故ニ縱令公用ニ使用スヘキ公務員ノ印章ナリト雖モ其自體ニ於テ公務員ノ印章タルコトヲ示サ、ルモノハ茲ニ所謂公務員ノ印

章ニ非ラス例セハ判事某ト刻シアル職印ハ所謂公務員ノ印章タルヘキコト勿論ナリト雖モ單ニ何某ト刻シアル認印ハ縱令之ヲ公文書ニ押捺シアルモ之レカ爲メニ所謂公務員ノ印章ナリト云フヲ得サルカ如シ、此點ニ付テハ我大審院ノ是認スル所タリ、公務員ノ署名トハ公務員タルコトヲ表示スヘキ官職氏名ヲ謂フ例セハ判事某、檢事某ト云フカ如シ故ニ縱令現實ニ或ル官職ヲ帶ヘル者ノ署名ナリト雖モ唯何某トノミニテ其官職ヲ示サ、ルトキハ茲ニ所謂公務員ノ署名アリト云フヲ得サルナリ、
第二要件、偽造シタルコト、
第三要件、行使ハ目的ヲ以テシタルコト、
右二要件ニ付テハ既ニ前述シタル所ニ同シケレハ略ス、
二、處分、本項ノ罪ヲ犯シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス、本罪ハ舊刑法ニ於テハ所謂重罪ニシテ科刑輕懲役六年ヲ下ルコトヲ得サリシニ本法ハ五年以下ノ懲役トシタルハ頗ル輕クセラレタルヲ見ルナリ、
第二項、本項ハ公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ノ不正使用又ハ偽造ニ係ル公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用シタル罪ノ規定ニシテ其成立要件ト

處分トハ次ノ如シ

一、成立要件 本項ノ罪ハ前段ト後段トニヨリ其罪素ヲ異ニス即チ前段ノ罪ハ(一)目的物ハ真正ナル公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ナルコト(二)不正ニ之ヲ使用シタルコトノ二要件ヨリ成リ後段ノ罪ハ(一)目的物ハ偽造シタル公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ナルコト(二)之ヲ使用シタルコトハ二要件ヨリ成リ其趣旨ハ前條第二項等ニ同シケレハ別ニ説明ヲ要セス、

二、處分 本項ノ罪ヲ犯シタル者ハ前項ノ偽造罪ニ同シク三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス、

第六十六條

行使ノ目的ヲ以テ公務所ノ記號ヲ偽造シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス、

公務所ノ記號ヲ不正ニ使用シ又ハ偽造シタル公務所ノ記號ヲ使用シタル者亦同シ、

本條ハ公務所ノ記號ヲ偽造シ又ハ不正ニ使用シ又ハ偽造ニ係ル公務所ノ記號ヲ使用シタル罪ノ規定ナリ舊刑法第九十六條第九十七條明治二十三年法律第百號)

第一項 本項ハ公務所ノ記號ヲ偽造シタル場合ノ規定ニシテ其成立要件ト處分

トハ次ノ如シ

一、成立要件 本項ノ罪ハ三箇ノ要件ヨリ成ル即チ(一)目的物ハ公務所ノ記號ナルコト(二)偽造シタルコト(三)行使ノ目的ヲ以テシタルコト之ナリ而シテ其後ノ二要件ニ關シテハ別ニ説明ヲ加フヘキモノナキヲ以テ專ラ第一要件ニ付キ説明スヘシ

公務所ノ記號トハ舊刑法第九十六條第一項ニ所謂產物商品等ニ押用スル官ノ記號印章及ヒ同條第二項ニ所謂書籍什物等ニ押用スル官ノ記號印章ニ該當ス學者或ハ記號ト印章トヲ區別シ二者ノ區別ハ文字ヲ以テ表明セラルト否トニ在リトシ即チ發音シ得ヘキ文字ヲ以テ表明セラレタルモノハ印章ニシテ符號ヲ以テ表明セラレタルモノハ記號ナリト説明スルモノアリト雖モ非ナリ所謂記號モ亦廣義ニ於ケル印章ノ一種ニシテ所謂印章狹義トハ文書ニ押捺シテ其作成名義ヲ證明スル用ヲ爲スモノ別言スレハ文書ノ作成名義者其自體公務所ヲ代表スルモノヲ謂ヒ記號トハ產物商品等ニ押用シテ其產地品質分量等ヲ證明シ若クハ書籍什物等ニ押用シテ其所屬ヲ證明スル用ヲ爲スモノ別言スレハ之ヲ押用スル目的ハ公務所自體ヲ代表スル意味ニ非ラスシテ其押用セラレタル物件ニ關シ或ル

事項ヲ證明スルモノヲ指稱ス例セハ拂下木材ニ押用スル極印、蠶種検査所ノ検査
證ト刻シアル印、帝國圖書館ノ圖書ト刻シアル印、諸什物ニ押用スル東京地方裁判
所ト刻シアル印等ノ如キ是ナリ
猶以上ノ説明ヲ補足センカ爲メ本條ニ關スル最新ノ判例一二ヲ示シ參考ニ資セ
ントス

(一) 税關ノ日附印ト雖モ圓形ノ輪廓内ニ年月日ノ數字ヲ西洋數字ニテ現ハシタ
ルノミニ止マリ該官署ヲ表示スル文字ナキモノハ印章ニ非スシテ記號ナリ
(二) 稅務監督局織物査定濟ノ證ナル紙票ハ當局官吏カ納稅濟又ハ移出許可ノ證
トシテ使用スヘキモノナルモ毛織物以外ノ織物ニ之ヲ貼用シ證印ニ代用ス
ルモノナレハ刑法第六十六條ニ所謂官ノ記號ナリトス

二、處分 本項ノ罪ヲ犯シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

第二項 本項ハ真正ナル公務所ノ記號ヲ不正ニ使用シ又ハ偽造ニ係ル公務所ノ
記號ヲ使用シタル罪ノ規定ニシテ其成立要件ト處分トハ次ノ如シ

一、成立要件、本項ノ罪ハ前段ト後段トニヨリ其罪素ヲ異ニス即チ前段ノ罪ハ(一)
目的物ハ真正ナル公務所ハ記號ナルコト、(二)不正ニ使用シタルコトノ二要件ヨリ

成リ後段ノ罪ハ(一)目的物ハ偽造ニ係ル公務所ハ記號ナルコト、(二)使用シタルコト
ノ二要件ヨリ成ル而シテ是等要件ニ關シテハ前來說述シタル所ヲ參酌スレハ自
ラ理解セラルヘキヲ以テ特ニ説明ヲ與ヘス

二、處分 本項ノ罪ヲ犯シタル者ハ第一項ノ偽造罪ニ同シク三年以下ノ懲役ニ處
ス

第六十七條 行使ノ目的ヲ以テ他人ノ印章若クハ署名ヲ偽造シタル者ハ三年以下
ノ懲役ニ處ス
他人ノ印章若クハ署名ヲ不正ニ使用シ又ハ偽造シタル印章若クハ署名ヲ使用シタ
ル者亦同シ

本條ハ他人ノ私印若クハ署名ノ偽造、其使用及ヒ不正使用ニ關スル規定ナリ(舊刑
法第百八條)

第一項 本項ハ他人ノ印章若クハ署名偽造ノ規定ニシテ其成立要件ト處分トハ
次ノ如シ

一、成立要件 本項ノ罪ハ(一)目的物ハ他人ハ印章若クハ署名ナルコト、(二)偽造シタ
ルコト、(三)行使ハ目的ヲ以テシタルコトノ三要件ヨリ成ル而シテ是等要件ノ意義
ニ關シテハ前來說示シタル所ニヨリ明白ナル可キカ故ニ之ヲ略シ左ニ二三ノ注

意スヘキ判例ヲ示シ以テ説明ヲ補ハントス

- (一) 私印トハ私人ニ屬スル印章ナリ其印主カ自然人ナルト法人ナルトヲ問ハサルハ勿論個人ノ集合體ナルトキト雖モ亦私印タルコトヲ妨ケス
- (二) 私印ハ私人ノ名義ヲ表明スルコトヲ要セス從テ「相濟」ナル印章モ仕切判モ亦私印ナリ
- (三) 私印偽造罪ハ他人ノ印章ト誤信スヘキ印願ヲ新ニ作出スルモノナルカ故ニ有合印ヲ使用スルハ罪ト成ラス
- (四) 私印偽造ハ他人ノ眞印ニ模擬スルコトヲ要セス第三者ヲシテ眞印ナリト誤信セシムヘキ程度ニ達スルヲ以テ足ル
- (五) 藥品ヲ以テ紙ニ押捺シアル印影ヲ白紙ニ寫取り之ヲ他ノ證書ニ轉寫シタル所爲ハ私印ノ盜用罪ニシテ偽造罪ニ非ラス
- (六) 華印モ亦捺印ノ一種ナリ從テ之ヲ模擬スレハ私印偽造罪ヲ構成スヘキコト勿論ナリ

二、處分 本項ノ罪ヲ犯シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス第百六十四條又ハ第百六十五條ノ目的物ニ比シ輕微ナルヲ以テ刑罰モ亦輕キコト蓋シ至當ナリ

第二項 本項ハ眞正ナル他人ノ印章若クハ署名ヲ不正ニ使用シ又ハ偽造ニ係ル他人ノ印章若クハ署名ヲ使用シタル罪ノ規定ニシテ是等ノ所爲カ他ノ犯罪行爲(例セハ文書偽造罪)中ニ包含處罰セラル、コトナク獨立シテ一ノ犯罪ヲ構成スル場合ニ限り適用セラルヘキモノトス

一、成立要件 本項前段ノ罪ハ(一)目的物ハ眞正ナル他人ノ印章若クハ署名ナルコト、(二)不正ニ使用シタルコトノ二要件ヨリ成リ後段ノ罪ハ(一)目的物ハ偽造ニ係ル他人ノ印章若クハ署名ナルコト、(二)使用シタルコトノ二要件ヨリ成ル其趣旨前數條ノ第二項ト同シケレハ特ニ茲ニ之ヲ再說スルノ要ナカルヘキヲ以テ之ヲ略シ左ニ本罪ニ關スル判例ノ二三ヲ示シ以テ説明ニ代ヘントス

- (一) 或ル事項ヲ限り委任シタル捺印アル委任狀ヲ變更シテ其目的以外ニ使用シタルトキハ文書變造罪ト共ニ私印ノ盜用罪ヲ構成スルモノトス
- (二) 數人ノ私印押捺シアル一ツノ文書ヲ變改シテ一度行使シタル場合ニ於テハ數ケノ私印盜用罪ニ非ラスシテ集合シタル數ケノ私印ニ對スル一盜用罪アルニ過キス從テ之ヲ數罪ニ問擬シタルハ失當ナリトス
- (三) 印影盜用罪ハ印主ノ承諾ナクシテ其印影ヲ印主ノ名義ニ於テ濫用スルニヨ

リテ成立スルモノナレハ同氏名ナル甲乙兩者ノ存スル場合ニ甲者ノ印影ヲ乙者ノ印影トシテ濫用スルモ乙者ハ自己ノ使用シ來レル印影ヲ濫用セラレタル事實ナケレハ乙者ノ印影盜用罪ノ成立セサルハ勿論甲者ハ自己ノ名義ニ於テ其印影ヲ濫用セラレタルコトナク從テ之カ爲メニ何等ノ害ヲ蒙ルコトナキヲ以テ又甲者ノ印影盜用罪ヲ構成スルコトナキモノトス

(四) 印影盜用罪ハ承諾ナキ場合ヲモ包含ス故ニ所有者ノ目前ニ於テ押捺スルモ承諾以外ニ使用スレハ私印盜用罪ノ制裁ヲ免レス

(五) 印主自ラ押捺シタル印影ト雖モ他人ニ於テ擅ニ之ヲ使用シタルトキハ私印盜用罪ヲ構成スヘキモノトス

二、處分 本項ノ罪ヲ犯シタル者モ亦第一項ノ偽造罪ニ同シク三年以下ノ懲役ニ處ス

第六十八條 第六十四條第二項、第六十五條第二項、第六十六條第二項及ヒ前條第二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

本條ハ印章偽造罪中ノ未遂ヲ處罰スヘキコトヲ規定ス(舊刑法第二百十一條)

印章偽造罪中ニアリテ未遂ヲ處罰スヘキ場合ハ(一) 御璽、國璽又ハ御名ノ不正使用

及ヒ偽造ニ係ル如上ノ目的物ノ使用(第六十四條第二項)(二) 公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ノ不正使用及ヒ偽造ニ係ル如上ノ目的物ノ使用(第六十五條第二項)(三) 公務所ノ記號ノ不正使用及ヒ偽造ニ係ル公務所ノ記號ノ使用(第六十六條第二項)及ヒ(四) 他人ノ印章若クハ署名ノ不正使用及ヒ偽造ニ係ル如上ノ目的物ノ使用(第六十七條第二項)ノ四ニシテ其他ニ及ハス蓋シ印章若クハ署名ヲ不正ニ使用シ又ハ偽造ニ係ル印章若クハ署名ヲ使用シタル罪ハ其未遂ナル場合ニ在リテモ猶之ヲ罰スヘキ必要アリト雖モ單ニ偽造ノ場合ニ於ケル未遂ハ之ヲ罰スルノ必要ナシト認メ之ヲ除外シタルナリ

第二十章 偽證ノ罪

一、凡ソ裁判ノ眞實ニ適合セサル可ラサルコトハ多言ヲ要セス然リ而シテ裁判ハ諸般ノ證憑ニ據ルヘキコト原則タリ故ニ其證憑ニシテ虛構ナランカ裁判ノ眞正ハ得テ望ム可ラス是ニ於テ法律ハ裁判ノ眞正ヲ確保スル爲メニ一般國民ニ對シ證人タルノ義務ヲ負擔セシムルト同時ニ偽證ニ對スル罰則ヲ設ク是レ本章規定アル所以ニシテ諸國ノ立法例ノ軌ヲ一ニスル所タリ

二、裁判ノ證據ハ一ニシテ足ラス證人ノ供述、鑑定人ノ鑑定、關係者ノ供述等其一ナリ、故ニ法律ハ先ツ第六十九條及ヒ第七十條ニ於テ證人カ不實ナル陳述ヲ爲シタル場合ヲ規定シ第七十一條ニ於テ鑑定人又ハ通事カ虛偽ノ鑑定又ハ通譯ヲ爲シタル場合ニ及ホシタリ

三、偽證罪トシテ處罰スルニハ法律ニ依リ宣誓シタル證人、鑑定人又ハ通事タルコトヲ要ス、蓋シ國家ハ其供述若クハ鑑定ノ眞實ナランコトヲ確保スル爲メニ宣誓ヲ命ス然ルニ此宣誓ニ背キ不實ノ供述若クハ鑑定ヲ爲シタルトキハ國家ハ之ヲ認容スルコトヲ得ス或ル立法例ニアリテハ宣誓ヲ用ヒサル者ニ對シテモ猶ホ刑罰ヲ科スルモノアリト雖モ本法ハ之ヲ採ラス從テ宣誓ヲ用ヒサル者ニ對シテハ偽證罪成立セサルナリ

四、舊刑法ハ其第二篇第四章第六節ニ於テ本章ニ相當スル規定ヲ設ケアリシカ其規定ノ内容ニ至リテハ二者頗ル相異ル左ニ其主要ナル點ヲ舉示セン

(イ) 舊刑法ニ於テハ刑事裁判ニ關シ偽證ヲ爲シタル者ト民事、商事又ハ行政裁判ニ關シ偽證ヲ爲シタル者トヲ區別シ其刑ヲ異ニシタリト雖モ本法ハ之カ區別ヲ認メス蓋シ偽證ハ裁判ヲシテ錯誤ニ陷ラシメントスルノ危險ヲ處罰スルニ

アルヲ以テ之ヲ刑事ト其他ノ裁判トニ區別シ其刑ヲ輕重スヘキモノニ非ラサルヲ以テナリ(舊刑法第二百十八條第二百二十三條參照)

(ロ) 舊刑法ニ於テハ偽證ノ目的カ曲庇ニ出テタルト陷害ニ出テタルトヲ區別シ其刑ヲ輕重シタリ、是レ一理ナキニ非スト雖モ其誤判ニ陷ラシムヘキ危險ハ二者一ナルノミナラス此ノ如キ事情ハ一ニ裁判官ノ斟酌ニ任スヘキコト至當ナルヲ以テ本法ハ此區別ヲ認メス(舊刑法第二百十八條、第二百十九條、第二百二十條參照)

(ハ) 舊刑法ニ於テハ重罪、輕罪、違警罪ノ區別ニ從テ偽證者ノ刑ニ輕重ノ差等ヲ設ケタリシカ本法ハ既ニ罪ニ對スル此區別ヲ認メサルカ故ニ隨テ其偽證シタル事件ノ如何ニ因リテ法律上刑ヲ區別セス包括的ノ法定刑ヲ設ケ裁判所ヲシテ犯情ニ照ラシ適宜處斷セシムルコトトシタリ(舊刑法第二百二十條參照)

(ニ) 舊刑法ニ於テハ偽證ノ爲メ被告人刑ニ處セラレタル後ニ至リ偽證發覺シタルトキハ特ニ偽證者ニ對スル刑ヲ加重シテ偽證者ヲ反坐ノ刑ニ處スルコト、シタリ然レトモ此ノ如キハ古昔ノ復讐主義ニ基ツキタル遺物ナルノミナラス往々不當ノ結果ヲ生スルコトアルヘキヲ以テ本法ハ之ヲ削除シタリ(舊刑法第

二百二十一條、第二百二十二條參照)

(ホ) 舊刑法ニ於テハ賄賂其他ノ方法ヲ以テ人ニ囑託シテ偽證又ハ詐偽ノ鑑定、通事ヲ爲サシメタル罪ヲ一特別罪トシテ規定シタリシモ此ノ如キハ總則教唆ノ例ニ照ラシ處罰シ得ヘキカ故ニ本法ハ之ヲ總則ニ讓ルコト、シテ削除シタリ (舊刑法第二百二十二條參照)

以下各本條ニ付キ大略其意義ヲ釋明スヘシ

第六十九條 法律ニ依リ宣誓シタル證人虛偽ノ陳述ヲ爲シタルトキハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス

本條ハ偽證罪ニ關スル規定ナリ(舊刑法第二百十八條乃至第二百二十二條)

一、成立要件 本條ノ罪ハ三箇ノ要件ヨリ成立ス即チ(一)主體ハ證人タルコト、(二)法律ニ依リ宣誓シタルコト、(三)虛偽ノ陳述ヲ爲シタルコト是ナリ左ニ之ヲ分説スヘシ

第一要件 主體ハ證人タルコト、本罪ノ主體ハ所謂證人ニ限ル一般ニ證人ト云ヘハ係爭事實ニ關シ自己ノ見聞シタル經驗即チ事實ヲ申述スルモノヲ謂フトナスヲ通説トス此意味ニ於ケル證人中ニハ所謂事實參考人モ亦之ヲ包含ス

可シト雖モ本條ニ所謂證人トハ事實參考人ヲ除外シタル狹義ニ於ケル證人ヲ指稱ス即チ法律ハ證人タルヘキ資格ヲ消極的ニ制限ス學者ノ所謂證人能力之ナリ(刑事訴訟法第二百二十三條、第二百二十四條、民事訴訟法第三百十條等參照)故ニ裁判所ニ於テハ證人ヲ訊問スルニ先チ其資格如何ヲ問查スヘク若シ此條件ヲ具備セサルトキハ證人トシテ訊問スルヲ得ス唯事實參考人トシテ其供述ヲ聽クヲ得ヘキノミ從テ此場合ニ於テハ縱令虛偽ノ申立アルモ本罪ヲ構成セス然ルニ被訊問者カ其資格ヲ詐ハリ宣誓シタル場合ニ於テハ法律ハ之ヲ證人トシテ認ムルヤ否ヤ換言スレハ偽證ノ制裁ヲ受クヘキヤ否ヤ本問題ニ關シ我大審院ハ從來數々證人タル資格ノ有無如何ニ拘ハラズ證人トシテ適式ニ宣誓ノ上ニ不實ノ陳述ヲ爲シタル以上ハ偽證罪成立スト判示シタリト雖モ多數說ハ場合ヲ別チテ(一)全ク精神ノ不完全ニ因ル證人無能力ノモノ誤テ宣誓シタル場合ト(二)精神ノ發達十分ナルモ當事者トノ關係上宣誓スル資格ナキ者カ故意ニ宣誓シタル場合トノ二トナシ後者ノ場合ニ於テハ偽證罪ノ成立ヲ肯定スト雖モ前者ノ場合ニ於テ之カ成立ヲ否定ス

爰ニ本章冒頭ニ於テ一言シタルカ如ク法律ハ一般國民ニ對シ證人タルノ義務

ヲ負擔セシム是レ學者ノ所謂證人義務ニシテ之ニ背クモノニ對シテハ法ニ制
裁アリ(刑事訴訟法第一百八條、民事訴訟法第二百九十四條參照)即チ證人義務ハ
例外ナキ一般的義務ナリ法律ハ或ル特定ノ場合ニ於テハ證人ニ證言拒否權ヲ
認ムト雖モ證言ヲ拒否スルハ證人トシテ裁判所ニ出頭シタル上ノ問題ニ屬ス
ルヲ以テ之アルカ爲メニ證人トシテ裁判所ニ出頭スヘキ義務ヲモ免レ得ルモ
ノナリト云フヲ得ス

第二要件 法律ニ依リ宣誓シタルコト 本罪ノ主體タルヘキ證人ハ訊問ニ對
シ陳述ヲ爲スニ先チ式ニ從ヒ宣誓セサル可ラス是レ法律カ其證言ノ真正ナラ
ンコトヲ確保スル爲メニ命スル所タルヲ以テ證人宣誓ヲ肯セサルトキハ法ニ
制裁アリ(刑事訴訟法第二百六條、民事訴訟法第三百九條參照)故ニ名ハ證人ト
云フト雖モ宣誓ヲ用ヒサルモノハ茲ニ所謂證人ニ非ラス從テ此種ノ證人ニ對
シテハ偽證罪成立セス例セハ急速ヲ要スヘキ現行犯アルニ際シ檢事カ假豫審
處分ヲ爲ス場合ニアリテ宣誓ヲ用ヒスシテ訊問シタル證人ノ如シ(刑事訴訟法
第四百四條)即チ宣誓ハ偽證罪ノ必要條件ナリ而シテ宣誓シタル以上ハ其裁
判所ニ於ケルト出張先ニ於ケルト其他民事商事其他ノ裁判ニ關スルモノナル

トヲ問ハス

宣誓ニ關シ如何ナル方式ヲ採ルヘキカハ各國情ニヨリ決セサル可ラス歐米諸
國ニ於テハ神ニ誓フヲ以テ式トナス(我邦古代ニ之ヲ見タリ方今我帝國裁判所
ニ於テハ良心ニ從ヒ眞實ヲ述ヘ何事ヲモ默秘セス又何事ヲモ附加セサルコト
ヲ誓フト記載シアル書面ニ署名捺印スルヲ以テ式トナス)刑事訴訟法第二百二
十二條、民事訴訟法第三百七條、陸軍治罪法第六十三條、海軍治罪法第六十八條、會
計検査官懲戒法第三十條特許法第三十條等參照)

十等參照)

第三要件 虛偽ハ陳述ヲ爲シタルコト 虛偽ノ陳述トハ係爭事實ニ關シ自己
ノ經驗シタル事實ニ相反スル申立ヲ爲スヲ謂フ換言スレハ會テ自己ノ見聞シ
タル所ノ事實ナルニ拘ハラヌ見聞シタルコトナキカ如ク申立テ又ハ全ク見聞
シタル事實ナラサルニ拘ハラヌ實際見聞シタルカ如ク申立ツルヲ謂フ而シテ
其所謂虛偽ト云フハ主觀的ナルヲ以テ足ルカ將タ又客觀的ナルコトヲ要スル
カニ付テハ學說一致セスト雖モ實例ハ主觀說ヲ採用シタルコトヲ示ス猶ホ此
點ニ關シテハ次ニ引用セル數點ヲ參酌スレハ略ホ之ヲ了解シ得ヘシ

- (一) 不知ノ申立ヲ爲スハ偽證ナリト雖モ一切黙シテ何事ヲモ申立テサルトキハ證言拒否ニシテ所謂虛偽ノ申立ニ非ラス
- (二) 申立カ偶事實ノ真相ニ合致セル場合ナリト雖モ見聞セサリシコトヲ見聞シタリト陳述スルトキハ所謂虛偽ノ申立ヲ爲シタルモノトス
- (三) 陳述ノ眞偽ハ一言一句ニ付テ之ヲ決定スヘキモノニ非ラス訊問開始ノ時ヨリ終結ニ至ルマテヲ包括的ニ觀察セサル可ラス從テ訊問終決前ニ爲シタル訂正ハ偽證罪ノ成立ヲ阻却スヘント雖モ一旦訊問終結シタル以上ハ茲ニ偽證罪成立スルヲ以テ其以後ニ至リテ再ヒ必要アリテ證人トシテ訊問セラシムル、ニ方リ前日ノ供述ニ對シ訂正ヲ加ヘントスルモ許サス
- (四) 裁判所カ證人ヲ喚問スルニ方リテハ其豫定訊問事項ニ拘束セラレズ從テ苟クモ訊問ニ對シテ虛偽ノ陳述アリタル以上ハ其豫定訊問事項ニ關スルト否トヲ區別セスシテ偽證罪ハ成立スヘキモノタリ
- (五) 虛偽ノ申立アリタル以上ハ裁判所カ之ヲ信シタルト否トハ偽證罪ノ成立ニ影響ナキモノトス
- 六) 證人カ虛偽ノ陳述ヲ爲シタル以上ハ茲ニ偽證罪ハ成立シ其原因ノ如何ハ

犯罪ヲ阻却セス但シ情狀ニ關スルコト勿論ナリ

二、處分 本罪ヲ犯シタル者ハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス蓋シ既ニ前述セルカ如ク本法ハ舊刑法ニ於ケルカ如ク被告事件ノ如何ニ依リ其場合ヲ區別セサリシヲ以テ刑罰モ亦自ラ包括的ニ其範圍ヲ擴大シ以テ各場合ノ犯情ニ應シ裁判所ヲシテ適宜處斷セシメントシタルモノナリ

第七十條 前條ノ罪ヲ犯シタル者證言シタル事件ノ裁判確定前又ハ懲戒處分前自白シタルトキハ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

本條ハ偽證罪ノ自白ニ關スル規定ナリ偽證ヲ處罰スルハ畢竟裁判ヲシテ誤謬ニ陷ラシムル虞アルヲ以テナリ故ニ偽證者一旦誤テ偽證スト雖モ其事件ノ裁判前又ハ懲戒處分前ニ於テ自白シタルトキハ爲メニ誤判ニ陷ラシムヘキ虞ハ全然除去セラレタルモノト云ハサル可ラス是レ法律カ明文ヲ以テ其害ヲ未然ニ防止セントシタル所以ナリ

一、成立要件 本條規定ノ適用ヲ受クルニハ二箇ノ要件ヲ具備セサル可ラス即一、偽證シタル事件ノ裁判確定前又ハ懲戒處分前ナルコト(二)自白シタルコト是ナリ

第一要件 偽證シタル事件ノ裁判確定前又ハ懲戒處分前ナルコト 本條規定

ノ趣旨ハ裁判ニ及ホスヘキ偽證ノ實害ヲ未發ニ防止セントスルニ在ルヲ以テ
證言シタル事件ノ裁判確定前又ハ懲戒處分前ニ非ラサレハ其目的ヲ達スルコ
トヲ得ス是レ本條件ノ必要アル所以ニシテ法文ニ特ニ懲戒處分前トアルハ偽
證ハ獨リ裁判所ニ對シテノミ爲スモノニ限ラサルニ由ルノミ

第二要件 自白シタルコト 自白トハ自己ノ犯罪事實ヲ裁判所其他相當官署
ニ對シ告白スルヲ謂フ舊刑法ニ於テハ事件ノ裁判宣告前ニ於テ自首シタル者
云々ト規定シアリテ自首ヲ要件トシタリシカ本法ハ之ヲ改メテ自白ヲ以テ足
レリトス故ニ偽證ノ事實發覺後官ノ推問ヲ受クルニ當リ其犯罪事實ヲ自陳ス
ルモ仍ホ本條ノ恩典ニ浴スルコトヲ得ヘキモノトス左レハ自白ハ自首ニ比シ
實害ヲ未然ニ防止スヘキ效果大ナルコト、ナル是レ本條修正ノ眼目タリ

二、處分 舊刑法ニ於テハ必ラス本刑ヲ免除シタルニ反シ本法ハ其刑ヲ減輕又ハ
免除スルコトヲ得トセリ即チ其刑ヲ減輕スヘキカ免除スヘキカ將タ又減輕若ク
ハ免除ノ孰レヲモ施サ、ルヘキカハ情狀ニ照ラシ事實承審官ノ決定スヘキコト
ニ屬ス

第七十一條 法律ニ依リ宣誓シタル鑑定人又ハ通事虛偽ノ鑑定又ハ通譯ヲ爲シタ

ルトキハ前二條ノ例ニ同シ

本條ハ鑑定人又ハ通事カ虛偽ノ鑑定又ハ通譯ヲ爲シタル場合ニ關スル規定ナリ
(舊刑法第二百二十四條)

一、成立要件 本罪ノ成立要件ヲ別チテ二トナス即チ、(一)犯罪ノ主體ハ鑑定人又ハ
通事ナルコト、(二)虛偽ノ鑑定又ハ通譯ヲ爲シタルコト是ナリ

第一要件 本罪ノ主體ハ鑑定人又ハ通事ナルコト 鑑定人トハ自己ノ有スル
特別ノ智識學術技術等ニヨリテ係爭事實ニ關シ自己ノ判斷意見ヲ爲スモノヲ
謂ヒ「通事」トハ裁判官ト被告人(若クハ證人參考人等ノ被訊問者)トノ間ニ仲介シ
テ兩者ノ意思ヲ相互ニ通達スルモノヲ謂フ即チ鑑定人ハ裁判官ノ補助機關ト
シテ觀ルヘク通譯ハ相互ノ通意機關ト觀ルヘシ二者用ハ異ナリト雖モ裁判ニ
影響スヘキコト同一ナルヲ以テ法律ハ其真正ヲ維持スル爲メニ偽證ニ同シク
制裁ヲ附シタリ

第二要件 虛偽ノ鑑定又ハ通譯ヲ爲シタルコト、虛偽ノ鑑定トハ義務ニ背キ
不公平不正實ナル判斷ヲ爲スノ義ニシテ口頭ニ由ルト書面ニ由ルトヲ問ハス
ト雖モ鑑定ハ鑑定人ノ判斷ナルヲ以テ實際上ニアリテハ果シテ故意ニ出テタ

ルヤ將タ又智能技術ノ拙劣ナルヨリ來レルヤハ不明ニ屬スルコト多シ虛偽ノ通譯ハ一方ノ表示シタルト異ナル思想ヲ故意ニ他方ニ通達スル義ナリ
二、處分 其處分ハ前二條ニ同シトアリ故ニ虛偽ノ鑑定又ハ通譯ヲ爲シタルトキハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處スヘク若シ事件ノ裁判確定前又ハ懲戒處分前自白シタルトキハ情狀ニ依リ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得ヘキナリ

第二十一章 誣告ノ罪

一、誣告トハ人ヲシテ刑事又ハ懲戒ノ處分ヲ受ケシムル目的ヲ以テ相當官署ニ對シ不實ノ申立ヲ爲スヲ謂フ即チ誣告ハ一面ヨリ觀察スレハ無辜ヲ罰スヘキ裁判若シクハ處分ヲ爲サシムヘキ虞アルモノニシテ之ヲ他面ヨリ觀察スレハ被誣告者ヲシテ不當ナル裁判若シクハ處分ヲ受ケシムル虞アリ故ニ舊刑法ニ於テハ之ヲ身體ニ對スル罪ノ一トシテ第三編第一章第十二節ニ規定シタリシカ本法ハ前章僞證ノ罪ノ直後ヲ承ケテ本章ニ規定シタル順序ヨリ考フレハ寧ロ主トシテ第一方面ヨリ觀察シタルモノナルヘシ
二、猶ホ本章規定ハ舊刑法ノ其レニ比シ左ノ二點ニ於テ修正セラレタルヲ見ル

(イ) 舊刑法ハ唯刑事ニ關シテノミ誣告罪ヲ認メタリシモ實際ノ行政上ノ處分ニ關シテモ亦之ヲ處罰スルノ必要アルヲ以テ本法ハ懲戒處分ニ關スル規定ヲ補足シタリ

(ロ) 舊刑法ハ被誣告者カ刑ニ處セラレタル場合ト否トヲ別テ其刑ヲ異ニシタリト雖トモ本法ハ僞證罪ノ場合ニ被告人カ刑ニ處セラレタルト否トニヨリ其規定ヲ別ツコトナク處罰ノ程度ハ一ニ裁判所ノ認定ニ任スルコト、シ之カ爲メニ刑期ノ範圍ヲ擴大シタルト同一理由ニ基ツキ本罪ニ付テモ亦之カ區別ヲ設ケス一ニ裁判所ノ自由裁量ニ一任スルコト、ナシタル結果從テ舊刑法第三百五十七條ニ相當スル規定ハ之ヲ削除シタリ

三、本章規定ハ第七十二條及ヒ第七十三條ノ二ヶ條ヨリ成リ其前條ニ於テハ誣告罪其自體ヲ規定シ次條ニ於テハ誣告者ノ自白ニ關スル特別例ヲ規定ス左ニ順次各本條ニ就キ説明ヲ試ムヘシ

第七十二條 人ヲシテ刑事又ハ懲戒ノ處分ヲ受ケシムル目的ヲ以テ虛偽ノ申告ヲ爲シタル者ハ第六十九條ノ例ニ同シ

本條ハ誣告罪ヲ規定シタルモノナリ(舊刑法第三百五十五條)

一、成立要件 本條ノ罪ノ成立要件ヲ別チテ二トナス即チ、(一)相當官署ニ對シ虛偽ノ申告ヲ爲シタルコト、(二)人ヲシテ刑事又ハ懲戒ノ處分ヲ受ケシムル目的ヲ以テシタルコト是ナリ

第一要件 相當官署ニ對シ、虛偽ハ、申告ヲ爲シタルコト、即チ刑事又ハ懲戒ノ處分ヲ爲シ得ル權限ヲ有スル官署ニ對シテ一定ノ眞實ナラサル事實ヲ申告スルコトヲ要ス更ニ之ヲ分析説明スレハ、(一)申告シタル事實ハ不實ナルコトヲ要ス、犯罪必罰ノ原則ヲ徹底センカ爲メニ國家ハ吾人ニ對シ一定ノ場合ニ於テハ犯罪アルコトヲ官ニ申告スルノ義務ヲ負擔セシム故ニ其申告シタル事實カ不實ナラサル限リハ罪トナラサルコト多言ヲ要セサルヘシ、(二)刑事又ハ懲戒ノ處分權ヲ有スル官署ニ對スルコトヲ要ス、即チ刑事ニ關シテハ檢事局又ハ司法警察官ニ、懲戒ニ關シテハ當該事項ニ付キ懲戒權ヲ有スル長官ニ對シ申告セサル可ラス從テ刑事ニ關シテ行政官署ニ對シ申告スルモ本條ニ所謂申告ニ非ラス、(三)自ラ進ンテ犯罪事實若クハ懲戒處分ヲ受クルニ足ルヘキ事實アリトシテ申告スルコトヲ要ス、故ニ官ヨリ推問セラレテ不實ノ申立ヲ爲シタルニ於テハ僞證罪ト成ルハ格別決シテ本罪タラス、(四)確定シタル事實ニ係ルコトヲ要ス、即チ不

實ノ申告ナリト雖モ單ニ彼レハ犯罪セリ、彼レハ行政上不當ノ行爲アリト思料スト云フカ如ク漠然タル事實ノ申告ハ未タ以テ所謂不實ノ申告アリト爲スコトヲ得ス如何ナル犯罪、如何ナル不當行爲ナルヤヲ明確ニ申告セサル可ラス、(五)申告ハ社會ニ存在スル特定人ニ對スルコトヲ要ス、蓋シ誣告ハ人ヲシテ刑事又ハ懲戒處分ヲ受ケシムル目的ナルヲ以テ社會ニ存在セサル人ニ對シテハ不可能ナルヘキコト勿論ニシテ又人ヲ特定セスシテ單ニ事實ノミヲ申告スルモ何人ヲ處分スヘキカ不明ニ屬スルヲ以テ結局誣告罪トシテ成立セス例セハ某官應中ニ賄賂ヲ收受シタルモノアリト云フカ如キ申告ハ其果シテ何人ニ對スルヤヲ知ルニ由ナキモノナレハ誣告罪ヲ構成セサルカ如シ然レトモ所謂特定人トハ必ラスシモ其住所、姓名等ヲ詳細ニ明示スルヲ要セス人相、特徴等ヲ示スモ苟クモ其何人タルヤヲ知ルヲ得ハ足ルヘキモノトス、(六)又社會ニ生存スル特定人ニ對スル以上ハ其自然人タルト法人タルトヲ問ハサルヘク、(七)又申告ノ方法如何ヲ問ハサルカ故ニ其口頭ニヨルト否トヲ問ハス又書面ニヨル場合ニハ署名アルト匿名ナルト將タ又他人名義ヲ用ヒタルトヲ論セス要ハ當該官署ヲシテ之ヲ了知セシムルヲ以テ足ル、從テ例セハ判事ニ關シテハ告訴、告發ニ因ル外

匿名端書ヲ以テスルモ仍ホ所謂申告アリトナスヲ妨ケス、八、而シテ誣告ハ申告ヲ受クヘキ官署ニ到達シタル時ヲ以テ犯罪成立スルカ故ニ刑事訴追若クハ懲戒訴追開始セラレタルコトヲ要セサルト同時ニ誣告者カ誣告ナルコトヲ自白シテ告訴ノ取下ヲ爲シタル場合ニ於テモ犯罪ノ成立ニ影響ナシ

第二要件 人ヲシテ刑事又ハ懲戒ノ處分ヲ受ケシムル目的ヲ以テシタルコト、申告ハ此目的ニ出ツルコトヲ要スルカ故ニ此目的ヲ缺如センガ即チ本罪ハ不成立ニ終ルヘキナリ例セハ自己カ犯罪嫌疑ノ爲メニ糾問セラル、ニ當リ之ヲ免ル、爲メニ犯人ハ何某ナリト虚偽ノ申述ヲ爲スカ如キ場合ハ本罪ニ必要ナル目的ヲ缺如スルモノトシテ無罪タルヘシ而シテ茲ニ所謂人トハ自己以外ノ者ヲ意味ス自己又ハ死者ニ犯罪アリト虚偽ノ申告ヲ爲スモ本罪ヲ構成セス(死者ニ對シテハ第二百三十條ノ誹毀罪トナルヘシ)但シ自己ノ共犯者ナリトシテ他人ヲ申告スルトキハ本罪ト成ル

二處分 本罪ヲ犯シタル者ハ第六十九條ノ例ニ同シク三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス、蓋シ偽證罪ト本罪トハ其罪質相類似スルカ故ニ其處分モ亦相同シキナリ

第七十三條 前條ノ罪ヲ犯シタル者申告シタル事件ノ裁判確定前又ハ懲戒處分前自白シタルトキハ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

本條ハ誣告罪ノ自白ニ關スル規定ナリ(舊刑法第三百五十六條)
 本條規定ハ偽證罪ニ於ケル第七十條ノ趣旨ニ同シケレハ爰ニ同條ニ就キ述ヘタル所ヲ參酌スレハ自ラ理解セラルヘキヲ以テ茲ニ再ヒ之ヲ贅セス

第二十二章 猥褻姦淫及ヒ重婚ノ罪

一、善良ナル風俗ニ反スル行爲ハ社會ノ風教上等閑ニ付スヘキニ非ラス故ニ諸國ノ立法例ニ於テ例外ナク之ヲ處罰スルナリ而シテ本法中風俗ヲ害スル罪トシテ規定セラレタルモノ三アリ曰ク猥褻姦淫及ヒ重婚ノ罪曰ク賭博及ヒ富籤ニ關スル罪曰ク禮拜所及ヒ墳墓ニ關スル罪是ナリ

二、本章規定ハ舊刑法第二編第五章風俗ヲ害スル罪中ニ規定シアリタル第二百五十八條第二百五十九條ト第三編第一章身體ニ對スル罪中ニ規定シアリタル第十一節猥褻姦淫重婚ノ罪トヲ併セタルモノナリ蓋シ舊刑法ニ於テハ罪ヲ公益ニ對スルモノト私益ニ對スルモノトニ區別シ各別編ニ規定セラレタリト雖モ既ニ本

法ニ於テハ此區別ヲ認メサルノミナラス本章規定ノ罪ハ其性質相同シキカ故ニ之ヲ各別ニ規定スルノ却テ不當ナルモノアルヲ以テナリ
 三、本章規定ハ上述セル如ク舊刑法ニ比シ其章節ヲ併合セル外猶其内容ニ至リテモ亦修正ヲ加ヘタリ其要點ヲ舉クレハ左ノ如シ

(イ) 舊刑法ニ於テハ犯人ノ所爲ニ基ツカサル心神喪失若クハ抗拒不能ニ乘シテ姦淫シタル場合ニ關スル規定ヲ缺如シタリシカ是等ノ場合ニ於ケル姦淫ハ犯人ノ所爲ニ基ツケル場合ニ比シ毫モ軒輊スル所ナキヲ以テ本法ハ此場合ニ關スル規定ヲ補足シタリ

(ロ) 舊刑法第三百五十二條ハ淫行勸誘罪ノ被害者ヲ十六歳未滿ノ男女ト規定シタリシモ本法ハ之ヲ單ニ婦女ニシテ且ツ淫行ノ常習ナキモノタルコトヲ要ストナシ淫行常習者ニ對スル勸誘ハ一切之ヲ刑法ノ支配外ニ驅逐シ一ニ行政處分ニ委スルコトトシタリ

(ハ) 舊刑法ハ重婚罪ニ關シ相婚者ヲ處罰スルコトナカリシカ、必要的共犯ノ性質ヲ有スル此種ノ犯罪ニアリテハ其相婚者ヲ寬假スルノ不當ナルコト多言ヲ要セスシテ明カナルヲ以テ本法ハ之ニ關スル規定ヲ補足シタリ

四、本章規定スル所前後實ニ十一條其内容ヲ大別スレハ、(一)公然猥褻罪(第七十四條)、(二)猥褻物頒布罪(第七十五條)、(三)暴行脅迫ニ因ル猥褻罪(第七十六條)、(四)強姦罪(第七十七條)、(五)強姦強姦ニ因ル死傷罪(第八十一條)、(六)淫行勸誘罪(第八十二條)、(七)姦通罪(第八十三條)及ヒ(八)重婚罪ノ八種トナスコトヲ得ヘク以下各本條ニ就キ大略其意義ヲ説明スヘシ

第七十四條 公然猥褻ノ行爲ヲ爲シタル者ハ科料ニ處ス

本條ハ公然猥褻ノ行爲ヲ爲シタル罪ノ規定ナリ(舊刑法第二百五十八條)

一、成立要件 本條ノ罪ハ二ヶノ要件ヨリ成ル即チ、(一)猥褻ノ行爲アリタルコト、(二)公然タリシコト是ナリ左ニ分説スヘシ

第一要件 猥褻ノ行爲アリタルコト 「猥褻ノ行爲」トハ通常人ヲシテ一見羞恥ノ念ヲ懷カシムヘキ淫事ニ關スル行爲ヲ謂ヒ其他人ニ對スルト將タ又自己ニ關スルト及ヒ其行爲ノ不法ニ出テタルト否トヲ區別セス、例セハ交接、鷄姦、手淫局部ノ露出等枚擧ニ遑ナシ、而シテ法文猥褻ノ行爲トアルカ故ニ行爲自體カ猥褻ナラサル可ラス、從テ猥褻ナル言語文章等ヲ以テ猥褻ナル事實ヲ公表スルカ如キハ他罪ヲ構成スルハ格別(例セハ出版法違犯、新聞紙法違犯本罪ト成ラス、然

レトモ固ト猥褻ナル觀念ハ法律上一ツノ抽象的觀念ニ外ナラサルヲ以テ或ル行為カ果シテ猥褻行為ナルヤ否ヤハ時ノ人情風俗ノ如何ニヨリテ決定セラルヘキモノニシテ結局裁判所ノ認定ニ俟ツ外ナシ

第二要件 公然タリシコト 猥褻行為ノ罪トナルハ善良ナル一般ノ風俗ヲ害スル點ニ在リ從テ其行為カ隱密ノ間ニ於テ行ハレ人目ニ觸レサルニ於テハ未タ以テ風俗ヲ害スルモノト云フヲ得サル結果罪トナラサルモノトス、法文ニ所謂公然トハ不定多數人ニ覺知セラレ得ル状態ヲ意味シ實際他人ニ目撃セラレタルコトヲ要セス(但シ反對説アリ)故ニ縱令住宅内ト雖モ其戸障子等ヲ開放シテ自由ニ路傍ヨリ望見シ得ヘキ状態ニアルトキハ公然ト云フヲ妨ケザルニ反シ戸障子等ヲ以テ遮蔽シアリシ以上ハ縱令多數人カ之ヲ偷見シタル事實アリトスルモ公然ト云フヲ得サルヘシ而シテ公然タル以上ハ縱令夫婦間ニ於ケル行為ト雖モ仍ホ本罪ヲ構成スヘキモノトス、

二處分 本罪ヲ犯シタル者ハ科料ニ處ス即チ二十圓未滿蓋シ罪質極メテ輕微ナルカ故ニ科刑輕シ

第四百七十五條 猥褻ノ文書、圖畫其他ノ物ヲ頒布若クハ販賣シ又ハ公然之ヲ陳列シタル者ハ五百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス販賣ノ目的ヲ以テ之ヲ所持シタル者亦同シ

本條ハ猥褻物ヲ頒布、販賣シ又ハ公然之ヲ陳列シ若クハ販賣ノ目的ヲ以テ所持シタル場合ノ規定ニシテ要スルニ猥褻物ノ世上ニ行ハル、コトヲ禁止セントスルモノナリ(舊刑法第百五十九條)

一、成立要件 本罪ノ成立要件ヲ別チテ二トナス即チ、(一)目的物ハ猥褻ノ文書、圖畫其他ノ物ナルコト、(二)頒布若クハ販賣シ又ハ公然之ヲ陳列シ若クハ販賣ノ目的ヲ以テ之ヲ所持シタルコト是ナリ、左ニ之ヲ分説スヘシ

第一要件 猥褻ノ文書、圖畫其他ノ物ナルコト 前條規定ハ行為自體カ猥褻ナルコトヲ以テ要件トナシタリシモ本條ハ猥褻ナル物品自體ヲ以テ要件トナス猥褻物トハ即チ通常人ヲシテ一見羞恥ノ念ヲ懷カシムヘキ物ヲ指稱シ文書、圖畫ハ其例示ニ過キス而シテ必ラスシモ其物カ絕對的ニ此性質ヲ有スルコトヲ要セス凡テヲ綜合シタル結果相對的ニ此性質ヲ備フルヲ以テ足ル例セハ春畫等ハ前者ニ屬シ近時ノ所謂諷刺畫中ニハ往々後者ニ屬スル例ヲ見ル然レトモ猥褻ナル觀念ハ時ト所トニヨリテ異ナルヲ免レサルカ故ニ或物品カ果シテ猥褻物ナルヤ否ヤハ結局裁判所ノ認定ニ依ルヘキモノトス

第二要件 頒布若クハ販賣シ又ハ公然之ヲ陳列シ若クハ販賣ノ目的ヲ以テ所持シタルコト 頒布トハ頒布ノ公衆ニ配付スルノ義ニシテ其公然ナルト秘密ナルトヲ問ハス舊刑法ニ於テハ之ニ關スル規定ヲ缺キタリシモ本法ハ廣ク公衆ニ頒布コトヲ禁スル爲メニ頒布ナル語ヲ用ヒタリ販賣トハ有價名義ニ於ケル讓渡ナリ普通ニ顯ハル形式ハ賣買ナリト雖モ必ラスシモ賣買ニ限ラス交換ノ如キモ包含セラレヘキモノト解ス公然ノ陳列トハ一般ニ不特定人カ認知シ得ヘキ場所ニ猥褻物ヲ置クコトヲ意味ス其物ヲ陳列シタル以上ハ必ラスシモ猥褻部分ヲ露出スルヲ要セス所持トハ自己ノ支配内ニ置クト云フ義ニシテ敢テ之ヲ所有スルコトヲ要セスト雖モ所持ノ罪トナルニハ必ラスヤ販賣ノ目的ニ出ツルコトヲ要ス然レトモ此目的ヲ以テ所持スル以上ハ多數ナルコトヲ要セス舊刑法ニ於テハ此場合ニ關スル明文ヲ缺キタリシモ販賣ノ目的ニ出テタル所持ノ如キハ之ヲ罰スルニ非ラサレハ猥褻物取締ニ對スル法ノ目的ヲ達スルコト能ハサルヲ以テ本法ハ特ニ之ヲ規定シタリ

二處分 本罪ヲ犯シタル者ハ五百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス舊刑法ニ於テハ僅ニ四十圓以下ノ罰金ニ處シタリシト雖モ本罪ヲ犯ス者ハ多クハ營利ノ目的ニ

出ツルモノニシテ此ノ如キ少額ノ罰金刑ハ能ク此種ノ犯罪人ヲ戒飾スルニ足ラサリシコト實際ニ數々見タリシ所ナリキ故ニ本法ニ於テハ其金額ヲ一層擴大セラレタリ

第七十六條 十三歳以上ノ男女ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ以テ猥褻ノ行爲ヲ爲シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス十三歳ニ滿タサル男女ニ對シ猥褻ノ行爲ヲ爲シタル者亦同シ

本條ハ他人ニ對シ猥褻ノ所業ヲ爲シタル場合ノ規定ナリ(舊刑法第三百四十六條第三百四十七條)

一成立要件 本條ハ被害者ノ年齢如何ニヨリテ前段後段ニ別チ其罪素ヲ異ニス左ニ分説スヘシ

甲前段ノ罪 本罪ハ十三歳以上ノ男女ニ對スル規定ニシテ二要件ヨリ成ル即チ(一)被害者ハ十三歳以上ノ男女ナルコト(二)暴行又ハ脅迫ヲ以テ猥褻ノ行爲ヲ爲シタルコト是ナリ

第一要件 被害者ハ十三歳以上ノ男女ナルコト 本條ニ相當スル舊刑法第三百四十六條ニ於テハ十二歳未滿ト以上ト分チ規定シタリシモ生理上十二歳以

上トスルヨリモ十三歳以上トスル方適當ナルト成ルヘキ年少者ヲシテ猥褻ノ
惡風ニ感染セシメサラシメントノ理由ヨリ本法ハ之ヲ改メテ十三歳ヲ以テ其
分界ト定メタリ

第二要件 暴行又ハ脅迫ヲ以テ猥褻ノ行為ヲ爲シタルコト 茲ニ所謂猥褻ノ
行為中ニハ姦淫ヲ含マス蓋シ姦淫ハ男子ニ對シテハ不可能ナルノミナラス特
ニ姦淫ニ關シテハ別ニ規定スル所アルヲ以テナリ十三歳以上ノ男女ニ對スル
猥褻行為ハ暴行又ハ脅迫ヲ手段トシタル場合ニ非ラサレハ罪トナラス故ニ夫
ノ合意ノ姦姦和姦等ハ其公然ナルニ於テハ前條ノ罪トナルハ格別本罪ヲ構成
セス而シテ茲ニ所謂暴行又ハ脅迫ハ最狹義ニ解スヘキモノニシテ即チ暴行ト
ハ相手方ノ身體ニ對シ有形的暴力ヲ加ヘテ其自由ヲ抑壓スルヲ謂ヒ脅迫トハ
相手方ニ對シ無形的威壓ヲ加ヘ畏怖ノ結果自由意思ヲ喪失セシムルニ至リタ
ルヲ謂フモノニシテ要スルニ承諾ナキ相手方ヲ抗拒不能ノ状態ニ置キ強ヒテ
之ニ對シテ猥褻ノ行為ニ及ヒタルコトヲ意味ス

乙、後段ノ罪 本罪ハ被害者カ十三歳未滿ナル場合ノ規定ニシテ二ヶノ要件ヨリ
成ル即チ、一、被害者ハ十三歳未滿ノ男女ナルコト、二、猥褻ノ行為ヲ爲シタルコト

是ナリ

第一要件 被害者ハ十三歳未滿ナル男女ナルコト 十三歳未滿ノ男女ハ心身
共ニ未發達ノ域ニ在リテ其判斷力及ヒ抵抗力頗ル微弱ナリ故ニ是等ノ者ニ對
シテ猥褻ノ行為ヲ爲シタル場合ニ於テハ合意ノ有無ヲ別タス又別ニ暴行又ハ
脅迫ヲ用ヒスト雖モ仍ホ法律ハ十三歳以上ノ者ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタ
ル場合ト同一視シタリ

第二要件 猥褻ノ行為アリタルコト 本條件ニ關シテハ前段ノ罪ニ關シ述ヘ
タル所ニ同シケレハ再說セス

二、處分 本罪ヲ犯シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス舊刑法ニ於テハ十
二歳未滿者ニ對シ猥褻行為ヲ爲スニ付キ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル場合ト否トヲ
區別シ其刑ヲ輕重シタリト雖モ本法ハ之レカ區別ヲ認メス故ニ一樣ニ本條後段
ノ規定ノ適用ヲ見ルコトナルヘキモ其刑期量定ニ關シテハ之ヲ斟酌スヘキコト
勿論ナリ

第一百七十七條 暴行又ハ脅迫ヲ以テ十三歳以上ノ婦女ヲ姦淫シタル者ハ強姦ノ罪ト
爲シ二年以上ノ有期懲役ニ處ス十三歳ニ滿タサル婦女ヲ姦淫シタル者亦同シ

本條ハ所謂強姦ノ罪ニ關スル規定ナリ(舊刑法第三百四十八條第一項、第三百四十九條)

一、成立要件 本罪モ亦前條ノ罪ニ同シク十三歳ヲ分界トシテ之ヲ前段ト後段トニ別テ其罪素ヲ異ニス左ノ如シ

甲、前段ノ罪 本罪ノ成立要件ヲ別チテ三トナス、即チ、(一)被害者ハ十三歳以上ノ婦女ナルコト、(二)姦淫シタルコト、(三)暴行又ハ脅迫ヲ以テシタルコト是ナリ

第一要件 被害者ハ十三歳以上ノ婦女ナルコト 十三歳ヲ以テ分界トシタルコトハ前條ニ付テ述ヘタル所ニ同シケレハ就テ參照セヨ、本罪ハ性質上婦女ニ對スルニ非ラサレハ成立セス是レ前條規定ノ猥褻罪ニ於ケルト異ナル點ナリトス、然レトモ之ヲ犯ス者ハ獨リ男子ニ限ラス何トナレハ男子ニ加擔シテ本罪ヲ犯サシメタル婦女若クハ男子ヲ器械的ニ使役シテ女子ヲ姦淫セシメタル場合(間接正犯)ハ總則共犯ノ適用上共犯者トシテ處分スヘキモノナルヲ以テナリ(共犯ノ説明參照)

第二要件 姦淫シタルコト 姦淫トハ要スルニ男女間ニ於ケル生殖的交合ヲ意味ス、而シテ本罪ノ既遂ニ關シテハ情慾ヲ充タシタルコトヲ要スル説ト之ヲ

要セス單ニ交合ノ事實アルヲ以テ足ルトスル説ノ二アリト雖モ固ト本罪ハ婦女ノ貞操ヲ破ル行爲ヲ罰シタルモノナルヲ以テ觀レハ後説ヲ正シトセン學者ノ多數及ヒ判例モ亦後説ヲ採ル

第三要件 暴行又ハ脅迫ヲ以テシタルコト、暴行脅迫ノ意義ハ既ニ前述シタル如ク要スルニ暴行トハ被害者ノ身體ニ對スル有形的抑壓ヲ意味シ、脅迫トハ其心意ニ對スル無形的抑壓ヲ意味ス、而シテ本罪ハ姦淫ノ手段トシテ姦淫者カ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタルコトヲ要ス、從テ暴行脅迫ヲ加ヘタル事實ナケレハ姦淫シタル事實アルモ本罪ヲ構成セサルコト勿論ナリト雖モ暴行脅迫アルモ常ニ必ラスシモ全然被害者ノ自由意思ヲ剝奪スルモノニアラス、暴行脅迫ノ結果全ク被害者ヲシテ意思活動ノ餘地ナキニ至ラシムル場合(即チ物件的視セラレ)ト全ク意思活動ノ餘地ナキニアラサルモ止ムナク之ヲ承諾スル場合即チ瑕疵的意思トノ別アリテ就中脅迫ノ如キハ概ネ後者ニ屬スル場合多カル可シ、故ニ強姦罪ニ於テモ亦此二場合アルコトヲ想像シ得ヘシト雖モ婦女ノ完全ナル承諾ナキ點(即チ自由意思ノ欠缺)ニ於テハ二者相同シキヲ以テ共ニ強姦罪トシテ論スルヲ妨ケス、又強姦ト手段タル暴行ハ常ニ直接ニ婦女自身ニ對シテ行ハル

、コトヲ要スルニ反シ(第三者ニ對スル暴行ハ延ヒテ婦女ニ對スル脅迫トナル脅迫ハ直接ニ之ヲ婦女ニ加ヘスシテ第三者ヲ脅迫シタル結果トシテ間接ニ婦女ヲ畏怖セシムル場合アリ得ヘシ例セハ婦女カ其同行者ニ對シ加ヘラレタル暴行脅迫ヲ傍觀シタル結果畏怖シタルヲ姦淫シタル場合ノ如シ但シ本罪ニ於ケル暴行脅迫ハ姦淫者若クハ其共犯者ノ行為ニ基ツクコトヲ要スルカ故ニ全然無關係ナル第三者ノ暴行脅迫ニヨリテ婦女ノ身心ノ自由ヲ喪失セルヲ利用シテ姦淫シタル場合ハ本條ノ罪ニ非ラスシテ次條ノ罪ヲ構成スルモノトス、
 乙、後段ハ罪 本罪ノ成立要件ヲ別チテ二トナス即チ(一)被害者ハ十三歳未満ハ婦女ナルコト、(二)姦淫シタルコト是ナリ而シテ其趣旨前條後段ニ同シケレハ同條ニ就キ説明シタル所ヲ參照シテ了解セラレヨ
 二、處分 本條ノ罪ヲ犯シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス舊刑法ニ比シ短期短キモ長期ハ十五年ニ至ルコトヲ得

第四百七十八條 人ノ心神喪失若クハ抗拒不能ニ乘シ又ハ之ヲシテ心神ヲ喪失セシメ若クハ抗拒不能ニ至ラシメタルコト若クハ抗拒不能ナラシメテ猥褻ノ行為ヲ爲シ又ハ姦淫シタル者ハ前二條ノ例ニ同シ
 本條ハ所謂準猥褻罪及ヒ準強姦罪ノ規定ナリ(舊刑法第三百四十八條第二項)

一、成立要件 本罪ノ成立要件ヲ別チテ二トナス即チ(一)人ノ心神喪失若クハ抗拒不能ニ乘シ又ハ之ヲシテ心神ヲ喪失セシメ若クハ抗拒不能ニ至ラシメタルコト
 (二)猥褻ノ行為ヲ爲シ又ハ姦淫シタルコト是ナリ左ニ之ヲ略説スヘシ
 第一要件 人ハ心神喪失若クハ抗拒不能ニ乘シ又ハ之ヲシテ心神ヲ喪失セシメ若クハ抗拒不能ニ至ラシメタルコト 人ノ心神喪失若クハ抗拒不能ニ乘シトハ其原因犯人以外ニ在ル場合ニシテ犯人カ是等ノ狀況ニ在ル者ニ對シ之ヲ利用シタルコトヲ意味ス而シテ所謂心神ノ喪失トハ知覺精神ヲ喪失シタル狀況ニ在ルノ義ニシテ其一時的ナルト永久ナルト將タ又病的ナルト否トヲ區別セス例セハ精神病者、白痴者若クハ泥醉者ノ如キハ之ニ屬ス抗拒不能トハ他人ノ攻撃ニ對シ之ヲ抗拒シ能ハサル狀況ニアルノ義ニシテ心神喪失ニ因ル場合ヲ除外スヘキコト當然タリ例セハ未タ心神喪失ノ程度ニ至ラサル酩酊者、熟睡者若クハ手足ノ自由ヲ喪失シタル病者等之ニ屬スヘシ人ヲシテ心神ヲ喪失セシメ若クハ抗拒不能ニ至ラシメト云フハ犯人ノ所業ニ因リテ是等ノ狀況ニ至ラシメタル場合ニシテ犯人カ特ニ猥褻行為若クハ姦淫ノ目的ノ爲メニ是等狀況ニ至ラシメタルコトヲ要セサルモノト解ス例セハ催眠術ヲ以テ人ヲ睡眠

状態ニ陥ラシムルカ如ク若クハ藥酒ヲ以テ人ヲ魔睡セシムルカ如キ場合ハ所謂人ヲシテ心神ヲ喪失セシメタルモノニ該リ、飲酒ヲ勸メテ酩酊セシメ十分ニ手足ノ自由ヲ得サルニ至ラシメタル如キ場合ハ所謂人ヲシテ抗拒不能ナラシメタルモノニ該ル、凡テ是等ノ狀況ニ在ルモノハ自由意思ヲ以テ承諾ヲ與フルコトヲ得サルカ若クハ自己ノ意思ノ命スル所ニ從ヒテ攻撃ヲ排除スルコトヲ得サルモノナルカ故ニ法律ハ暴行又ハ脅迫ヲ以テ爲シタルモノト同一視シタル所以ナリトス

第二要件 猥褻ハ行爲ヲ爲シ又ハ姦淫シタルコト 本要件ノ意義ニ關シテハ前來說明シタル所ニ徴シ了解シ得ヘキヲ以テ再說セス

二、處分 本罪ヲ犯シタル者ハ前二條ノ例ニ同シク處斷ス、即チ人ノ心神喪失若クハ抗拒不能ニ乘シ又ハ之ヲシテ心神ヲ喪失セシメ若クハ抗拒不能ナラシメテ猥褻ノ行爲ヲ爲シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處スヘク若シ姦淫シタル者ハ第七十七條ノ強姦罪トシテ二年以上ノ有期懲役ニ處スヘキナリ

第七十九條 前三條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

本條ハ前三條ノ罪即チ猥褻罪(第七十六條強姦罪(第七十七條及ヒ準猥褻并ニ

準強姦罪(第七十八條)ノ未遂ヲ罰スヘキ規定ナリ之ニ關シテハ別ニ説明ヲ加フヘキモノナシト雖モ強姦罪ノ未遂ニ付キ一言ヲ附加セン

前述セルカ如ク姦淫ノ意義ニ關シテ情慾遂行說ト没入說トアリ前說ニアリテハ男根没入ノミニテハ強姦罪ノ未遂ナリト論スト雖モ予輩ハ後說ヲ採用スル結果トシテ情慾遂行ヲ要セス男根没入ノ一事ヲ以テ茲ニ強姦罪ノ既遂ナリト論斷ス然ラハ本罪ノ未遂ノ時期如何抑々本罪ハ暴行脅迫ナル行爲ト姦淫ナル行爲トヨリ成ル、從テ此二構成要件ノ孰レニカ着手シタル以上ハ即チ本罪ノ着手アリト云ヒ得ヘキカ故ニ若シ強姦ノ意思ヲ以テ婦女ニ對シ暴行脅迫ヲ加ヘンカ未タ姦淫ニ着手セサルモ仍ホ本罪ノ着手アリト云ヒ得ヘシ又既ニ暴行脅迫ヲ終ハルモ未タ交合スルニ至ラサレハ同シク本罪ノ着手未遂タルナリ同一理由ニヨリ暴行脅迫ニヨル猥褻罪ニ於ケル既遂未遂ヲモ亦論斷スルコトヲ得ヘキナリ

第八十條 前四條ノ罪ハ告訴ヲ待テ論ス

本條ハ第七十六條乃至第七十九條ノ罪ノ親告罪タル可キコトヲ規定ス(舊刑法第三百五十條)

抑第七十六條乃至第七十九條ノ罪ハ前述セルカ如ク共ニ一面ニ於テハ公共

ノ風俗ヲ害スル罪ナリト雖モ亦他面ニ於テハ被害者タル私人ノ利益ヲ侵害スルコト甚大ナリ然ルニモ拘ハラス若シ法律カ此種ノ犯罪ヲ以テ職權訴追事件トナシ毫モ被害者タル個人ノ意思如何ニ顧慮セザランカ事實ヲ認廷ニ暴露セラル、カ爲メニ被害者ハ却テ益其利益ヲ害セラレヘキニ至ルヘキナリ故ニ法律ハ被害者ノ告訴ヲ以テ訴追條件ト爲シ以テ公安ト被害者ノ利益トヲ適宜ニ保護セントスルモノナリ而シテ如何ナル者カ告訴權ヲ有スルヤ舊刑法第三百五十條ニ於テハ告訴權者ヲ被害者又ハ其親屬ニ限定シタリト雖モ本法ニハ是ニ關シ何等ノ規定ナシ從テ刑事訴訟法及ヒ民法ノ規定ニ從ヒ被害者又ハ其代理人(無能力者ニ付テハ其法定代理人)ニ限り告訴權ヲ有スルモノナリト解ス

第百八十一條 第百七十六條乃至第百七十九條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

本條ハ第百七十六條乃至第百七十九條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル罪ノ規定ナリ(舊刑法第三百五十一條)

一、成立要件 本條ノ罪ハ二ヶノ要件ヨリ成ル即チ(一)第百七十六條乃至第百七十九條ノ罪ヲ犯シタルコト(二)因テ人ヲ死傷ニ致シタルコト是ナリ左ニ之ヲ概略分

説スヘシ

第一要件 第百七十六條乃至第百七十九條ノ罪ヲ犯シタルコト、即チ本罪ノ

一要件トシテ第百七十六條ノ猥褻罪、第百七十八條ノ強姦罪若クハ第百七十九條ノ準強姦罪ヲ犯シタルコトヲ要スルモノニシテ其意義ハ各當該法條ニ付キ前説シタル所ニヨリ略之ヲ知り得ヘキカ故ニ之ヲ略シ茲ニハ唯如上ノ犯罪カ未遂ナル場合ニ於ケル關係ニ付キ一言スルニ止メム

猥褻罪若クハ強姦罪ハ木々既遂ニ至ラサルモ之カ爲メニ傷害ノ結果ヲ生スルコトアリ例セ、婦女ヲ強姦セントシテ之ニ暴行ヲ加ヘ爲メニ婦女ヲシテ負傷スルニ至ラシメタルモ意外ノ障礙ニ因リ姦淫ノ目的ヲ達シ得サリシ場合ニ於テハ即チ強姦傷害罪ノ既遂トシテ論スヘキカ將タ又其未遂トシテ論スヘキカニ關シ學者ノ説ク所一途ニ出テスト雖モ多數説ハ強姦傷害罪ノ既遂ナリトスルニ傾ク我大審院モ此點ニ關シテハ從來數々強姦傷害罪ノ既遂ヲ以テ問擬スヘキモノナルコトヲ判示シタリ

第二要件 因テ人ヲ死傷ニ致シタルコト、男女ニ對シ猥褻行為ヲ爲シ又ハ強姦ヲ爲スニ因リテ人ヲ死傷ニ致シタルコト往々實現スル所ニ屬ス此場合ニ於

テ若シ本條規定ナカラシカ即チ第七十六條乃至第七十九條ノ罪ト死傷ノ罪トノ二罪ニシテ第五十四條ノ結果其中ニ就キ重キ刑ニ從ヒ處斷セサル可ラサルコト、ナリ輕キニ失スル虞アルヲ以テ法律ハ特ニ之ヲ一罪トシテ重刑ヲ以テ處斷スヘキモノトシタリ而シテ本罪ハ所謂結果犯ノ一ニ屬スルヲ以テ第七十六條乃至第七十九條ノ罪ヲ犯シタル結果トシテ苟クモ人ヲ死傷ニ致シタル以上ハ其死傷ノ點ニ對シテハ故意ニ出ツルト將タ又過失ニ出ツルトヲ區別セスシテ本罪成立ス可シ然ラハ第七十六條乃至第七十九條ノ罪ヲ犯シタル行爲ト爲メニ生シタル死傷ノ結果トノ關係ハ如何ナル範圍マテ及フヘキカ、換言スレハ第七十六條乃至第七十九條ノ罪ヲ犯シタルモノハ爲メニ生シタル被害者ノ死傷ニ付キ如何ナル程度マテ責任ヲ負フ可キカ、學者或ハ猥褻強姦ノ罪ト被害者ノ死傷トノ間ニ存スヘキ因果關係ハ必ラスシモ直接ナルヲ要セサルカ故ニ例セハ強姦ノ結果被害者カ懷妊シテ分娩ノ爲メ死亡シタル場合ニ於テモ本罪ヲ以テ論スルコトヲ得ヘシト説クモノアリト雖モ此ノ如キ間接ノ結果ニマテ及フトスルハ果シテ正當ナル解釋ナリト云ヒ得ヘキカ、若シ論者ノ説ノ如クスレハ其及フヘキ範圍殆ント際限ナカルヘキヲ以テ予輩ハ寧

日本條ニ所謂死傷ハ犯人直接ノ結果ニ基ケルモノタルコトヲ要スト解スルノ妥當ナルヲ信セントス

死傷ノ意義ニ關シテハ後ニ第二十七章ヲ説明スルニリ詳説スヘシト雖モ、要スルニ死ニ致スト云フハ生命ヲ失ハシメタル義ニシテ傷スト云フハ傷害ト云フニ同シク人ノ身體ニ對シ生理的毀損ヲ與フル義ナリト解ス、猶ホ此點ニ關スル判例一二ヲ示シ其法意ノ存スル所ヲ研ムルニ資セン

(一) 打撃強壓、摩擦等ニ因ル充血ハ人體ニ於ケル組織分子ノ毀裂ヨリ生スルモノニシテ一種ノ創傷ナリ

(二) 病毒ヲ他人ニ感染セシムル所爲ハ法律上之ヲ成傷ト認ムヘキモノトス、從テ不法姦淫ノ結果人ニ淋毒ヲ感染セシメ疾病休業ニ致シタル所爲ハ姦淫成傷罪ヲ構成スヘキモノトス

猶ホ一言スヘキコトハ多數説及ヒ判例ハ本罪ヲ以テ非親告罪ナリトスルコト是ナリ、蓋シ本條ノ罪ハ第七十六條乃至第七十九條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル場合ヲ一特別罪トシテ規定セラレタルモノニシテ第七十六條乃至第七十九條ノ罪トハ全ク別種ノ罪ニ屬スルヲ以テ法律ハ前條ニ於テ第

百七十六條乃至第七十九條ノ罪ノ親告罪タルヘキコトヲ明言スルニ拘ハラ
ス本條ニ關シテハ何等之ニ關シ云フ所ナキニ徵スルモ明白ナル所ナリトス、從
テ其結果トシテ本罪ノ一部タル猥褻又ハ姦淫ノ點ニ關シテハ別ニ告訴ナキモ
仍ホ當然致死傷罪トシテ審理セラルヘキコトアルヘキモ之ニ反シテ例ヘハ強
姦致傷罪トシテ起訴セラレタル事件ヲ審理ノ結果單ニ強姦罪ナリト認定シタ
ル場合ニ於テ之ニ對スル告訴ヲ欠缺センカ乃チ訴追條件ヲ缺如セルモノトシ
テ免訴ノ言渡ヲ爲スヘキ結果トナルヘシ

二、處分 本罪ヲ犯シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス、蓋シ惡ムヘキ重罪
ナルヲ以テ科刑重キコト當然ニシテ別ニ説明スルノ要ナキナリ

第八十二條 營利ノ目的ヲ以テ淫行ノ常習ナキ婦女ヲ勸誘シテ姦淫セシメタル者
ハ三年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

本條ハ淫行ノ常習ナキ婦女ヲ勸誘シテ姦淫セシメタル場合ノ規定ナリ(舊刑法第
三百五十二條)

一、成立要件 本條ノ罪ハ三ヶノ要件ヨリ成ル即チ、(一)營利ノ目的ニ出テタルコト
(二)被害者ハ淫行ノ常習ナキ婦女ナルコト、(三)之ヲ勸誘シテ姦淫セシメタルコト是

ナリ左ニ順次略説スヘシ

第一要件 營利ノ目的ニ出テタルコト 本罪ハ此目的ニ出テタルコトヲ要ス

ルカ故ニ例令淫行勸誘ノ事實アリトスルモ此目的ヲ缺如シタル以上ハ他ノ罪
(例セハ警察犯處罰令第二條第二號)ト成ルハ格別本罪ヲ構成セス、而シテ茲ニ所
謂營利トハ財産上ノ利益ヲ取得スルト云フ義ニシテ金錢ニノミ限ラス、然レト
モ營利ノ目的ニ出タル以上ハ之ニ因リテ現實ニ利益ヲ享有シタルコトヲ要セ
ス又之ヲ職業ト爲スト否トヲ問ハサルナリ

第二要件 被害者ハ淫行ノ常習ナキ婦女ナルコト 舊刑法第三百五十二條ニ
於テハ十六歳未満ノ男女ナルトキハ其淫行ノ常習ノ有無ヲ論セサルコト、シ
タレトモ、本條ハ被害者カ淫行ノ常習ナキ婦女タルコトヲ要スルモノトシテ既
ニ淫行ノ常習アル婦女及ヒ男子ヲ除外シタルハ是等二者ハ共ニ之ヲ保護スル
ノ必要ナシト認メタルニ由ル、然レトモ淫行ノ常習ナキ婦女ナル以上ハ其年齡
ノ如何ヲ論セス、最後ニ一言スヘキハ淫行ノ常習ナキ婦女ト云フハ未タ曾テ男
子ニ接シタルコトナキモノト云フ義ニ非ス、縱令一度婚姻シタル婦女ナリト雖
モ淫奔不貞ニ非ラサル限りハ茲ニ所謂淫行ノ常習ナキモノト解ス

第三要件 之ヲ勸誘シテ姦淫セシメタルコト 姦淫ノ意義ニ關シテハ既ニ前述シタリ本罪ハ姦淫セシメタルコトヲ要スルカ故ニ未タ姦淫スルニ至ラサル者ハ本罪ヲ構成セス蓋シ實害ナキナリ勸誘トハ姦淫ヲ爲サンコトヲ決意セシメタル總テノ誘導行爲ヲ謂ヒ其手段ノ如何ヲ問ハス又被勸誘者ノ責任能力者タルト否トヲ問ハスト雖モ既ニ姦淫ヲ爲サンコトヲ決意シタル者ニ對シテハ之ヲ助成スルモ本罪ト成ラス此點ハ夫ノ教唆ニ於ケルト同シ

二處分 本罪ヲ犯シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス蓋シ裁判所ヲシテ情狀ニ依リ其一ヲ撰擇シテ適宜處斷セシメントスルナリ

第八十三條 有夫ノ婦姦通シタルトキハ二年以下ノ懲役ニ處ス其相姦シタル者亦

同シ

前項ノ罪ハ本夫ノ告訴ヲ待チテ之ヲ論ス但本夫姦通ヲ縱容シタルトキハ告訴ノ效ナシ

本條ハ所謂姦通罪ニ關スル規定ナリ抑姦通罪ハ夫ノ名譽及ヒ家庭ノ平和ヲ保護シ併セテ一般社會ノ風儀ヲ維持スル爲メニ之ヲ罰スルコト諸國立法例ノ概ヲ一ニスル所ナルノミナラス血系ヲ重ニスル我邦ノ如キニ在リテハ特ニ之ヲ戒飾スルノ要アルナリ(舊刑法第三百五十三條)

第一項 本項ハ有夫姦ニ關スル規定ニシテ前段ト後段トニヨリ其罪素ヲ異ニス分説スルコト左ノ如シ

一、成立要件

甲、前段ノ罪 本罪ノ成立要件ヲ別チテ二トナス即チ(一)主體ハ有夫ノ婦ナルコト

(二)姦通シタルコト是ナリ

第一要件 主體ハ有夫ノ婦タルコト 夫婦關係ハ婚姻ノ成立ヲ以テ始マリ其

解消ヲ以テ終ル故ニ有夫ノ婦タルニハ民法上婚姻ノ成立シアルコトヲ要ス民法ニ從ヘハ婚姻ハ戶籍吏ニ届出ヲ爲スニ依リテ其效力ヲ生ス故ニ事實上夫婦關係アリト雖モ(即チ内縁)未タ正式ニ婚姻ノ届出ナキモノハ姦ニ所謂有夫ノ婦ニ非ラス(但シ舊民法時ニ於ケル婚姻ハ届出ヲ要セサリシ結果送籍ナキモ事實上儀式ヲ舉ケタル以上夫婦關係成立セルモノナルコト判例ノ認ムル所ナリシ)之ニ反シテ一旦婚姻ノ届出アリタル以上ハ事實上別居シ若クハ離婚ノ協約アルモ未タ解消ノ届出ナキ間ハ法律上夫婦關係アリトナス從テ仍ホ所謂有夫ノ婦タルヲ妨ケス而シテ本罪ハ有夫ノ婦タルコトヲ要スルカ故ニ有夫ノ婦ニ非ラサル未婚女及ヒ寡婦ニ關シテハ本罪ノ成立スヘキ由ナク又有婦ノ夫ニ對シ

テハ歐米ニ之ヲ罰スル例アリト雖モ本法ハ之ヲ採ラス

第二要件 姦通シタルコト、**「姦通」**トハ有夫ノ婦本夫以外ノ男子ト任意不正ニ姦淫スルノ謂ナリ、任意不正ナルコトヲ要スルカ故ニ暴行又ハ脅迫ニ因リ之ヲ強制セラレタル場合ハ勿論本罪ヲ構成セス、又姦淫スルコトヲ要スルカ故ニ姦淫以外ノ猥褻行為アルモ亦本條ノ罪ヲ構成セス、然レトモ本夫以外ノ男子ト姦淫シタル以上ハ相手方カ處罰能力ヲ缺如セル場合即チ例セハ有夫ノ婦カ精神病者又ハ十四歳未滿ノ幼者ト夫婦外ノ交合ヲ爲シタルカ如キ場合ニ於テモ仍ホ本罪ノ構成ヲ妨ケス、之レ本罪ノ成立ニハ相姦者ノ雙方ニ犯意アルコトヲ必要トセサルヲ以テナリ

乙、後段ノ罪 本段ハ相姦者ニ關スル規定ニシテ其成立要件ヲ別チテ三トナス即チ**（一）主體ハ男子ナルコト、（二）有夫ノ婦ト任意不正ニ姦淫シタルコト、（三）有夫ノ婦ナルコトヲ**知得シ居タリシコト是ナリ

第一要件 **主體ハ男子ナルコト** 即チ滿十四歳以上ノ處罰能力ヲ有スル男子ナルコトヲ要スルコトノ外有婦ノ男子ナルト否トヲ問ハス、固ト姦通罪ハ所謂必要共犯ノ性質ヲ有スルヲ以テ相姦者ハ總則ノ適用上共同正犯トシテ處罰

セラルヘキモノナレトモ之ヲ從犯トスル立法例アルヲ以テ疑義ヲ避クル爲メ特ニ之ヲ規定シタルモノナリ

第二要件 **有夫ノ婦ト任意不正ニ姦淫シタルコト** 本要件ニ關シテハ前段説明ヲ參照シテ了解セラルヘシ

第三要件 **有夫ノ婦タルコトヲ知得シ居タリシコト** 即チ姦通スルニ當リテ相手方カ有夫ノ婦タルコトヲ知得シ居タリシニ非ラサレハ所謂罪トナルヘキ事實ノ不知ニ歸スルヲ以テ總テ總則ノ適用上無罪タルヘキナリ、之レ本要件ノ必須ナル所以ナリ

二、處分 本項ノ罪ヲ犯シタル者ハ共ニ二年以下ノ懲役ニ處ス

第二項 本項ハ姦通罪ノ親告罪ナルコトヲ規定ス、其理由ニ至リテハ本條冒頭ニ略述シタル立法理由ト第百八十條ニ就キ述ヘタル所トヲ彼是對照考覈スレハ自ラ明了スヘキヲ以テ詳説セス而シテ本罪ノ告訴權利者ハ本夫タルヘキコト法文ノ明示スル所タリ、但シ本罪ヲ親告罪トシタルハ主トシテ本夫ノ名譽維持ニ存スルヲ以テ若シ本夫カ其妻ノ姦通ヲ縱容シタル場合ニ於テハ是ニ告訴權ヲ與フルノ理由ヲ失フ、故ニ法律ハ此場合ニ於ケル告訴ヲ效ナシト規定シタリ、而シテ所謂

縦容トハ本夫カ豫メ其妻ノ姦通ヲ許容スルノ謂ナリ故ニ事後ニ於テ之ヲ宥恕スルハ所謂縦容ニ非ラス從テ一旦宥恕スルモ仍ホ告訴ヲ提起シ得ヘキナリ

第百八十四條 配偶者アル者重ネテ婚姻ヲ爲シタルトキハ二年以下ノ懲役ニ處ス其相婚シタル者亦同シ

本條ハ所謂重婚罪ニ關スル規定ナリ(舊刑法第三百五十四條)

一、成立要件 本條規定モ亦前條第一項ニ同シク前段ト後段トニヨリ其罪素ヲ異ニス分説スルコト左ノ如シ

甲、前段ハ罪 本段ハ配偶者アル者ノ重婚ヲ規定シタルモノニシテ其成立要件ヲ別チテ二トナス即チ、(一)犯罪ノ主體ハ配偶者アル者ナルコト、(二)重ネテ婚姻シタルコト是ナリ

第一要件 犯罪ハ主體ハ配偶者アル者タルコト 所謂配偶者アル者トハ婚姻中ノ男女ノ一方ノ義ナリ即チ本罪ハ男子タルト女子タルトヲ問ハス主體タルコトヲ得ヘク此點ニ於テ前條ノ姦通罪ト異ナル而シテ婚姻ハ前述シタルカ如ク戶籍吏ニ届出ツルヲ以テ成立スルモノナルカ故ニ事實上夫婦關係アリト雖モ婚姻ノ届出ナキモノハ所謂配偶者アルモノニ該ラス之ニ反シテ一旦婚姻ノ

届出アリタル以上ハ例令取消ノ原由アル瑕疵アル婚姻ト雖モ取消アル迄ハ有效ニ成立シアルヲ以テ其取消前ニ於テ重ネテ婚姻シタルトキハ本罪ヲ構成スヘシ但シ無効ノ原因アル婚姻ハ當初ヨリ婚姻ナキニ歸スルヲ以テ此場合ニ於テハ本罪ハ成立セサルモノトス
第二要件 重ネテ婚姻ヲ爲シタルコト 「重ネテ婚姻スル」ト云フハ一方ニ正當ニ第一婚姻成立シツ、アル者カ更ニ他方ニ於テ二重ニ他者ト第二ノ婚姻ヲ爲シタル義ナリ而シテ婚姻ハ法律上戶籍吏ニ届出ツルヲ以テ其效力ヲ生スヘキカ故ニ本罪ハ單ニ事實上二重ノ夫婦關係ヲ有スルノミニテハ足ラス婚姻ノ届出ヲ爲シタル時ヲ以テ成立スヘキモノトス之ニ反シテ一旦第二ノ婚姻ノ届出ヲ爲シタル以上ハ實際夫婦關係ノ存在セシヤ否ヤハ本罪ノ成立ニ關係ナキモノトス此點モ亦前條ノ姦通罪ト異ナル點ナリトス
乙、後段ハ罪 本段ニ於テハ相婚者ヲ處罰スル規定ニシテ其成立要件ヲ分チテ三トナス即チ、(一)主體ハ配偶ナキ男女ナルコト、(二)配偶者アル者ト相婚シタルコト、(三)相手方カ配偶者アルモノナルコトヲ知得シ居タリシコト是ナリ左ニ略説スヘシ

第一要件 主體ハ配偶者ナキ男女ナルコト 配偶者アル者ニ關シテハ當然前段規定ノ支配ヲ受クヘキモノナルガ故ニ本段ニ所謂相婚者トハ自ラ配偶者ナキ者ニ限ラルヘキ結果トナルナリ而シテ其男女タルヲ問ハス

第二要件 配偶者アル者ト相婚シタルコト 即チ他ニ正當ニ成立シタル配偶者アル者(男女ヲ含ム)ト婚姻ノ届出ヲ爲シタルコトヲ要シ單ニ事實上ノ夫婦關係(即チ内縁)アルノミニテハ足ラス

第三要件 相手方カ配偶者アル者ナルコトヲ知得シ居タリシコト 即チ相手方ニハ第一ノ婚姻カ猶繼續シツ、アル情ヲ知リナカラ故ラニ其者ト第二ノ婚姻ヲ爲シタルコトヲ要ス故ニ前婚ハ既ニ解消セラレタリト信シ又ハ全然未婚者ナリト信シテ婚姻シタルカ如キ場合ニ於テハ罪トナルヘキ事實ノ不知ニ歸スルヲ以テ本罪ノ成立ヲ阻却スヘキナリ

二、處分 本罪ヲ犯シタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス、蓋シ本罪ハ前條ノ姦通罪ト同一視スヘキ罪質ナルヲ以テ其科刑モ亦同一ナリ

第二十三章 賭博及ヒ富籤ニ關スル罪

一、賭博及ヒ富籤ハ或ル方法ニ因リテ一私人カ其所有財産ヲ處分スルモノナルカ故ニ自己ノ私有財産ノ自由處分ヲ是認スル現時ノ法制上ニ於テハ之ヲ處罰ス可キ理由ナキカ如シト雖モ、賭博及ヒ富籤ハ共ニ射倖ヲ以テ其本質トナスモノナルヲ以テ若シ之ヲ公許センカ勞ヲ厭ヒ逸ヲ希フハ人生ノ常ナルヲ以テ爲メニ生業ヲ抛チテ遊惰ニ流ル、ノ風ヲ醸生シ社會一般ノ風俗ヲ害スルノミナラス、遂ニ國家ヲ擧ケテ貧弱ニ陥ラシム可キニ至ル、是ヲ以テ法律ハ之ヲ個人ノ利益關係ニ止マルモノト認メス公益上之ニ刑罰ヲ付シテ戒飾スルナリ

二、本章ハ舊刑法第二百六十條乃至第二百六十二條ニ相當スル規定ナリト雖モ舊刑法規定ニ比シ頗ル修正ヲ加ヘラレタリ、其主要ナル點ハ左ノ如シ

(イ) 舊刑法ニ於テハ賭博罪ハ現行犯ニ非ラサレハ處罰セサルコト、シタリシモ、既ニ賭博ヲ以テ風俗ヲ害スル罪トシテ處罰スヘキモノト認メタル以上ハ其發覺ノ前後ニヨリテ罪ノ有無ヲ區別スヘキ理由存セサルノミナラス、之ヲ現行犯トシタル結果實際上却テ困難ナル問題ヲ惹起シタルコト尠ナラス、故ニ本法ニ於テハ此區別ヲ認メス凡テ之ヲ處罰スルコト、ナシタリ

(ロ) 舊刑法ニ於テハ房屋給與罪ヲ特別罪トシテ規定シアリシモ此ノ如キハ賭博行

爲ノ幫助ニシテ總則從犯規定ノ適用上同一目的ヲ達シ得ヘキカ故ニ特ニ之カ規定ヲ設クルノ要ナシトシテ本法ハ之ヲ削除シタリ

(ハ) 舊刑法ニ於テハ賭博罪ニ對シテハ凡テ體刑ヲ科シタリシカ、本法ハ賭博罪ヲ常習ト非常習トニ區別シ前者ニ對シテハ體刑ヲ科シ後者ニ對シテハ財產刑(罰金)ヲ科スルコト、シタリ、蓋シ賭博罪ハ其性質上他罪ノ如ク社會上直接ノ害少ナク殊ニ人情ノ弱點トシ犯シ易キ犯罪ニ屬スルカ故ニ常習者ニ非ラスシテ單ニ偶發的ナル場合ニ於テハ之ニ體刑ヲ科スルハ酷ニ失スルヲ以テナリ

(ニ) 舊刑法ニ於テハ富籤發賣ノミニ關シ罰則ヲ設ケ其取次、購買ニ關シテハ何等規定スル所ナカリシ結果特ニ單行法(明治十五年布告第二十四號)ヲ以テ之カ補足ヲ爲シタリシカ、是レ立法上當ヲ得タルモノニ非サルヲ以テ本法ハ之ヲ本章中ニ併セ規定シタリ

(ホ) 舊刑法ハ現場ニアリタル賭具賭錢ノ沒收ニ關シ特例ヲ設ケアリシモ、獨リ賭博罪ノミニ限り此特例ヲ認ムルノ要ナキヲ以テ本法ハ凡テ總則規定ニ從ヒ處分スヘキモノトシ此特例ヲ削除シタリ

三、本章規定スル所僅ニ三條而シテ其内容ヲ細別スレハ左ノ如シ

甲、賭博罪

- (1) 非常習賭博罪(第百八十五條)
- (2) 常習賭博罪(第百八十六條第一項)
- (3) 賭場開帳罪(第百八十六條第二項前段)
- (4) 博徒結合罪(第百八十六條第二項後段)

乙、富籤罪

- (1) 富籤發賣罪(第百八十七條第一項)
- (2) 富籤取次罪(第百八十七條第二項)
- (3) 富籤授受罪(第百八十七條第三項)

以下各本條ニ就キ其意義ヲ略說スヘシ

第百八十五條 偶然ノ輸贏ニ關シ財物ヲ以テ博戲又ハ賭事ヲ爲シタル者ハ千圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス但シ一時ノ娛樂ニ供スル物ヲ賭シタル者ハ此限ニ在ラス

本條ハ非常習ノ賭博罪ニ關スル規定ナリ(舊刑法第二百六十一條)

一、成立要件 本罪ノ成立要件ヲ別チテ三トナス即チ、(一)博戲又ハ賭事ヲ爲シタルコト、(二)其輸贏ハ偶然ノ事ニ繫ルコト、(三)財物ヲ賭シタルコト是ナリ、左ニ順次之ヲ略說スヘシ

第一要件 博戲又ハ賭事ヲ爲シタルコト 博戲ト賭事トノ區別ニ關シテハ學

說一定セス或ハ全然此區別ヲ認メサルモノアリ、或ハ區別ノ標準ヲ客觀的ニ求
 メ博戲ハ博戲者相互ノ間ニ於ケル一定ノ行爲ノ結果ヲ以テ輸贏ヲ決シ例セハ
 賭博者自ラ骨子ヲ投シテ勝負ヲ決スルカ如シ、賭事ハ賭事者以外ノ第三者若ク
 ハ事實ニ依リテ輸贏ヲ決スルモノ、例セハ觀覽者カ競馬ニ賭金シ勝負ヲ決スル
 カ如シナリト解シ或ハ區別ノ標準ヲ主觀的ニ求メ博戲トハ當事者カ利益ヲ收
 得スルヲ目的トスル場合ヲ謂ヒ、賭事トハ當事者カ自己ノ所信ヲ確保スル目的
 ニ出ツル場合ヲ謂フモノナリト說ク然レトモ主觀說ニヨレハ當事者ノ意思如
 何ニヨリテ同一事實カ或ハ博戲トナリ或ハ賭事トナル結果ヲ來タシ實際上區
 別明白ナラサルノ不都合アルヲ以テ吾輩ハ暫ク客觀說ニ從ハントスルモノナ
 リト雖モ刑法ハ苟クモ偶然ナル事實ニ因テ輸贏ヲ決セラル、場合ハ其博戲ナ
 ルト賭事ナルトヲ問ハス賭博罪トシテ同一法條ノ下ニ同一制裁ヲ科シアレハ
 實際上ニアリテハ此二者ノ區別ハ左マテ重要ナラサルモノニ屬ス
第二要件 其輸贏ハ偶然ハコトニ繫ルコト、輸贏トハ猶勝敗ト云フカ如シ、法
 律カ賭博行爲ヲ罰スル趣旨ハ一般人ノ射倖心ヲ抑制セントスルニ存ス故ニ博
 戲又ハ賭事ノ輸贏モ亦偶然的ニ決セラルヘキモノナラサルヘカラサルコトハ

殆ント多言ヲ要セスシテ明カナリ、而シテ其專ラ偶然ナルコトヲ要スルカ將タ
 又主トシテ偶然ナルヲ以テ足レリトナスカニ關シテハ學說上議論アルヘシト
 雖モ全ク一定ノ技能ニ依リテ利益ノ得喪ヲ爭フ所ノ競技トハ之ヲ區別セサル
 可ラス、故ニ夫ノ圍碁、將棋、角力、競馬等ヲ爲スモノカ自身之ニ財物ヲ賭スルカ如
 キハ此偶然ナル要素ヲ缺クカ爲メニ賭博罪ヲ構成セス、之ニ反シテ第三者カ之
 ニ賭スルトキハ賭博罪タルヘキコト前述セルカ如シ
第三要件 財物ヲ賭シタルコト、博戲又ハ賭事ノ罪トナルニハ之ニ財物ヲ賭
 シタルコトヲ要ス故ニ博戲又ハ賭事ニ由リ勝負ヲ決スルモ財物ヲ賭シタルニ
 非ラサレハ罪トナラス又縱令財物ヲ賭シタル事實アルモ一時ノ娛樂ニ供スル
 物品ノ如キハ亦罪トナラス是レ本條但書ノ明示スル所タリ、例セハ娛樂ノ爲メ
 ニ飲食物ヲ賭スルカ如キ又ハ飲食代ニ供スヘキ少額ノ金錢ヲ賭スルカ如キ是
 ナリ、而シテ所謂財物トハ物權ノ目的物タル總テノ有體物ニシテ金錢、動産、不動
 産ヲ包括シ無體物タル權利ヲ含マス

二、處分 本罪ヲ犯シタル者ハ千圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス、本法カ非常習賭博
 犯人ニ對シ財産刑ヲ科シタル理由ニ關シテハ本章冒頭ニ述ヘタル所ヲ參照スヘ

第百八十六條 常習トシテ博戯又ハ賭事ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス
賭博場ヲ開張シ又ハ博徒ヲ結合シテ利ヲ圖リタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ
處ス

本條ハ常習賭博罪、賭博場開張罪及ヒ博徒結合罪ニ關スル規定ナリ(舊刑法第二百
六十條、第二百六十一條)

第一項 本項ハ常習トシテ賭博ヲ爲スモノニ關スル規定ニシテ其成立要件ハ次
ニ述フルカ如シ

一、成立要件 本罪ハ二ケノ要件ヨリ成ル即チ、(一)博戯又ハ賭事ヲ爲シタルコト、(二)
常習タルコト、是ナリ而シテ第一要件ニ關シテハ前條ニ説明シタル所ニヨリ明了
ナルヘキヲ以テ之ヲ略シ第二要件ニ就キ少シク説ク所アラントス
常習トシテ賭博ヲ爲ストハ必ラスシモ賭博ヲ以テ常業トナスモノヲ指稱スルニ
非ラス從來數々賭博ヲ爲シタル慣行の事實アルヲ以テ足レリトス故ニ他ニ職業
ヲ有スルモノナリト雖モ猶ホ常習賭博犯人ト認定スルヲ妨ケス近キ過去ニ於テ
賭博犯ニ依リ處罰セラレタルカ如キコトハ其常習者ナルコトヲ認定スヘキ一證

憑ノミ

二、處分 本罪ヲ犯シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス舊刑法ノ六月以下ナルニ比
シ頗ル重キヲ加ヘタリ

第二項 本項ハ賭場開張及ヒ博徒結合罪ヲ規定シタルモノニシテ其成立要件ハ
左ノ如シ

一、成立要件 本項ノ罪ハ二箇ノ要件ヨリ成ル即チ、(一)賭博場ヲ開張シ又ハ博徒ヲ
結合シタルコト、(二)利ヲ圖リタルコト是ナリ

第一要件 賭博場ヲ開張シ又ハ博徒ヲ結合シタルコト、賭博場ヲ開張シトハ
賭博用ノ器具若クハ場所ヲ供ヘ他人ヲ誘引シテ博戯又ハ賭事ヲ爲サシムルヲ
謂ヒ開張者自身カ賭博ヲ爲スヲ要セス、若シ開張者自身其場ニ於テ共ニ賭博ヲ
爲シタルトキハ開張罪ト賭博罪トノ併發ナリ博徒ヲ結合スルトハ多數ノ博徒
ヲ團結シテ己レ其首魁タル地位所謂親分ニ立ツヲ謂フ
第二要件 利ヲ圖リタルコト、所謂利ヲ圖ルトハ金錢上ノ收益ヲ目的ト爲ス
コトヲ意味シ實際上ニ於テハ手数料、入場料若クハ寺錢等ノ名義ニ於テ一定ノ
金額ヲ徵收スルヲ通例トス然レトモ苟クモ此目的ニ出テタル以上ハ必ラスシ

モ爲メニ實際收益アリタルコトヲ要セス此目的ヲ以テ賭博場ヲ開張シ又ハ博徒ヲ招結スレハ則チ未タ實際收益スルニ至ラサルモ仍ホ本罪ハ成立スヘク又其行爲カ一回タルト將タ又常行タルトハ毫モ本罪ノ成立ニ影響ナシ

二、處分 本罪ヲ犯シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス、舊刑法ノ一年以下ナルニ比シ五倍ノ重キヲ加ヘタリ、蓋シ舊刑法ニ於ケル刑期ハ是等博徒及ヒ其首魁者ヲ戒飾スルニ足ラス刑罰ヲ豫期シテ犯行ヲ擅ニシ宛然一箇ノ職業ト爲スニ至ル、此ノ如キハ法ノ目的ニ非ラス本法カ其刑ヲ嚴ニシタル偶然ニ非ラサルナリ

第百八十七條

富籤ヲ發賣シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

富籤發賣ノ取次ヲ爲シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

前二項ノ外富籤ヲ授受シタル者ハ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

本條ハ富籤罪ニ關スル規定ナリ(舊刑法第二百六十二條、明治十五年布告第二十四號)

第一項 本項ハ富籤發賣ニ關スル規定ニシテ其成立要件ト處分トハ左ニ述フルカ如シ

一、成立要件 本項ノ罪ノ成立要件ヲ別チテ二トナス即チ、(一)目的物ハ富籤ナルコ

ト、(二)發賣シタルコト是ナリ

第一要件 目的物ハ富籤ナルコト、富籤トハ多數人ヨリ一定ノ財物ヲ醜集シ

抽籤ノ方法ニ依リ醜集財物ノ得喪ヲ決スルヲ謂フ、即チ抽籤ナル偶然ノ事項ニ依リテ勝負ヲ決スル點ニ於テハ前條規定ノ賭博罪ニ於ケルト異ナルコトナシト雖モ左ノ數點ニ於テ二者ノ相違ヲ見ル

(一)富籤ニ於テハ興業元(親元又ハ胴元)ハ常ニ其醜集財物ノ範圍内ニ於テ當選者ニ財物ノ分配ヲ爲シ決シテ自己カ危險ノ負擔ニ任セサルニ反シ賭博ニ於テハ賭博者ハ凡テ自己カ危險ノ負擔ニ任ス

(二)富籤ニ於テハ興業元ハ一定ノ條件ノ下ニ購買者ニ利益ヲ與フルコトヲ約シ購買者ハ此條件ノ下ニ全然購買代金ノ所有權ヲ興業元ニ移付スルニ反シ賭博ニ於テハ賭博者ハ其勝敗ノ決スル時マテハ賭金ニ對スル所有權ヲ失ハス

(三)富籤ニ於テハ必ラス抽籤ノ方法ニヨリ勝敗ヲ決スヘキニ反シ賭博ニ於テハ抽籤アルヲ要セス

故ニ夫ノ「チーハー」カ富籤ナリヤ賭博ナリヤノ問題ハ一概ニ之ヲ論斷スルコトヲ得ス苟クモ其方法ニシテ親元カ全ク危險負擔ノ地位ニ立ツモノニ非ラサル

以上ハ富籤罪ナリト云フヘク之ニ反シテ危險負擔ノ地位ニ立ツモノトセハ賭博罪ナリト云ハサル可ラス

第二要件 發賣シタルコト、富籤發賣トハ對價ヲ得テ之ヲ購買者ニ交付スルヲ謂ヒ所謂富籤ノ興業元(親元)是ナリ、

二、處分 本罪ヲ犯シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二項 本項ハ富籤發賣ノ取次ヲ爲シタル罪ノ規定ニシテ取次トハ舊法ニ所謂富籤牙保ニ該リ發賣者ト購買者トノ間ニ仲介シテ其賣買ノ周旋ヲ爲スモノ、謂ニシテ俗ニ之ヲ運送人ト云フ

處分ハ一年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ナリ

第三項 本項ハ富籤ノ發賣及ヒ取次ノ外ニ富籤ヲ授受シタル一切ノ者ヲ網羅シテ處罰スヘキ規定ニシテ富籤ノ購買者ノ如キハ其主ナルモノニ屬スヘシ處分ハ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ナリ

第二十四章 禮拜所及ヒ墳墓ニ關スル罪

一吾人ハ憲法上信教ノ自由ヲ享有ス故ニ之ヲ阻害スヘキ行爲ハ國家之ヲ禁止セ

サル可ラス然リ而シテ禮拜所ニ對シ不敬ノ所業ヲ爲シ儀式ノ執行ヲ妨害シ若クハ墳墓ヲ發掘スルカ如キハ人ノ信仰上ニ著大ナル障害ヲ與フルモノタリ故ニ本法ハ宗教上ノ風俗ヲ害スルモノトシテ茲ニ禮拜所及ヒ墳墓ニ關スル罪ヲ規定シタリ若シ夫レ變死者埋葬ニ關スル罪ノ如キニ至リテハ毫モ宗教上ニ影響ナク之ヲ行政法規中ニ收ムヘク唯便宜上本章中ニ規定シタルノミ

二本章舊刑法第二編第六章風俗ヲ害スル罪ト題スル罪中禮拜所ニ對スル不敬罪(同法第二百六十三條第七章死屍ヲ毀棄シ及ヒ墳墓ヲ發掘スル罪同法第二百六十四條乃至第二百六十六條)及ヒ違警罪中ニ規定シアリタル變死者埋葬ニ關スル罪トヲ併セ修補シタルモノニシテ其主ナル點ヲ舉示スレハ左ノ如シ

イ舊刑法第二百六十三條第二項ニ於テハ說教禮拜ヲ妨害シタル場合ニ付テノミ規定シ葬式ヲ妨害シタル場合ニ及ハサリシハ法ノ不備タルヲ免レス故ニ本法ハ特ニ之ニ關スル規定ヲ補足シタリ

ロ舊刑法ニ於ケル墳墓發掘罪同法第二百六十五條ハ墳墓ヲ發掘シテ棺槨又ハ死屍ヲ見ハシタルコトヲ要ストセシモ本法ハ之ヲ必要ナシトシテ單ニ墳墓ヲ發掘シタル者云々ト規定シタリ

(ハ) 舊刑法ハ死屍ノ毀棄罪ノミヲ認メタレトモ之ト同一視ス可キ遺骨遺髮又ハ棺内藏置物ヲ毀棄シタル場合ヲ不問ニ付ス可ラサルコト勿論ナルヲ以テ本法ハ特ニ之ニ關スル規定ヲ補足シタリ

(ニ) 舊刑法ニ於テハ死體遺骨又ハ棺内藏置物ヲ遺棄又ハ領得シタル場合ニ關シテハ全然其規定ヲ缺如シタリシヲ以テ本法ハ又此點ニ關シテモ補足シタリ

三、本章收ムル所凡テ五條之ヲ大別スレハ左ノ五類トナスヘシ

(一) 禮拜所ニ對スル不敬罪(第百八十八條第一項)

(二) 說教葬式妨害罪(同條第二項)

(三) 墳墓發掘罪(第百八十九條)

(四) 棺藏物損壞罪(第百九十條、第百九十一條)

(五) 變死者無檢視葬罪(第百九十二條)

以下順次各法條ニ就キ略說スヘシ
第百八十八條 神祠、佛堂、墓所其他禮拜所ニ對シ公然不敬ノ行爲アリタル者ハ六月以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス
說教、禮拜又ハ葬式ヲ妨害シタル者ハ一年以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

本條ハ禮拜所ニ對スル不敬罪及ヒ說教、禮拜又ハ葬式ヲ妨害シタル罪ノ規定ナリ(舊刑法第百六十三條)

第一項 本項ハ禮拜所ニ對シ公然不敬ノ行爲アリタル場合ノ規定ニシテ其成立要件ト處分トハ左ニ述フルカ如シ

一、成立要件 本項ノ罪ノ成立要件ヲ別チテ二トナス即チ(一)神祠、佛堂、墓所其他禮拜所ニ對スルコト(二)公然不敬ノ行爲アリタルコト是ナリ

第一要件 神祠、佛堂、墓所其他禮拜所ニ對スルコト、
「禮拜所」トハ公衆ノ禮拜スヘキ場所ヲ指稱シ神祠、佛堂、墓所ハ其例示ニ過キス、故ニ神佛等ノ尊嚴ヲ害セントシテ爲シタル行爲タル以上ハ路傍ノ神佛祠ニ對スルモ公衆ノ禮拜スヘキ場所ナランカ即チ本罪ヲ構成スヘシ、但シ神宮、皇陵ニ對スル不敬罪ニ關シテハ特ニ第七十四條第二項ニ其規定アルヲ以テ自ラ本條中ヨリ除外セラレヘク又一私人ノ禮拜所タル一家ニ於ケル佛壇、神棚等ハ本罪ノ目的物ニ含マレサルモノト解ス

第二要件 公然不敬ノ行爲アリタルコト、
「不敬ノ行爲」トハ神佛等ノ尊嚴ヲ冒瀆スヘキ一切ノ行爲ヲ謂ヒ言語、文章、舉動ニヨルヲ問ハスト雖モ單ニ之ヲ禮拜

セサルノミニテハ足ラス一般ノ觀テ以テ神佛等ヲ侮辱スルモノナリトスル積極的意思表示アルコトヲ要ス其行爲カ果シテ不敬ナリヤ否ヤハ結局裁判所ノ判斷ニ俟ツ外ナシ而カモ不敬ノ行爲ハ公然タルニ非ラサレハ本罪ヲ構成セス蓋シ本罪ハ公衆ノ信仰心ヲ害セサラシメントスルニ在ルヲ以テ隱密ニ爲サレタル不敬行爲ハ此害ナシト認メタルニ由ル從テ夜陰ニ乘シ神社佛閣等ヲ汚損シ置クカ如キ行爲ハ本罪ヲ以テ論スヘキ限ニ非ラサル可シ

二、處分 本罪ヲ犯シタル者ハ六月以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス法律カ懲役若クハ禁錮又ハ罰金ノ一ヲ選擇處斷スルコトヲ得セシメタル理由ハ蓋シ本罪ノ如キハ宗教上ノ關係等ヨリ偏見ニ陥リタル結果ニ出テタル等犯情ニ差別アルヘキコトヲ豫期シ臨機適宜處斷セシメントシタルニ外ナラス

第二項 本項ハ說教禮拜又ハ葬式ヲ妨害シタル場合ノ規定ニシテ其成立要件ト處分トハ左ノ如シ

一、成立要件 本項ノ罪ハ二ヶノ要件ヨリ成ル即チ(一)說教禮拜又ハ葬式ニ對スルコト(二)之ヲ妨害シタルコト是ナリ

第一要件 說教禮拜又ハ葬式ニ對スルコト 本罪ノ目的物ハ本條列記ノ說教

禮拜又ハ葬式ニ限リ其執行中ナルモノニ對スル場合ハ勿論後日執行セララル可キモノヲ不能又ハ困難ナラシムヘキ場合ヲモ包含スヘキモノト解ス

第二要件 之ヲ妨害シタルコト 法文ニ其方法ヲ限定セサルヲ以テ直接間接

ニ如何ナル方法ヲ執ルヲ論セス妨害ノ結果アル以上ハ本罪ヲ構成スヘキモノトス故ニ例セハ暴行喧嘩等ハ勿論人ノ迷信ヲ利用シテ煽動シ若クハ虛偽ノ事實ヲ傳説シテ其平穩ナル執行ヲ阻害スルカ如キ是ナリ

二、處分 本罪ヲ犯シタル者ハ一年以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス廣ク選擇刑ヲ設ケタル趣旨ハ前項處分ニ關シ述ヘタル所ニ同シケレハ參照セラレヨ

第百八十九條 墳墓ヲ發掘シタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス

本條ハ墳墓發掘罪ノ規定ナリ舊刑法第二百六十五條第一項

一、成立要件 本條ノ罪ノ成立要件ヲ別チテ二トナス即チ(一)目的物ハ墳墓ナルコト(二)之ヲ發掘シタルコト是ナリ

第一要件 目的物ハ墳墓ナルコト 墳墓トハ人ノ死體遺骨其他死者ノ遺物ヲ埋葬シタル場所ヲ指稱シ人類以外ノ埋葬場所ヲ含マス但シ歷代天皇ノ墳墓ニ

關シテハ特ニ第七十四條第二項ノ罪ヲ構成スルヲ以テ本條適用ノ範圍外ニ在
リトス、而シテ墳墓タルニハ墓標ノ有無ハ關係セサルモノナリ

第二要件 之ヲ發掘シタルコト 之ヲ發掘スルコトヲ要スルカ故ニ單ニ之ヲ
損壞汚濁スルニ過キサル場合ハ本罪ト成ラス、然レトモ發掘シタリト云ヒ得ル
ニハ舊刑法ニ於ケルカ如ク棺槨又ハ死屍ヲ見ハス程度ニ至リタルコトヲ要セ
ス、唯埋葬場所ヲ掘起スレハ則チ足ル、若シ夫レ發掘シテ死體其他ノ藏置物ヲ損
壞遺棄又ハ領得シタル者ハ第九十一條ノ罪トナル、而シテ發掘行為ノ罪トナ
ルハ不法ニ出テタルコトヲ要スルカ故ニ許可ヲ得テ爲ス墳墓改葬ノ如キ豫審
判事カ犯罪取調ノ必要上職權ヲ以テ發掘スルカ如キ場合ノ罪トナラサルコト
ハ多言ヲ要セスシテ明カナリ

二、處分 本罪ヲ犯シタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス

第九十條 死體、遺骨、遺髮又ハ棺内ニ藏置シタル物ヲ損壞、遺棄又ハ領得シタル者ハ
三年以下ノ懲役ニ處ス

本條ハ死體、遺髮、遺骨又ハ棺内ニ藏置シタル物ヲ損壞、遺棄又ハ領得シタル罪ノ規
定ナリ(舊刑法第二百六十四條)

一、成立要件 本罪ノ成立要件ヲ別チテ二トナス即チ(一)本罪ノ目的物ハ死體、遺骨、
遺髮又ハ棺内ニ藏置シタル物ナルコト(二)之ヲ損壞、遺棄又ハ領得シタルコト是ナ
リ

第一要件 本罪ノ目的物ハ死體、遺骨、遺髮又ハ棺内ニ藏置シタル物ナルコト

本罪ノ目的物ハ本條列記ノ物ニ限ル故ニ墓標又ハ墓前ニ供シタル物ニ係ルト
キハ本罪トナラス茲ニ所謂死體、遺骨、遺髮ハ凡人類ノ其レニ限り胎兒ヲモ含
ム、又棺内ニ藏置シタル物トアリテ何等ノ制限ナシ故ニ死者ノ體ニ著ケタル物
ハ勿論棺内ニ藏置シアリタルモノナル以上ハ擧ケテ本罪ノ目的物トナリ得ヘ
シ、而シテ本罪ハ其埋葬前ナルト後ナルトヲ問ハサルカ故ニ夫ノ火葬場ニ於ケ
ル隠坊カ棺内藏置品ヲ取出スカ如キ場合モ當然本條中ニ含マル

第二要件 之ヲ損壞、遺棄又ハ領得シタルコト 損壞トハ物質的ニ破壞スルヲ
謂ヒ遺棄トハ積極的ニ之等物件ヲ路傍其他ニ拋棄スル場合ハ勿論相當ノ手續
ヲ盡スヘキ責務アルニ拘ハラズ放置シテ自ラ離去シ若クハ何等手續ヲ爲サス
シテ其儘之ヲ放置シタル場合ヲモ包含ス、領得トハ自己ノ所持内ニ移ス行為ヲ
謂フ、從來舊刑法ノ下ニ於テハ此種ノ行為ニ關シ議論ノ存スル所ナリシヲ以テ

本法ハ特ニ明文ヲ以テ之ヲ解決シタリ

二、處分 本罪ヲ犯シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

第九十一條

第九十九條ノ罪ヲ犯シ死體、遺骨、遺髪又ハ棺内ニ藏置シタル物ヲ損壞遺棄又ハ領得シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

本條ハ墳墓ヲ發掘シテ死體、遺骨、遺髪又ハ棺内ニ藏置シタル物ヲ損壞、遺棄又ハ領得シタル罪ノ規定ナリ舊刑法第二百六十五條第二項

一、成立要件 本條ノ罪ハ三ヶノ要件ヨリ成ル即チ(一)第百八十九條ノ罪ヲ犯シタルコト、(二)目的物ハ死體、遺骨、遺髪又ハ棺内ニ藏置シタル物ナルコト、(三)之ヲ損壞、遺棄又ハ領得シタルコト、是ナリ而シテ是等要件ハ既ニ前二條ニ就キ説明シタル所ニヨリ明白ナルヲ以テ茲ニ贅セス

猶ホ一言スヘキコトハ本條規定ナキトキハ第百八十九條ト第百九十條ノ罪ヲ構成シ併合罪ノ規定ニ從テ處分スヘキモノナルニ法律ハ之ヲ特別ノ一罪トシテ重刑ヲ科スルコト、ナシタルナリ

二、處分 本罪ヲ犯シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス、蓋シ本罪ハ本章程定ノ罪中ニアリテ情狀最モ重キモノナルヲ以テ從テ其刑モ最重キナリ

第九十二條

處ス

第九十二條 檢視ヲ經スシテ變死者ヲ葬リタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

本條ハ檢視ヲ經スシテ變死者ヲ葬リタル罪ノ規定ナリ(舊刑法第四百二十六條第九號)

一、成立要件 本罪ハ二ヶノ要件ヨリ成ル即チ(一)變死者ナルコト(二)檢視ヲ經スシテ葬リタルコト是ナリ

第一要件 變死者ナルコト、變死者トハ通例病氣ノ爲メニ斃レタルニ非スシテ自他ノ事故ニ因リ變則的死亡ヲ遂ケタルモノヲ謂ヒ例セハ溺死者、溢死者、負傷死等枚擧ニ違アラス

第二要件 檢視ヲ經スシテ葬リタルコト 變死ハ往々犯罪ニ起因スルコトアリ故ニ變死者ハ相當官署ノ檢視ヲ經タル上ニ非ラサレハ葬ルヲ得サルコト至當ナリ然レトモ元來此種ノコトハ行政取締上ノコトニ屬スヘキモノナルカ故ニ之ヲ刑法法典ニ收ムルハ妥當ナラスト信ス

二處分 本罪ヲ犯シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第二十五章 瀆職ノ罪

五一六

一、公務員ハ一定ノ職務權限ヲ有スル國家ノ爲政機關タリ若シ夫レ職權アルニ乘シ之ヲ濫用シテ私意ヲ逞フスルモノアラシカ一般公務員タル者ノ威望ヲ汚瀆スルノミナラス遂ニ國政ノ運用ヲ阻害スルニ至ル可キヲ以テ行政法規ニ於テ之ヲ戒飭スル方法ヲ規定シアルモ其甚シキモノニ至リテハ到底之ヲ單ニ行政上ノ懲罰ニノミ委スヘキニ非ラス故ニ本法ハ特ニ本章ヲ設ケテ公務員ノ非行ヲ處罰スルコト、ナシタリ是レ本章ノ立法理由ナリ

二、本章規定スル所ノ瀆職罪ハ公務員カ其職務上ノ義務ニ違背シテ職權ヲ濫用シ又ハ職務ニ關シテ私利ヲ圖リタル罪ト非公務員ノ贈賄罪ナリ然レトモ公務員ノ瀆職行爲ハ獨リ是等ニ止マラス他章ニ於テモ亦便宜之ヲ規定シタル例少カラス例セハ被拘禁者ヲ看守又ハ護送スル者カ之ヲ逃走セシメタル罪(第一百一條)稅關官吏カ阿片烟又ハ其吸食器具ヲ輸入シ又ハ其輸入ヲ許シタル罪(第一百三十八條)若クハ公務員其職務ニ關シ文書若クハ圖畫ヲ偽造變造シタル罪(第一百五十六條)ノ如キ是ナリ

三、本章ハ舊刑法第二編第九章官吏瀆職ノ罪ニ相當スル規定ナリ舊刑法ニ於テハ第九章ヲ細別シテ官吏公益ヲ害スル罪、官吏人民ニ對スル罪及ヒ官吏財產ニ對スル罪ノ三節トナシタリシカ本法ニ於テハ只官吏人民ニ對スル罪ノミヲ存シ他ノ二節ヲ削除シタリ蓋シ舊刑法ニ所謂官吏公益ヲ害スル罪中ニ規定シアリタル官吏管掌ニ係ル法律規則ヲ公布施行セス又ハ他ノ官吏ノ公布施行ヲ妨害シタル罪(舊刑法第二百七十三條)ノ如キハ方今實際上殆ント其要ナク地方騷擾ノ際鎮撫處分ヲ爲サ、ル罪同第二百七十四條)ノ如キ場合ニアリテハ若シ官吏カ騷擾者ト通謀スレハ其共犯者トシテ論スヘク然ラサレハ之レ行政上ノ戒飭ヲ以テ足ル可キ事項ニ屬スルカ故ニ特ニ之ヲ刑法ニ存置スルノ要ナク又官吏ノ營業ヲ禁止シタル規定同第二百七十五條)ノ如キハ專ラ服務規律ニヨリ之ヲ制止スヘク殆ント之ヲ刑事上ノ問題トナスノ價值ナカルヘク次ニ第三節官吏財產ニ對スル罪トシテ規定セラレタル第二百八十九條ノ所謂監守盜罪ノ如キハ本法第二百三十五條ノ竊盜罪若クハ第二百五十三條ノ業務上ノ橫領罪トシテ處罰スルモ敢テ罪刑其權衡ヲ失フコトナカル可キヲ以テ特ニ之ヲ別罪トシテ規定シ置ク要ナク又舊刑法第二百九十條ニ規定シタル不正徵收罪ノ如キハ多數ノ場合ニ於テハ之ヲ恣ニ橫

領スルノ意思ニ出ツヘキカ故ニ之ヲ横領罪トシテ處分シ得ヘク若シ横領スル等不正ノ意思ニ出テサルニ於テハ行政法規ニ從ヒ處分スレハ足り刑法ニ之ヲ規定スル要ナケレハナリ

四、以上ノ外猶ホ本章規定ハ舊刑法ニ比シ左ノ諸點ニ於テ修正セラレタリ

(イ) 本法第九十四條ニ相當スル舊刑法第二百七十八條ニ於テハ「逮捕官吏云々」ト規定シアリシヲ以テ本罪ノ主體ハ獨リ逮捕ノ職責アル官吏ニ限ルカ如ク解セラルヘキカ故ニ本法ハ廣ク裁判、檢察、警察ノ職務ヲ行ヒ又ハ之ヲ補助スル者云々ト規定シ以テ其適用ノ範圍ヲ明確ニシタリ、

(ロ) 暴行、陵虐罪ニ關シ舊刑法ハ其第二百八十二條第一項ニ於テ「被告人ニ對シ罪狀ヲ陳述セシムル爲メ云々」ト規定シ其場合ヲ限定シタリシカ狹キニ失スルヲ以テ本法ハ第九十五條第一項ニ於テ「刑事被告人其他ノ者ニ對シ暴行又ハ陵虐ノ行爲ヲ爲シタルトキ云々」ト規定シ以テ其適用ノ範圍ヲ擴大シタリ、

(ハ) 舊刑法ニ於テハ收賄罪ニ就キ民事刑事ヲ區別シ特別ニ之ヲ處分シタリシト雖モ等シク收賄罪ニシテ之ヲ區別スヘキ理由ナキヲ以テ本法ハ之カ區別ヲ認メス一括シテ第九十七條ニ規定シタリ

(ニ) 舊刑法ニ於テハ收賄罪ノ主體ヲ裁判官、檢察官、警察官吏ニ限リタル結果其他ノ公務員ニ關シテハ特別法、濫職法ヲ以テ之ヲ律スルノ止ムヲ得サルニ至リシカ本法ハ之ヲ擴大シテ單ニ之ヲ公務員ト規定シタル外猶仲裁人ヲモ加ヘテ規定シタリ

(ホ) 舊刑法ニ於テハ贈賄行爲ニ關シ何等規定スル所ナカリシ結果從來此點ニ付キ學說實例共ニ區々トシテ一途ニ出サリシカ本法ハ特ニ之ニ關スル規定ヲ補足シ明文ヲ以テ論争ノ根元ヲ絶チタリ

五、本章規定ノ罪ハ第九十八條ノ罪ヲ除ク外凡テ一定ノ身分ヲ以テ其構成要件トナス、故ニ此身分ナキ者ハ單獨ニテハ本章ノ罪ヲ犯シ得サルコト勿論ナリト雖モ身分アル者ト共同シテ犯シタル場合ニ於テハ身分ナキ者ト雖モ亦本章ノ罪ノ共犯トシテ處罰スルコトヲ妨ケス是レ總則共犯ノ原則ニ照ラシ疑ナキ所ナリ
以下各本條ニ就キ略說ス可シ

第九十三條 公務員其職權ヲ濫用シ人ヲシテ義務ナキ事ヲ行ハシメ又ハ行フ可キ

權利ヲ妨害シタルトキハ六月以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

本條ハ公務員ノ職權濫用ニ關スル罪ノ規定ナリ(舊刑法第二百七十六條)

一、成立要件 本罪ノ成立要件ヲ別チテ二トナス即チ(一)犯罪ノ主體ハ公務員タルコト(二)其職務ヲ濫用シ人ヲシテ義務ナキ事ヲ行ハシメ又ハ行フ可キ權利ヲ妨害シタルコト是ナリ、左ニ分説スヘシ、

第一要件 主體ハ公務員タルコト 本罪ノ主體ハ公務員タルコトヲ要スルカ故ニ非公務員ニ關シテハ公務員ト共同シタル場合ヲ除外シテハ單獨ニテ本罪ヲ犯スコトヲ得ス、而シテ公務員ノ何タルヤニ付テハ本法第七條ノ規定スル所ニシテ即チ同條ニ從ヘハ公務員トハ官吏、公吏、法令ニ依リ公務ニ從事スル議員委員其他ノ職員ヲ謂フ、仍ホ詳細ニ關シテハ同條説明ヲ參照セラルヘシ

第二要件 其職務ヲ濫用シ人ヲシテ義務ナキ事ヲ行ハシメ又ハ行フ可キ權利ヲ妨害シタルコト、凡テ公務員ハ法令ノ認許シタル範圍内ニ於テ一定ノ職權ヲ有ス、若シ公務員カ其範圍ヲ超越シ不法ニ其職權ヲ行使シタル場合ニ於テハ之ヲ稱シテ職權ヲ濫用スト謂フ、例セハ司法警察官ハ犯罪ノ現行アリタル場合ニ於テハ犯人ヲ逮捕シ犯所ヲ檢證シ若クハ證據物件ヲ押收スルコトヲ得ル職權アリト雖モ非現行犯ノ場合ニ於テハ當該官吏ノ令狀ナクシテ犯人ヲ逮捕シ若クハ檢證スルコトヲ得サルカ故ニ若シ此場合ニ於テ令狀ナクシテ犯人ヲ逮

捕、檢證シ若クハ證據物件ヲ押收スルカ如キハ所謂職權濫用ナリ、然レトモ職權濫用ト云フニハ其公務員ノ職務ニ關聯スルコトヲ要スルカ故ニ縱令公務員タル身分アリト雖モ毫モ其職務ニ關聯スル所ナケレハ所謂職權濫用ナル問題ヲ惹起セス別言スレハ公務員ノ不正行爲ハ常ニ必スシモ所謂職權濫用ナリト爲スヲ得ス、例セハ司獄官吏ニハ絶對的ニ犯罪人ヲ逮捕スル職權ナキヲ以テ若シ司獄官吏カ自ラ犯罪アリトシテ恣ニ人ヲ逮捕シタル如キ場合ニ於テハ第二百二十條ニ規定アル罪トナルハ格別決シテ本條ノ罪トナラサルカ如シ而シテ本罪ハ職權濫用ノ事實アル外猶之ニ因リテ人ヲシテ義務ナキ事ヲ行ハシメ又ハ行フ可キ權利ヲ妨害シタル事實アルコトヲ要ス、人ヲシテ義務ナキ事ヲ行ハシメト云フハ法令上行フヘキ義務ナキニ拘ハラス強ヒテ之ヲ實行セシメタル場合ハ勿論未タ履行期ニ至ラサル以前ニ於テ強ヒテ之ヲ履行セシメタル場合ヲモ包含スト解釋スルヲ通説ナリトス、行フ可キ權利ヲ妨害シタルト云フハ權利行使ヲ妨害シタルト云フ意味ニシテ舊刑法ニ所謂爲ス可キ權利ヲ妨害ストアルニ同シ即チ妨害セラレタリト云フ者ニ法令上當然爲スヘキ權利アリタルコトヲ前提トス故ニ未タ權利ト稱ス可ラサル單純ナル希望タルニ過キサル場合

ニ於テハ本罪ヲ構成セサルモノトス
二、處分、本罪ヲ犯シタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス情狀ニ依リ定役アル懲役若クハ定役ナキ禁錮ヲ科スヘキモノトシタリ

第九十四條 裁判、檢察、警察ノ職務ヲ行ヒ又ハ之ヲ補助スル者其職權ヲ濫用シ人ヲ逮捕又ハ監禁シタルトキハ六月以上七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

本條ハ裁判檢察警察等ノ事務ニ從フ者ノ不法逮捕監禁ニ關スル規定ナリ(舊刑法第二百七十八條)

一、成立要件 本罪ノ成立要件ヲ別チテ二トナス、即チ(一)犯罪ノ主體ハ裁判、檢察、警察ノ職務ヲ行ヒ又ハ之ヲ補助スル者タルコト(二)其職權ヲ濫用シ人ヲ逮捕又ハ監禁シタルコト是ナリ

第一要件 主體ハ裁判、檢察、警察ハ職務ヲ行ヒ又ハ之ヲ補助スル者タルコト
通常人カ不法ニ人ヲ逮捕シ又ハ監禁スルノ罪ハ第二百二十條ニ規定スル所タリト雖モ本法ハ本條列記ノ身分アル者ニ關シテハ本條規定ヲ設ケ特ニ之ヲ重罰シタリ、蓋シ裁判檢察警察等ノ職務ニ關與スル者ハ名ヲ職務ノ執行ニ藉リ擅ニ人ヲ逮捕監禁スル危險通常人ニ比シ更ニ一層大ナルヲ以テナリ、舊刑法第二

百七十八條ニ於テハ主體ヲ單ニ逮捕官吏ニ限リシモ狹キニ失スルヲ以テ本法ハ之ヲ擴張シタリ、而シテ茲ニ所謂裁判トハ司法裁判ヲ意味シ檢察トハ犯罪訴追ヲ意味シ警察トハ司法警察ヲ意味シ之ヲ補助スル者トハ憲兵卒ノ如キモノヲ指稱シ、職權ヲ有スル者タルコトヲ要スル結果單ニ一私人カ事實上補助シタル場合ニアリテハ本罪ヲ構成セサルモノトス
第二要件 職權ヲ濫用シテ人ヲ逮捕シ又ハ監禁シタルコト、所謂逮捕トハ居所移轉ノ自由ヲ剝奪スルノ謂ナリ詳言スレハ有形的ニ人ノ或ル場所ニ往キ若クハ或ル場所ニ歸リ又ハ留ラントスル自由ヲ拘束スルヲ云ヒ監禁トハ一定ノ場所ニ留置シテ外出ノ自由ヲ剝奪スルノ謂ニシテ共ニ人身ニ對スル有形的束縛ナリト雖モ必ラスシモ繩縛スルヲ要セス而シテ逮捕監禁ハ公務員ノ職權濫用ノ結果タルコトヲ要スルコト前條ノ罪ニ同シ故ニ裁判檢察警察ノ職ニ從事スル者ナリト雖モ其職權ニ關聯セサル場合ニ於テハ本條ヲ以テ律スルヲ得ス例セハ是等身分アル公務員カ其子女其他家人等ニ對シ懲戒ト見ル可ラサル程度ニ制縛監禁ヲ爲シタルカ如キ場合ニ於テハ他罪(第二百二十條)トナルハ格別決シテ本罪ヲ構成セサルカ如シ

最後ニ注意スヘキコトハ本條及ヒ前條ノ罪ト錯誤トノ關係ナリ、事實及ヒ刑罰法令以外ノ法ノ錯誤ハ犯罪ノ成立ヲ阻却スヘキコト刑法ノ原則タリ、今本條及ヒ前條ノ罪ニ關シ公務員カ自己ニ爲スヘキ職權アリト信シテ之ヲ遂行シタルニ職權濫用ノ結果ヲ生シタル場合ニ於テハ所謂錯誤ニシテ總則ノ適用上罪責ナキナリ、然レトモ果シテ錯誤ニ出テタリシヤ否ヤハ事實問題ニ歸着スルヲ以テ裁判所ノ認定ニ俟ツ外ナキナリ

二、處分 本罪ヲ犯シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス、舊刑法ハ監禁日數十日ヲ經ル毎ニ一等ヲ加フル主義ヲ採リタリト雖モ細密ニ失シ實益ナキヲ以テ本法ハ之ヲ改メ刑罰範圍ヲ擴大シ裁判官ヲシテ適宜其刑ヲ科セシムルコト、シタリ

第九十五條 裁判、檢察、警察ノ職務ヲ行ヒ又ハ之ヲ補助スル者其職務ヲ行フニ當リ刑事被告人其他ノ者ニ對シ暴行又ハ陵虐ノ行爲ヲ爲シタルトキハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス
法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ護送スル者被拘禁者ニ對シ暴行又ハ陵虐ノ行爲ヲ爲シタルトキ亦同シ

本條ハ裁判其他ノ職務ヲ執ル者カ刑事被告人其他ニ對シテ暴行陵虐ノ行爲ヲ爲

シタル場合ニ關スル規定ナリ、舊刑法第二百八十二條第一項第二百八十條第一項「**第一項** 本項ハ裁判、檢察、警察ノ職務ヲ行ヒ又ハ之ヲ補助スル者ニ關スル規定ニシテ其成立要件ト處分トハ左ノ如シ

一、成立要件 本罪ノ成立要件ヲ別チテ四トナス、即チ(一)主體ハ裁判、檢察、警察ノ職務ヲ行ヒ又ハ之ヲ補助スル者タルコト(二)刑事被告人其他ニ對シタルコト(三)暴行又ハ陵虐ノ行爲アリタルコト(四)其職務ヲ行フニ當リテ爲シタルコト是ナリ

第一要件 主體ハ裁判、檢察、警察ノ職務ヲ行ヒ又ハ之ヲ補助スル者タルコト、是レ前條ニ於テ述ヘタル所ニ同シケレハ再說セス

第二要件 刑事被告人其他ノ者ニ對シタルコト 所謂刑事被告人トハ檢事ヨリ訴追ヲ受ケタル者ニ限ラス凡テ犯罪ノ嫌疑者トシテ逮捕又ハ訊問セラル、者ノ總稱ナリ其他ノ者トハ一般ニ當該官吏ヨリ取調ヲ受クル所ノ刑事被告人以外ノ者ヲ汎稱ス例セハ證人、參考人若クハ鑑定人等トシテ訊問セラル、者是ナリ即チ本罪ハ刑事被告人其他ノ被取調者ニ對スルニ非ラサレハ成立セサルカ故ニ裁判、檢察、警察ノ職務ヲ行フ者カ其職務ヲ行フニ當リテ被取調者以外ノ者ニ對シ暴行又ハ陵虐ノ行爲アルモ他罪ヲ構成スルハ格別本罪トナラサルモ

ノトス

第三要件 暴行又ハ陵虐ノ行爲ヲ爲シタルコト 茲ニ所謂暴行トハ最廣義ニ解スヘキモノニシテ被害者ノ身體又ハ財産ニ對シ不法ノ腕力ヲ加フルコトヲ意味シ陵虐トハ殘虐又ハ苛酷ナル取扱ヲ爲スノ義ニシテ總テノ苛酷ナル行爲中暴行ト稱ス可ラサルモノヲ概括シタル文字ナリ即チ舊刑法ニ所謂飲食衣服ヲ屏去スルカ如キハ其適例ナリ而シテ暴行又ハ陵虐ナル行爲ヲ爲シタル以上ハ其之ヲ爲シタル目的ノ何邊ニ存スルヲ問ハス又公務員自ラ手ヲ下スト將タ又他人ニ命シテ之ヲ爲サシメタルトヲ區別セス本罪ノ數々實現スルハ所謂拷問ノ場合ナリ

第四要件 其職務ヲ行フニ當リ之ヲ爲シタルコト 其職務ヲ行フニ當リトハ職務執行中ナルコトヲ意味ス固ト本罪ハ職權濫用ヲ處罰スル主旨ニ出テタルモノナルヲ以テ裁判檢察警察ノ職ニ從事スル者縱令刑事被告人若クハ其他ノ者ニ對シ暴行又ハ陵虐ノ行爲ヲ爲シタル場合ナリト雖モ其職務執行中ニ非ラサレハ他罪ヲ構成スルハ格別特ニ身分ヲ要件トナシテ重罰ヲ科シタル本條ヲ以テ處罰スヘキ限りニ在ラス

二、處分 本罪ヲ犯シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第二項 本項ハ被拘禁者ヲ看守又ハ護送スル者ニ關スル規定ニシテ其成立要件ト處分ハ左ノ如シ

一、成立要件 本項ノ罪ハ四ケノ要件ヨリ成ル即チ(一)主體ハ法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ看守又ハ護送スル者タルコト(二)客體ハ法令ニ因リ拘禁セラレタル者ナルコト(三)暴行又ハ陵虐ノ行爲ヲ爲シタルコト(四)其職務ヲ行フニ當リ爲シタルコト是ナリ

第一要件 主體 ハ法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ看守又ハ護送スル者タルコト 本罪ハ犯人ニ此身分アルコトヲ要スルカ故ニ此身分ナキ者ニ對シテハ本罪ノ成立スヘキ餘地ナキコト多言ヲ要セスシテ明白ナリ看守又ハ護送スル者ノ意義ニ付テハ彙ニ第一百一條ニ關シ説明シタル所ナルヲ以テ同條説明ヲ參照セラレヨ

第二要件 客體 ハ法令ニ因リ拘禁セラレタル者ナルコト 所謂被拘禁者トハ法令ニ因リ或ル一定ノ場所ニ拘置セラレタル者ノ總稱ニシテ單ニ刑事被告人ニ限ラス猶其詳細ニ關シテハ既ニ第九十九條等ニ關シ説明シタル所ナルヲ以

テ茲ニ再說セス讀者乞フ參照セヨ

第三要件 暴行又ハ陵虐ハ行爲ヲ爲シタルコト 是レ前項ニ付テ說述シタル所ニ同シケレハ略ス

第四要件 其職務ヲ行フニ當リ之ヲ爲シタルコト 本項明文ニハ之ヲ示サレスト雖モ本項ハ前項ノ後ヲ承ケテ規定セラレタルモノニシテ既ニ前項ニ於テ之ヲ明示シタル以上ハ次項ニ於テ之ヲ再ヒセサルコト蓋シ本法全體ニ通スル用例ナルヲ以テ本項モ亦前項同様ニ本要件ヲ具備セサル可ラサルモノト解ス而シテ本要件ノ說明ニ關シテハ前項下ノ說明ヲ參酌セラルヘシ

二、處分 本罪ヲ犯シタル者ハ前項ノ罪ニ同シク三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス蓋シ罪質同シケレハナリ

第九十六條 前二條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

本條ハ第九十四條若クハ第九十五條ノ罪ヲ犯シタル結果人ヲ死傷ニ致シタル場合ニ關スル特別規定ナリ(舊刑法第八十條第二項、第八十二條第二項)
一、成立要件 本罪ノ成立要件ヲ別チテ二トス即チ(一)前二條ノ罪ヲ犯シタルコト

(二)因テ人ヲ死傷ニ致シタルコト是ナリ

第一要件 前二條ノ罪ヲ犯シタルコト 即チ第九十四條若クハ第九十五條ニ規定セル不法逮捕監禁若クハ暴行陵虐罪ヲ犯シタルコトヲ要スルカ故ニ前二條ニ列記セル身分アル者カ刑事被告人其他ヲ死傷ニ致シタルコトアリトスルモ前二條ノ陵虐罪ヲ犯シタル結果タルニ非ラサレハ本條ノ範圍内ニ屬セサルコト勿論ナリ

第二要件 因テ人ヲ死傷ニ致シタルコト 茲ニ所謂人トハ前二條ニ云ヘル客體ナラサル可ラス從テ第九十四條ノ罪ヲ犯シタル場合ニ關シテハ一般人ヲ意味シ第九十五條ノ罪ヲ犯シタル場合ニ關シテハ刑事被告人其他ノ者若クハ被拘禁者ヲ意味ス而シテ本罪ハ結果犯ナルヲ以テ死傷ニ關シテハ故意又ハ過失アルコトヲ要セサルコト勿論ナリト雖モ死傷ト前二條ノ罪トノ間ニ在リテハ因果關係ノ存在ヲ要ス猶ホ本條ハ第八十一條等ノ立法趣旨ト同一ナルヲ以テ同條等ノ說明ヲ參照スレハ自ラ釋然タルモノアルヘキナリ

二、處分 本罪ヲ犯シタル者ハ前二條ノ罪ト傷害罪トヲ比較シ結局重キ傷害罪ニ從ヒテ處斷セラル、コトトナルヘシ

第九十七條 公務員又ハ仲裁人其職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若クハ約束シタルトキハ三年以下ノ懲役ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲サ、ルトキハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス
 前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收シ若シ其全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其價格ヲ追徴ス

本條ハ所謂收賄罪ニ關スル規定ナリ(舊刑法第二百八十四條乃至第二百八十八條

瀆職法參照)

第一項、本項ノ罪ハ前段ト後段トニヨリ其罪素ト處分トヲ異ニス故ニ便宜左ニ之ヲ分説ス可シ

(甲)前段ノ罪 本罪ハ公務員又ハ仲裁人其職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若クハ約束シタル場合ニ關スル規定ニシテ其成立要件ト處分ハ次述スル所ノ如シ

一、成立要件 本罪ノ成立要件ヲ別チテ二トナス即チ(一)主體ハ公務員又ハ仲裁人タルコト(二)其職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求シタルコト是ナリ

第一要件 主體ハ公務員又ハ仲裁人タルコト 本罪ノ主體ハ公務員又ハ仲裁人ニ限定ス公務員ニ付テハ前來數々説述シタル所ニ屬スルヲ以テ之ヲ賂ス仲

裁人トハ民事訴訟法ノ仲裁手續ノ規定(民事訴訟法第七百八十六條)ニ從ヒ爭議者ノ間ニ仲介シテ和議ノ職務ヲ執ル者ヲ謂フ故ニ只德義上爭議者双方ノ間ニ立チテ仲裁ノ勞ヲ執リタルノミニシテ特ニ法律ノ保護ヲ受ケサル單純ナル意味ニ於ケル仲裁人ニ對シテハ本條ノ適用ヲ見ス而シテ公務員又ハ仲裁人タル資格ハ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若クハ約束シタル當時ニ於テ現實ニ之ヲ具備スルコトヲ要スルカ故ニ現ニ此資格ヲ有セサル者カ將來此資格ヲ有スヘキ場合アルヲ豫想シ條件付ニ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若クハ約束シ而カモ爾後其豫想實現シ此資格ヲ享有スルニ至リシ場合ト雖モ所謂賄賂罪アリトナスコトヲ得サルナリ此點ニ關シテハ從來學說ノ岐ル、所ナリシト雖モ我大審院ハ最近夫ノ日糖事件ニ付キ消極説ヲ是認シタリ
 第二要件 其職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求シ若クハ約束シタルコト所謂賄賂トハ公務員又ハ仲裁人カ自己ノ職務ニ關シ人ノ請託ヲ容レ之ニ應スル報酬トシテ得可キ不正ノ利益ヲ謂フ左ニ之ヲ分折説明センニ
 (イ)賄賂ハ不正ノ利益ナラサル可ラス賄賂タルヘキ利益ノ何タルヤニ關シテハ學說一致セス或ハ(一)金錢ニ見積リ得ヘキ物ナラサル可ラスト説キ或ハ(二)金

錢ニ見積リ得ヘキコトヲ要セスト雖モ有形的利益ナラサル可ラスト論シ、或ハ(三)金錢ニ見積リ得ヘキモノタルト否トヲ問ハス又有形的ナルト否トヲ論セス苟クモ人ノ需用ヲ充タスニ足ルヘキ一切ノ利益ヲ包含スト説ク而シテ第三説ハ通説ニシテ亦大審院ノ是認スル所タリ、故ニ此説ニ從ヘハ報酬トシテ婦人ヲ周旋スルカ如キ無形の快樂モ亦所謂賄賂タルヲ妨ケサルナリ、

(四)賄賂トハ公務員又ハ仲裁人カ其職務ニ關シ不正ニ得ヘキ利益ナラサル可ラス、一般ニ職務ト云ヘハ法令上認許セラレタル一定ノ權限ヲ指稱スト雖モ茲ニ所謂職務トハ法令上抽象的ニ定メラレタル事項ヲ指稱スルニ非ラスシテ具體的ニ定マリタル或ル事項ヲ意味ス故ニ單ニ將來若シ刑事々件起ラハト云フカ如キ意味ニ於テ受ケタル利益ハ以テ賄賂ナリトナスヲ得ス然レトモ具體的ニ一定ノ職務ニ關スル以上ハ其帶務ナルト將タ又特ニ命令セラレタルトヲ區別セス、即チ本罪ハ其職務ニ關スルコトヲ要スルカ故ニ從テ(一)縱令公務員若クハ仲裁人ト雖モ單ニ一私人ノ資格ニ於テ他人ヨリ金品ノ贈與ヲ受クルモ罪トナラス(二)自己ノ權限外ニ屬スル事項ヲ權限内ニ屬スルカ如ク他人ヲ欺罔シテ賄賂ヲ收受シタルトキハ本罪ニ非スシテ詐欺罪ナリ(三)之ニ反

シテ自己ノ權限外ノ事項ヲ自己ノ權限内ニアリト誤信シ之ニ關シテ收賄シタルトキハ本罪ヲ構成セサルト同時ニ又詐欺罪ヲモ構成セサルコト、ナルハ人ノ請託ヲ容レ之ニ應スル不正ハ報酬タラサル可ラス、職務執行ニ關シ人ノ請託ヲ容ル、報酬タルヘキコトハ賄賂ナル語義ニ徴シ蓋シ疑ナカルヘキナリ而シテ請託ハ多クノ場合ニ於テハ將來ノ處分行爲ニ對スルモノトス從テ職務ノ執行ヲ終リタル後ニ至リ突然關係者ヨリ慰勞若クハ報酬トシテ自己ノ豫期セサル或ル利益ヲ受タルモ本罪ヲ構成セサルコト當然ナリ、

(二)賄賂罪トシテハ公務員又ハ仲裁人カ特ニ或ル行爲ヲ爲シ若クハ爲サ、リシコトヲ必要トセス若シ之アリタル場合ニ於テハ特ニ本條後段ノ罪ヲ構成スヘキノミ

賄賂ノ本質ハ前述シタル所ニヨリ略ホ之ヲ了解シ得ラルヘキヲ以テ更ニ他事項ニ付キ説ク可シ、法文ニ所謂收受トハ現實ニ利益ヲ收得シタルヲ謂ヒ要求トハ賄賂ヲ提供スヘキコトヲ求ムルヲ謂ヒ相手方カ之ヲ受諾シタルト否トヲ問ハス約束トハ將來ニ於テ賄賂ヲ收受スヘキコトノ合意ヲ謂ヒ爾後之ヲ現實ニ授受シタリヤ否ヤハ本罪ノ成立ニ影響ナシ、而シテ本罪ハ賄賂ヲ收受シ又ハ

之ヲ要求シ又ハ之ヲ約束スル何レノ場合ニ於テモ構成セララルヘキコト勿論ナ
リト雖モ若シ同一人ニ對シ先ツ賄賂ヲ要求シテ約束シ更ニ之ヲ收受シタル場
合ハ單純ナル一罪トシテ論スヘキカ第五十五條ヲ適用スヘキ一罪ナルカ將タ
又數罪トシテ論スヘキカニ付テハ異說アリト雖モ予輩ハ單純ナル一罪トシテ
處斷スヘキモノナリト信ス蓋シ要求若クハ約束ハ收受ノ前提ト見ルヘキモノ
ナルヲ以テ收受アリタル場合ハ要求約束ノ如キハ收受ノ行爲中ニ包含セラ
ルヘキモノナレハナリ

二、處分 本罪ヲ犯シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス、舊刑法ニ比シ科刑頗ル重キ
ヲ加ヘタリ

(乙)後段ノ罪 本段規定ハ收賄ノ結果トシテ或ル行爲ヲ爲シ若クハ爲サ、リシ場
合ニ關スルモノニシテ其成立要件ト處分ハ次ノ如シ

一、成立要件 本罪ハ二ケノ要件ヨリ成ル即チ(一)公務員又ハ仲裁人カ其職務ニ關
シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求シ若クハ約束シタルコト(二)因テ不正ノ行爲ヲ爲シ
又ハ相當ノ行爲ヲ爲サ、リシコト是ナリ而シテ右第一要件ハ既ニ前段説明シタ
ル所ナルヲ以テ之ヲ略シ第二要件ニ關シ略述スヘシ

收賄ノ結果自己ノ爲ス可ラサル不正行爲ヲ爲シ若クハ自己ノ爲スヘキ相當ノ行
爲ヲ爲ササリシトキハ其害毒一層重大ナルヘキヲ以テ法律ハ特ニ重刑ヲ以テ之
ヲ待ツ不正ノ行爲ヲ爲シタルカ故ニ收賄スト雖モ正當ナル行爲ヲ爲シタルト
キ若クハ未タ不正ノ行爲ヲ爲ササリシトキハ本罪ヲ構成セス、又相當ノ行爲ヲ爲
サ、リシト云フハ即チ不作爲ニシテ本罪ノ成立時期ハ犯人カ爲ス可カリシ時期
ニ於テ未タ爲ササリシ時ニ在リト解ス

二、處分 本罪ヲ犯シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス、科刑重キヲ加ヘタ
ルハ蓋シ時弊ニ適中シタルモノナリト信ス、

第二項 本項ハ收賄物ノ沒收及ヒ追徴ニ關スル規定ナリ(舊刑法第二百八十八條
瀆職法參照)

收賄物ハ犯罪組成物件ナリ故ニ之ヲ犯人ノ有ニ歸セシメ、若クハ贈賄者ニ返還セ
シムルカ如キハ策ノ得タルモノニ非ラサルヲ以テ本法ハ特ニ本項ニ於テ現存シ
タル賄賂ハ之ヲ官ニ沒收スヘキモノトナシタリ然レトモ既ニ現存セサル賄賂ニ
付テハ之ヲ沒收スルコト不能ニ屬スルヲ以テ法律ハ此場合ニ於テハ之ヲ費消シ
タルト其他ノ原因ニ基ツクトヲ區別セス全部又ハ其一部ニ相當スル價額ヲ追徴

スヘキモノトシタリ

沒收ノ附加刑タルコトニ關シテハ別ニ説明ヲ要セサルヘシト雖モ追徴ハ性質ニ關シテハ之ヲ財産刑ノ一種ナリトスル説ト否ラストスル説トアリト雖モ判例ハ前説ヲ採ル若シ之ヲ財産刑ノ一種ナリトセンカ刑罰當然ノ效果トシテ追徴ハ犯人一身ニ限り其相續人ニ及ハサルコトトナルヘシ又多數人一團トナリテ收賄シタル場合ニ於ケル追徴ニ關シテモ實際各犯人ノ費消シタル額ノ如何ヲ論セス連帶責任ヲ以テ犯人全體ヨリ追徴スヘシトスル説ト平等額ニ於テ各犯人ヨリ追徴スヘシトスル説ト絶對的ニ其消費額ニ相應シテ追徴スヘシトスル説アリテ大審院ハ初メ第一説ヲ採リシモ最近ニ至リ第二説ヲ採用スルコトナレリ

第九十八條

公務員又ハ仲裁人ニ賄賂ヲ交付、提供又ハ約束シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

本條ハ贈賄者ノ處罰ニ關スル規定ナリ舊刑法ニ於テハ贈賄者ニ關スル規定ヲ缺如シタリシ爲メ贈賄者ノ處分ニ關シ全ク之ヲ無罪ナリト説クモノト有罪ナリト論スルモノトアリ有罪説ヲ採ルモノノ中ニアリテモ贈賄者ハ收賄罪ノ必要的共

犯人ナリトナス説ト教唆犯ナリトスル説ト從犯ナリトスル説トアリテ殆ント歸一スル所ナカリキ然レトモ熟ラ實際ノ狀ヲ觀ルニ贈賄者アルカ爲メニ收賄者アリト云ヒ得ヘク往々贈賄行爲ニ因リテ收賄ヲ餘儀ナカラシメタル例モアリテ贈賄者ハ收賄者ニ比シ却テ其情重キモノアリ之ヲ無罪トスルカ如キハ法律上ノ論議ハ免マレ決シテ策ノ得タルモノニ非ラス故ニ本法ハ特ニ本條規定ヲ設ケテ以テ賄賂罪ノ禍根ヲ絶タントス

第一項 本項ハ公務員又ハ仲裁人ニ賄賂ヲ交付、提供又ハ約束シタル場合ニ關スル規定ニシテ其成立要件ト處分ハ左ノ如シ

一、成立要件 本罪ハ二ヶノ要件ヨリ成ル即チ(一)公務員又ハ仲裁人ニ對シタルコト(二)賄賂ヲ交付、提供又ハ約束シタルコト是ナリ

第一要件 公務員又ハ仲裁人ニ對シタルコト 本罪ハ公務員又ハ仲裁人ニ賄賂ヲ交付、提供又ハ約束シタルコトヲ要スルカ故ニ非公務員又ハ非仲裁人ニ對シ如上ノ行爲ヲ爲スモ本罪ヲ構成セス而シテ公務員又ハ仲裁人ノ意義ニ關シテハ既ニ説述シタル所ナルヲ以テ茲ニ再説スルノ要ナシ

第二要件 賄賂ヲ交付、提供又ハ約束シタルコト 本罪ノ行爲トシテハ本條列

記ノミニ限ル從テ本條列記以外ノ行爲アリタル場合ニアリテハ本罪ヲ構成セ
 ス所謂交付トハ賄賂ヲ相手方ニ收受セシムル謂ヒニシテ其間接直接ナルト其
 他手段ノ如何ヲ問ハス提供トハ收賄者カ現實ニ收得シ得ヘキ状態ニ置クヲ謂
 ヒ收賄者カ之ヲ收受シタルト否トハ本罪ノ成立ニ關係ナシ約束トハ賄賂ヲ將
 來ニ於テ交付スヘキコトノ合意ヲ謂ヒ其額ノ如キハ約束ノ當時ニ於テ確定ス
 ルコトヲ要セス而シテ贈賄ハ凡テ公務員若クハ仲裁人ノ職務ニ關シ爲シタル
 モノナルコトヲ要スルハ本章規定ノ性質上疑ナキ所ナリトス

二、處分 本罪ヲ犯シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス、收賄
 者ニ比シ科刑輕キハ蓋シ收賄者ノ如ク自己ノ身分ヲ利用シテ犯シタルモノニ非
 ラサルヲ以テナリ

第二項 本項ハ贈賄罪ノ自首ニ關スル特別規定ニシテ刑ノ減免ヲ與ヘテ以テ收
 賄罪ノ發生ヲ減少セシメントスル政策ニ出テタルモノナリ
 本項規定ノ適用ヲ受クルニハ(一)公務員又ハ仲裁人ニ賄賂ヲ交付、提供又ハ約束シ
 タルコト(二)自首シタルコトノ二要件ヲ具備セサル可ラス、而シテ之レカ説明ハ前
 條及ヒ第四十二條ニ就キ述ヘタル所ヲ參酌スレハ自ラ了解スルコトヲ得ヘキナ

右二要件ヲ具備シタル以上ハ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得セシム、其刑ヲ減
 輕又ハ免除スヘキヤ否ヤハ一ニ情狀ニ因ルヘキモノナルカ故ニ一ニ之ヲ裁判所
 ノ認定ニ委シタリ故ニ場合ニヨリテハ假令自首スルモ刑ノ輕減ナク又免除ナキ
 コトアルヘキナリ

第二十六章 殺人ノ罪

一、人ノ此世ニ於ケル生命ノ貴重ナルコトハ多言ヲ要セスシテ明カナリ、故ニ古來
 各國ノ立法例ニ於テ殺人ノ罪ニ對シテハ重刑ヲ以テ之ニ臨ム、即チ本章ハ之ニ關
 スル規定ニシテ凡ソ五ヶ條ヨリ成リ其内容ハ(一)一般殺人ノ罪(第九十九條)(二)殺
 親罪(第二百條)(三)殺人豫備罪(第二百一條)(四)自殺ニ關スル罪(第二百二條)ノ四種ヲ含
 ム

二、本章ハ舊刑法第三編第一章第一節謀故殺ノ罪及ヒ第五節自殺ニ關スル罪ヲ包
 括スル規定ナレトモ左ノ數點ニ於テ修正ヲ加ヘラレタルヲ見ル

(イ) 舊刑法ニ於テハ謀殺ト故殺トヲ區別シテ規定シタリシカ殺人ノ豫謀ニ出ツ

ルト否トノ如キハ一ニ其犯情ノ異ナルニ過キサレモノナルヲ以テ之ヲ區別シテ規定スルノ要ナキノミナラス却テ之アルカ爲メニ實際上往々困難ナル問題ヲ惹起スルノ外他ニ何等ノ實益ナキヲ以テ本法ハ之カ區別ヲ認メス刑罰範圍ヲ擴大シ以テ犯情ニ照ラシ適宜處斷セシムルコト、ナシタリ

(ロ) 舊刑法ニ於テハ謀故殺ヲ行ヒ誤テ他人ヲ殺シタル場合即チ所謂誤殺ハ仍ホ謀故殺ヲ以テ論スヘキモノナリト規定シタリシカ殺意ヲ以テ人ヲ殺シタル以上ハ其目的トシタル人ニ錯誤アルモ同シク殺人罪タルヲ失ハサルコト理論上當然ノコトニ屬スルヲ以テ特ニ明文ヲ以テ之ヲ規定スルノ要ナキノミナラス却テ之アルカ爲メニ人或ハ誤殺ヲ過失殺ト誤解スルニ至リシヲ以テ本法ハ之ヲ削除シタリ(舊刑法第二百九十八條)

(ハ) 舊刑法ニ於テハ毒殺及ヒ慘殺ニ關シ特ニ規定スル所アリシト雖モ是レ亦殺人ノ一方法ニ關シ從テ情狀ニ屬スヘキ問題ナルヲ以テ本法ハ之ヲ削除シタリ(舊刑法第二百九十三條第二百九十五條)

(ニ) 舊刑法ニ於テハ人ヲ殺スノ意ニ出テ詐稱誘導シテ危害ニ陥レ死ニ致シタル者ハ故殺ヲ以テ論シ其豫メ謀ル者ハ謀殺ヲ以テ論スト規定シタリシト雖モ

亦贅文ニ屬ス蓋シ殺人罪ハ人ヲ殺スヲ以テ本質トシ其手段ノ如何ヲ論セス故ニ犯人自ラ手ヲ下サスト雖モ其死ノ原因ヲ與ヘタル以上ハ殺人行爲トシテ論スルニ妨ケナキカ故ニ從テ本問ノ如キ場合ニ就キ特ニ之ヲ規定スルノ要ナケレハナリ(舊刑法第二百九十七條)

(ホ) 舊刑法ニ於テハ自己ノ利ヲ圖ルニ出テタル自殺教唆ヲ以テ一特別罪ト爲シタリシト雖モ此ノ如キモ亦一情狀タルニ過キサレヘキヲ以テ特ニ之ヲ區別スル要ナシトシテ本法ハ之ヲ削除シタリ(舊刑法第三百二十一條)

(ヘ) 舊刑法ニ於テハ殺人ノ豫備ニ關シテ規定スル所ナカリシモ本法ハ其豫備行爲モ亦危險ナルモノトシテ之ヲ處罰スルコト、ナシタリ
從テ本法ハ舊刑法ノ其レニ比シ著シク簡ニシテ且ツ明白ナルヲ得タリ以下各本條ニ就キ略説スヘシ

第九十九條 人ヲ殺シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ三年以上ノ懲役ニ處ス

本條ハ一般殺人ノ罪ヲ規定ス(舊刑法第二百九十二條)乃至第二百九十九條、第三百九條、第三百十一條、第三百十三條)

一、成立要件 本罪ノ成立要件ヲ別ニテ二トナス即チ(一)被害物體ハ生命アル人ナ

ルコト(二)殺害シタルコト是ナリ左ニ分説スヘシ

第一要件 被害物體ハ生命アル人タルコト 本罪ハ生命アル人即チ自然人ニ對スルコトヲ要スルカ故ニ自然人以外ノ法人若クハ既ニ生命ナキ死屍ニ對シテハ本罪ハ成立セス生命アル人トハ乃チ自然ニ自ラ生活機能ヲ營ム人タルコトヲ意味ス故ニ吾人カ所謂人タルノ始期ハ分娩ニ起ル詳言スレハ胎兒カ自己ノ機能ヲ以テ母體ヨリ獨立シテ生活機能ヲ營ミ得ル状態ニ達シタル時ニ在リテ猶此點ニ關シテハ疣痛説一部露出説全部露出説アルコトヲ注意スヘシ其終期ハ生活機能ノ絶止即チ死亡ノ時ニ在リトス從テ縱令畸形兒死ニ瀕シタル病者若クハ老衰者ナリト雖モ苟クモ自ラ生活機能ヲ營ミツ、アル以上ハ殺人罪ノ目的物タルコトヲ妨ケサルナリ

第二要件 殺害シタルコト 人ヲ殺害スルト云フハ即チ殺人ノ意思ヲ以テ不法ニ人ノ生命ヲ絶ツコトヲ意味ス生命ヲ絶ツト云フハ即チ生活機能ヲ絶止セシムルニ外ナラスシテ其積極的行爲ニヨルト消極的行爲即チ不作爲ニシテ例セハ殺意ヲ以テ嬰兒ニ乳ヲ與ヘサルカ如シニヨルト問ハス舊刑法ニ於テハ其手段ノ異ナルニ從ヒ其規定ヲ區別シタリシト雖モ本法ハ一切之ヲ制限セサ

ルヲ以テ刀劍其他兇器ヲ以テ撲殺スルト斬殺スルト毒殺スルト其他何等ノ方法ニ出ツルヲ論セス又其豫謀ニ出テタルト否トヲ區別セスト雖モ是等手段ノ如何若クハ豫謀ノ有無又ハ動機ノ如何ハ他罪ニ比シ刑期ノ量定ニ多大ナル影響ヲ與フヘキモノナルコト勿論ナリ而シテ殺人行爲ノ不法ナラサル以上ハ總則ノ適用上罪責ヲ免ルヘキコト多言ヲ要セサルナリ

二、處分 本罪ヲ犯シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ三年以上ノ懲役ニ處ス既ニ本章冒頭ニ於テ述ヘタルカ如ク本法ハ舊刑法ニ比シ著シク其規定ヲ簡ニシタル結果其犯情ニ差別アルヘキ本罪ニ關シテハ自ラ其刑罰範圍ヲ擴大シ以テ各犯情ニ適應スヘキ刑ヲ量定セシメサル可ラス是レ本條ニ於テ極刑タル死刑ヨリ輕キハ僅ニ三年ノ懲役ニ降ルコトヲ得セシメタル所以ナリ

第二百條 自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ヲ殺シタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス 本條ハ所謂殺親罪ニ關スル規定ナリ抑々尊屬親ノ尊重スヘキモノタルコトハ人類ヲ通シテ異ナラサル常理ニシテ殊ニ族制々度ヲ採レル我國俗トシテ當然ノコトニ屬ス故ニ苟モ子孫トシテ之ヲ殺害スルカ如キハ殺親罪トシテ特ニ重ク處罰スヘキ必要アルコト古來淪ル所ナシ本法カ特ニ此明文ヲ設ケタル所以モ亦實ニ

是ニ存ス(舊刑法第三百六十二條第一項)

一、成立要件 本罪ノ成立要件ヲ別チテ二トナス即チ(一)被害者ハ自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ナルコト(二)殺害シタルコト是ナリ

第一要件 本罪ハ被害者ハ自己又ハ配偶者ハ直系尊屬ナルコト、舊刑法第三百六十二條第一項ニ於テハ子孫其祖父母、父母ヲ謀殺故殺シタル者ハ云々ト規定シ其被害者ヲ祖父母、父母ニ限定シタル結果曾祖父母以上ニ及ハサリシハ狭キニ失スルノ嫌アリシカ故ニ本法ハ之ヲ單ニ直系尊屬ヲ殺シタル者云々ト改メ適用ノ範圍ヲ擴大シタリ

直系尊屬ナル語ハ既ニ民法上慣用セラレタル術語ニシテ一定ノ意義ヲ有ス、即チ直系尊屬トハ共同ノ祖先ヨリ一直線ニ下降セル血族中自己ノ出テタル所ノモノヲ云ヒ父母、祖父母、曾祖父……等之ニ屬シ傍系尊屬親タル伯叔父母等ヲ含マサルコト勿論ナリト雖モ繼子、養子ハ血族親ト同一關係ニ立ツ、民法第七百二十五條乃至第七百二十八條等參照而シテ配偶者ノ尊屬親ハ自己ノ其レト同一視スヘキコト古來我國俗タリ故ニ本法モ亦之ニ從ヒ之ヲ自己ノ尊屬親ト同列ニ置キタリ

第二要件 殺害シタルコト 是レ前條ニ就テ説明シタル所ナルヲ以テ茲ニ再ヒ贅セス

二、處分 本罪ヲ犯シタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス、嚴罰スヘキ理由ハ既ニ本條冒頭ニ述ヘタル所ナリ

第二百一條 前二條ノ罪ヲ犯ス目的ヲ以テ其豫備ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス但シ情狀ニ因リ其刑ヲ免除スルコトヲ得

本條ハ殺人ノ豫備ヲ罰スヘキ規定ニシテ亦本法ノ一特色ナリ抑々犯罪ノ豫備ハ之ヲ罰セサルヲ以テ通例トスト雖モ殺人ノ豫備ノ如キハ其レ自體ニ於テ危害頗ル大ナルカ故ニ本法ハ夫ノ内亂罪、外患罪、放火罪、強盜罪ノ豫備ト共ニ特ニ之ヲ處罰シタルナリ

一、成立要件 本罪ノ成立要件ヲ別チテ二トナス即チ(一)前二條ノ罪ヲ犯ス目的ヲ以テシタルコト(二)其豫備ヲ爲シタルコト是ナリ左ニ分説スヘシ

第一要件 前二條ノ罪ヲ犯ス目的ヲ以テシタルコト 即チ殺人罪ノ豫備トシテ罰スルニハ第九十九條若クハ第二百條ノ罪ヲ犯ス目的ニ出テタル場合ナラサル可ラス從テ次條ニ規定シタル自殺幫助ノ罪ニ關シテハ豫備罪ナルモノ

ナキコト多言ヲ要セスシテ明白ナル所ナリ、通常犯罪ノ動機(即チ目的)ハ犯罪ノ成立ニ何等ノ影響ヲ與ヘサルモノナルモ本罪ノ如キ豫備罪ハ其性質上目的ノ如何ヲ觀ルニ非ラサレハ果シテ其罪ノ豫備ナリヤ否ヤヲ判別スルコト能ハサルヲ以テ法律ハ特ニ其目的ヲ犯罪構成要件ノ一トシテ明示シタルナリ

第二要件 其豫備ヲ爲シタルコト 殺人罪ノ豫備ト未タ殺人ノ實行ニ至ラサル以前ノ所謂準備行為ニシテ例セハ兇器ヲ磨クカ如キ毒藥物ヲ購入スルカ如キ其他殺人實行ニ必要ナル計畫ヲ爲スカ如シ、仍ホ本問ニ關シテハ曩ニ犯罪ノ段階トシテ説述シタル所ヲ参照セラルヘシ

二、處分 本罪ヲ犯シタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス、但シ本罪ハ夫ノ強盜罪等ト異ナリ犯情ノ如何ニ由リテハ全ク刑罰ヲ科スルノ必要ナキ場合之アルヘキヲ以テ此場合ニ於テ裁判所ヲシテ其刑ヲ免除スルコトヲ得セシメタリ例セハ戰時外國ノ爲メニスル秘密探偵ヲ斃サント準備スルカ如キ若クハ父兄ノ爲メニ仇ヲ復セント謀ルカ如キ場合ハ本條但書ノ適用ヲ見ルヘキ好適例ナランカ

第二百二條 人ヲ教唆若クハ幫助シテ自殺セシメ又ハ被殺者ノ囑託ヲ受ケ若クハ其承諾ヲ得テ之ヲ殺シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

本條ハ自殺ヲ教唆シ若クハ幫助シ又ハ被殺者ノ囑託ヲ受ケ若クハ其承諾ヲ得テ人ヲ殺シタル場合ニ關スル規定ニシテ要スルニ殺人ノ一種ニ外ナラサルヲ以テ本法ハ之ヲ本章中ニ收メ規定シタリ(舊刑法第三百二十條第三百二十一條第三百六十二條第二項)

一、成立要件 本罪ハ前段ト後段トニ由リ其罪素ヲ異ニス便宜分説スルコト左ノ如シ

(甲) 前段ノ罪 本罪ハ二要件ヨリ成立ス即チ(一)人ヲ自殺セシメタルコト(二)教唆シ若クハ幫助シタルコト是ナリ

第一要件 人ヲ自殺セシメタルコト 「自殺」トハ自身其生命ヲ絶ツヲ謂フ、別言スレハ自殺者自ラ死ヲ決意シテ自ラ之ヲ實行シタル場合ナリ故ニ自殺ノ決意ナキモノニ對シ殺意ヲ以テ之ヲ誘導詐稱シテ死ニ陷レシメタルカ如キハ純然タル殺人罪ニシテ第九十九條ニヨリ處斷スヘク本罪ヲ構成セス、而シテ法文ハ「自殺セシメ」ト明示スルカ故ニ自殺者カ自殺ヲ遂ケタルニ非ラサレハ本罪ノ既遂タラサルコト勿論ナリ、元來自殺ハ刑法上罪ニ非ラス、但シ英米法ハ自殺未遂ヲ罪トス然レトモ人ヲ教唆シ若クハ幫助シテ自殺セシムルカ如キハ公安上

看過スヘキニアラサルヲ以テ本法ハ舊法ニ同シク之カ規定ヲ設ケタリ
第二要件 教唆シ若クハ幫助シタルコト 自殺ノ教唆トハ自殺ノ意思ナキ者ニ對シ自殺ノ決意ヲ爲サシメタルヲ謂フ從テ既ニ自殺ノ決意アリシ者ニ對シ其方法ヲ指示スルカ如キハ所謂教唆ニ非ラスシテ幫助ナリ、幫助トハ自殺行爲ヲ援助スルノ義ニシテ自殺ノ方法ヲ教示シ若クハ情ヲ知リテ藥品其他兇器等ヲ準備シ與フルカ如シ舊刑法ニ於テハ自己ノ利益ヲ圖ルニ出テタル場合ヲ特ニ重ク處罰スルコト、シタリト雖モ此ノ如キハ一情狀ニ過キササルヘキヲ以テ本法ハ之カ爲メニ特ニ規定ヲ別タス

(乙) 後段ノ罪 本罪モ亦二ケノ要件ヨリ成ル即チ(一)人ヲ殺シタルコト(二)被殺者ノ囑託ヲ受ケ若クハ其承諾ヲ得タリシコト是ナリ
第一要件 人ヲ殺シタルコト 即チ人ノ生命ヲ絶チタル義ニシテ詳細ハ第九十九條ニ關シ述ヘタル所ヲ參照スヘシ
第二要件 被殺者ノ囑託ヲ受ケ若クハ其承諾ヲ得タリシコト 本罪ハ被殺者ノ囑託ヲ受ケ若クハ其承諾ヲ得タリシコトヲ以テ一般ノ殺人罪ト區別ス、被害者タルヘキ者ノ自由處分ヲ許スヘキ法益(例セハ財産ニ關シテハ其囑託又ハ承諾アルニ由リテ犯罪ノ成立ヲ阻却スヘキコト勿論ナリト雖モ公益上被害者ニ自由處分ヲ許サ、ル法益(例セハ身體、生命、自由等)ニ關シテハ其囑託若クハ承諾ハ犯罪ノ成立ヲ阻却スルモノニ非ラサルコトハ刑法上ノ元則ナリ故ニ縱令被殺者ノ囑託若クハ承諾ヲ得タル場合ナリト雖モ法律ハ之ヲ罪トシタルナリ、舊刑法ニ於テハ囑託ヲ受ケタル場合ニ付キ規定スル所アリシモ承諾ヲ得タル場合ニ付キテハ之ヲ缺ク、然レトモ其承諾ヲ得タリシ場合モ亦囑託ヲ受ケタル場合ト同一視スヘキモノナルカ故ニ本法ハ之ヲ補足シタリ、而シテ法文所謂囑託ヲ受ケトハ加害者カ被殺者ノ申出ヲ承諾シタル場合ヲ云ヒ承諾ヲ得テトハ加害者ノ申出ヲ被殺者ニ於テ承諾シタル場合ヲ云フモノニシテ本罪ノ適用ヲ見ルヘキ好適例ハ自殺ノ介錯、合意ニ出テタル情死未遂ノ場合ナリ
二、處分 本罪ヲ犯シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス、一般殺人ノ場合ニ比シ犯情輕キカ故ニ其刑モ亦輕シ

第二百三條 第九十九條第二條及ヒ前條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス
 本條ハ殺人罪ノ未遂ヲ罰スヘキ規定ナリ而シテ其未遂ヲ罰スヘキ場合ハ(一)第九十九條ノ一般殺人罪(二)第二百條ノ殺親罪(三)第二百二條ノ自殺幫助罪ノ三ニシ

テ殺人ノ豫備罪ヲ除外ス蓋シ豫備罪ハ未遂ナル場合アリトスルモ之ヲ處罰スルコトヲ要セサルヲ以テナリ

第二十七章 傷害ノ罪

一人ノ身體ハ生命ニ次キテ尊重スヘキモノナリ故ニ法律ハ殺人罪ニ次キテ本章規定ヲ設ケ以テ吾人ノ身體ノ安全ヲ保護ス而シテ本章規定スル所ハ(一)單純傷害罪(第二百四條)(二)傷害致死罪(第二百五條)(三)傷害助勢罪(第二百六條)(四)共同傷害罪(第二百七條)及ヒ(五)單純暴行罪(第二百八條)ノ五トナス

ニ本章ハ舊刑法第三編第一章第二節毆打創傷ノ罪及ヒ第三節殺傷ニ關スル有恕及ヒ不論罪ノ中第三百九條乃至第三百十三條ヲ包括規定シタルモノナリト雖モ左ノ諸點ニ於テ修正セラレタリ

(イ)舊刑法ニ於テハ毆打創傷ノ罪ト題セシト雖モ創傷ハ獨リ毆打ノミニ因ルニ限ラス例セハ不健康物ヲ飲食セシメテ身體ヲ傷害シタルカ如キ場合ニ於テハ之ヲ毆打ニ因ル傷害ナリトナスヲ得サル不都合ヲ生ス故ニ本法ニ於テハ單ニ之ヲ傷害ノ罪ト改題シ以テ汎ク是等ノ場合ヲモ包含セシメントス

(ロ)舊刑法ニ於テハ毆打創傷ノ罪ヲ結果犯ナリトシタル主義ヲ貫徹セシメントシタル結果一目又ハ兩目視能ノ喪失一耳又ハ兩耳聽能ノ喪失兩肢ノ作用喪失等ニヨリ所謂癡篤疾ニ致シ若クハ疾病休業ノ有無其日數ノ多寡等凡テ其結果ノ大小ニ從ヒテ其科刑ヲ輕重シタリシト雖モ此ノ如キハ實際上往々困難ナル問題ヲ惹起スル外何等ノ實益ナキノミナラス新刑法ニ於テハ凡テ刑罰範圍ヲ擴大シ適宜處罰セントスル趣旨ニ出テタルヲ以テ舊刑法ニ於ケルカ如ク細目ニ亘ルコトヲ避ケ一ニ裁判所ヲシテ其結果ノ如何ヲ斟酌シ實際ニ適應スル刑ヲ量定處斷セシムルヲ便宜ナリトシテ傷害罪ニ付テモ亦包括的規定ヲ設クルニ止メタリ

(ハ)舊刑法ニ於テハ殺人罪ニ同シク傷害ノ豫謀ニ出テタルト否トヲ別チタル外誤傷罪不健康物施用ニ關スル罪誘導詐稱シテ危害ニ陷レシメテ傷害シタル罪等ニ付キ格別ニ規定スル所アリシト雖モ此ノ如キモ亦犯情ニ關スル態様タルニ過キサレ問題ニシテ既ニ本法カ包括的刑罰範圍ヲ定メタル以上ハ其範圍内ニ於テ裁判所ヲシテ各犯情ニ應スヘキ刑ヲ量定セシムルヲ可ナリトシ凡テ此等條文ヲ削除シタリ

(二)又舊刑法ニ於テハ共毆シテ傷ヲ成ス輕重ヲ知ルコト能ハサル場合ハ其各共毆者ヲ重傷ノ刑ニ照シ減等スルコトヲ定メタルモ本法ハ凡テ共犯ノ例ニ從ハシムルコト、ナシタリ
猶其他改正ヲ加ヘラレタル點アルモ以下各本條ヲ略說スルニ方リ之ヲ叙說ス可シ

第二百四條 人ノ身體ヲ傷害シタル者ハ十年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス

本條ハ一般傷害罪ニ關スル規定ナリ舊刑法第三百條乃至第三百四條第三百七條乃至第三百十二條第三百六十三條

一、成立要件 本罪ノ成立要件ヲ別チテ二トナス即チ(一)人ノ身體ニ對スルコト(二)之ヲ傷害シタルコト是ナリ、左ニ分說スヘシ

第一要件 人ハ身體ニ對スルコト 本罪モ亦殺人罪ニ同シク目的物體ハ生存シタル人ハ身體ナルコトヲ要スルカ故ニ死屍ヲ傷害シタル場合ハ他ノ罪ヲ構成スルハ格別例セハ第九十條、第九十一條ノ罪本罪ヲ構成セス、而シテ茲ニ所謂身體トハ生命、財産、名譽ニ對スル語ニシテ吾人ノ有形ノ體軀ヲ意味シ毛髮

爪牙ノ微ト雖モ吾人肉體ノ一部ヲ形成スルモノナル以上ハ本罪ノ目的物體タルヲ妨ケス

第二要件 之ヲ傷害シタルコト 本法ニ所謂傷害トハ舊刑法ニ所謂創傷ニ同シク不法ニ人ノ身體ノ生理的機能ヲ毀損スルノ謂ニシテ身體ニ於ケル生理狀態ヲ不良ニ變更スルコトヲ汎稱スルモノニ外ナラサルヲ以テ其不良ノ狀態カ身體ノ内部ニ發生スルト其外部ニ發生スルトヲ區別セス、例セハ毆打ニ因リ腦振盪症ヲ惹起シタル如キハ内部的變更ニシテ手足ヲ挫折スルカ如キハ外部的變更ナリ、然レトモ本法ハ舊刑法ニ於ケルカ如ク其手段ヲ毆打ニノミ制限セサルカ故ニ刀劍其他兇器ヲ以テ切傷スルト、硫酸其他藥品等ヲ注クト健康ヲ害ス可キ物ヲ施用シテ内臟諸機ヲ損傷シタルト其他ノ方法ニ因ルトヲ論セス苟クモ人ノ身體ヲ損傷シタル以上ハ本罪ヲ構成ス可キナリ

二、處分 本罪ヲ犯シタル者ハ十年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス、舊法ニ比シ其刑罰範圍著シク擴張セラレタリ蓋シ等シク傷害ト云フト雖モ其輕重大小アルノミナラス既ニ前述シタルカ如ク本法ハ犯情ニ差別アルヘキ本罪ニ對シ包括的規定ヲ設ケタル結果トシテ刑罰範圍モ亦自ラ之ヲ擴大スル必

要アルヲ以テ重キハ懲役十年ヨリ輕キハ二十圓未滿ノ科料ニ處スルコトヲ得セシメタリ

第二百五條 身體傷害ニ因リ人ヲ死ニ致シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス
自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ニ對シテ犯シタルトキハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

本條ハ所謂傷害致死罪ニ關スル規定ナリ(舊刑法第二百九十九條第三百六十三條但書)

第一項 本項ハ通常人ニ對スル傷害致死罪ヲ規定シタルモノニシテ其成立要件ト處分ハ左ノ如シ

一、成立要件 本罪ノ成立要件ヲ別チテ二トナス即チ(一)通常人ノ身體ヲ傷害シタルコト(二)因テ之ヲ死ニ致シタルコト是ナリ而シテ本條規定ノ趣旨ハ曩ニ説明シタル第二百二十四條第二項、第二百二十六條第三項等ニ同シク結果犯ニ屬スルヲ以テ本罪ノ構成ニハ其原因タルヘキ行爲ヲ爲スノ意思アルヲ以テ足り死ノ結果ニ就テハ故意アルコトヲ要セス又傷害ト死トノ間ニハ唯因果關係アルヲ以テ足り傷害ヨリ死ニ至ルマテノ時ノ長短、傷害ノ大小等ハ本罪ノ成立ニ影響スル所ナキモ

ノトス其他尙ホ詳細ノ説明ハ前示法文ノ下ニ於ケル説明等ヲ參酌シテ之ヲ知ラセラルヘシ

二、處分 本罪ヲ犯シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス蓋シ本罪ハ結果重大ナルヲ以テ最短期ト雖モ懲役二年ヲ降ラス

第二項 本項ハ自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ニ對スル傷害致死罪ノ規定ニシテ其成立要件ト處分ハ左ノ如シ

一、成立要件 本罪ハ三ケノ要件ヨリ成ル即チ(一)被害者ハ自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ナルコト(二)之ヲ傷害シタルコト(三)因テ死ニ致シタルコト是ナリ而シテ是等等ノ諸要件ニ關シテハ既ニ前述シタル前項前條等ヲ參照セハ自ラ了解セララルヘキヲ以テ之ヲ略ス

二、處分 本罪ヲ犯シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス舊刑法ハ本罪ニ科スルニ死刑ヲ以テセシモ元來本罪ハ殺人罪ト異ナリ當初ヨリ殺意アリタルニアラサルカ故ニ本法ハ其刑ヲ輕減シタリ然レトモ尊屬親ニ對スル重罪ナルヲ以テ其科刑ノ重キコト蓋シ當然ナルノミ

第二百六條 前二條ノ犯罪アルニ當リ現場ニ於テ勢ヲ助ケタル者ハ自ラ人ヲ傷害セ

スト雖一年以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス

本條ハ傷害助勢罪ニ關スル規定ニシテ總則共犯ニ對スル特例ナリ舊刑法第三百六條)

一、成立要件 本罪ノ成立要件ヲ別チテ三トナス即チ(一)他人カ前二條ノ傷害罪ヲ犯スニ當リタルコト(二)現場ニ於テ其勢ヲ助ケタルコト(三)自ラ人ヲ傷害セザリシコト是ナリ分説スルコト左ノ如シ

第一要件 他人カ前二條ノ罪ヲ犯スニ當リタルコト、前二條ノ罪トハ即チ通常傷害罪第二百四條若クハ傷害致死罪第二百五條ヲ指稱ス法文ハ此二條ノ罪ニ限ルコトヲ明示スルヲ以テ第二百八條ニ規定セル暴行罪ニ關シテハ本罪ノ成立スヘキ餘地ナキコト多言ヲ要セスシテ明白ナルヘシ犯罪アルニ當リトハ犯罪實行中ト云フニ同シク着手ヨリ終結ニ至ル迄ノ間ナルコトヲ要ス從テ犯罪ノ前後ニ在リテハ本條ノ適用ナキモノトス

第二要件 現場ニ於テ勢ヲ助ケタルコト、傷害行為アリタル現場タルコトヲ要スルカ故ニ現場ニ在ラサル者ノ助勢行為ハ本條ノ範圍外ニアルコト勿論ナリ勢ヲ助ケタルト云フハ單ニ傷害者ニ聲援ヲ與フル義ニシテ其好適例ハ夫ノ

喧嘩ノ際ニ於ケル彌次馬ナリ即チ茲ニ所謂助勢トハ實行々爲若クハ幫助行為ニ加ハラスシテ其他ノ行為ヲ以テ暴行者ニ聲援ヲ與フル場合ナリ故ニ犯人ニ兇器ヲ給與シ其他犯行ヲ容易ナラシムヘキ所爲アリタル場合ニ於テハ傷害罪ノ幫助トナルヘキヲ以テ總則第六十二條ノ規定ニ從ヒ處斷スヘク決シテ本條ヲ以テ律スヘキニ非ス又正犯者ト通謀アリタル場合ニ於テハ縱令自ラ傷セスト雖モ總則第六十條ノ規定ニ從ヒ正犯トシテ論スヘキモノタリ從テ本條ノ適用ヲ受クヘキ場合ハ正犯者ト通謀ナク又正犯者ノ實行ヲ容易ナラシムヘキ加功行為ナク單ニ所謂彌次的行動アリタル場合ニ限ル仍ホ本問ニ關シテハ曩ニ總則從犯ニ付テ説明シタル所ヲ參酌スレハ自ラ釋然タルモノアルヘシ

第三要件 自ラ人ヲ傷セザリシコト、本要件ハ傷害罪ノ實行正犯タルヘキカ將タ又本條ノ助勢罪タルヘキカヲ區別スヘキ要點ナリ縱令傷害者ト通謀ナシト雖モ他人ノ傷害行為アルニ乘シ自己モ亦手ヲ下シタル場合ニ於テハ第二百四條若クハ第二百七條ノ罪ヲ構成スヘク本條ノ罪ハ絕對的ニ傷害セザリシコトヲ要ス法文ニ自ラ人ヲ傷害セスト雖モトアル畢竟此意義ヲ示シタルニ外ナラス

二、處分 本罪ヲ犯シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス、本罪ハ固ト彌次的行動ヲ戒ムルニ在ルヲ以テ此輕微ナル犯罪ニ對シテハ輕キ刑ヲ科シタルコト當然ニシテ別ニ説明ヲ要セサルヘキノミ

第二百七條 二人以上ニテ暴行ヲ加ヘ人ヲ傷害シタル場合ニ於テ傷害ノ輕重ヲ知ルコト能ハス又ハ其傷害ヲ生セシメタル者ヲ知ルコト能ハサルトキハ共同者ニ非スト雖モ共犯ノ例ニ依ル

本條ハ二人以上ニテ人ヲ傷害シタル場合即チ所謂共毆罪ニ關スル規定ニシテ亦總則共犯ノ特例ナリ舊刑法第三百五條

一、成立要件 本罪ノ成立要件ヲ別チテ三トス、即チ(一)犯人ハ二人以上ナルコト(二)暴行ヲ加ヘ人ヲ傷害シタルコト(三)傷害ノ輕重ヲ知ルコト能ハス又ハ其傷害ヲ生セシメタル者ヲ知ルコト能ハサルコト是ナリ分説スルコト左ノ如シ

第一要件 犯人ハ二人以上ナルコト 法文ニ二人以上ニシテ云々ト規定ス故ニ本罪ハ少ナクトモ犯人二人以上アルニ非ラサレハ成立スヘキ餘地ナシ、抑二人以上通謀シテ人ヲ傷害シタル場合ニ於テハ總則第六十條ニ所謂共同正犯タリト雖モ二人以上時ト所トヲ共ニシテ同一人ニ對シ傷害ヲ與ヘタル場合其間

ニ通謀ノ事實ナキトキハ之ヲ共同正犯ナリト云フヲ得ス本條ハ即チ此場合ニ關スル特例ニシテ二人以上ニテ人ヲ傷害シタルトキハ共同者ニ非スト雖モ共犯ノ例ニ照ラシ處分スヘキモノトシタリ、蓋シ便宜的規定ナリ

第二要件 暴行ヲ加ヘテ人ヲ傷害シタルコト 茲ニ所謂暴行トハ廣義ニシテ身體ニ對スル不法ノ腕力ヲ意味シ其方法ノ如何ヲ問ハス、暴行ノ結果人ノ身體ニ傷害ヲ與ヘタルコトヲ要スルカ故ニ單ニ暴行ヲ爲シタルニ止マリ未タ傷害スルニ至ラザリシ場合ハ之ヲ除外スヘキコト勿論ナリ

第三要件 傷害ハ輕重ヲ知ルコト能ハス又ハ其傷害ヲ生セシメタル者ヲ知ルコト能ハサルコト 二人以上ノ非共同者カ人ヲ傷害シタル場合ニ於テモ其成傷ハ何人ノ所爲ナルヤ分明ナル場合ニ於テハ各自其成傷ノ輕重ニ從ヒテ處分セラルヘキコト當然ナリト雖モ其成傷ノ輕重ハ果シテ孰レノ所爲ナルヤ將タ又其成傷ハ果シテ何人ノ所爲ナルヤ得テ之ヲ知ルコト能ハサル場合ニ於テハ之ヲ處罰スルニ付キ困難ナル事實問題ヲ惹起スルヲ免レス、是ニ於テカ法律ハ便宜此場合ニ關スル處斷方法ヲ規定シ此ノ如キ場合ニ於ケル數人ハ共同者ニ非ラスト雖モ之ヲ共同者ト同一ニ取扱ヒ總テ共犯ノ例ニ從ヒテ處斷スヘキ

コト、シタリ舊刑法ニ於テハ重傷ノ刑ニ一等ヲ減スヘキモノトナシタルハ罪ノ疑ハシキハ寛ニ從フ趣旨ニ出タルモノナル可シト雖モ稍不道理ナル規定ニシテ犯行事實ト刑トノ權衡ヲ失スル嫌ナキ能ハサルノミナラス既ニ前述シタルカ如ク本法ハ凡テ包括的刑期ヲ定メ舊刑法ノ創傷ノ輕重ニ從ヒテ刑ヲ定メサリシ結果本條ニ於テモ亦單ニ共犯例ニ從ヒ處罰スヘキモノトシタリ、然レトモ其實際科刑スル上ニ於テハ多少舊刑法ノ趣旨ノ如キモ參酌セラルヘキモノナラント信ス

二、處分 本罪ヲ犯シタル者ハ共犯ノ例ニ依リ處罰セラル即チ總則第十一章ノ規定ニ準據シテ第二百四條若クハ第二百五條ニ則リ處斷セラルヘシ

第二百八條 暴行ヲ加ヘタル者人ヲ傷害スルニ至ラサルトモハ一年以下ノ懲役若クハ五十圓以下ノ罰金又ハ拘留若クハ科料ニ處ス
前項ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

本條ハ單純暴行罪ニ關スル規定ナリ(舊刑法第四百二十五條第九號)

第一項 本項ハ人ヲ傷害スルニ至ラサル暴行ヲ罰スヘキ規定ニシテ其罪素ト處分トハ左ノ如シ

一、成立要件 本罪ノ成立要件ヲ別チテ二トナス即チ(一)他人ニ對シ暴行ヲ加ヘタルコト(二)傷害スルニ至ラサリシコト是ナリ

第一要件 他人ニ對シ暴行ヲ加ヘタルコト 茲ニ所謂暴行ト云フ意義モ亦前條ニ於ケルモノト同シク廣義ニ解釋シ人ノ身體ニ對スル不法ノ腕力ヲ指シタルモノトス隨テ人糞ヲ注クカ如キ行為ヲモ包含スヘキナリ

第二要件 人ヲ傷害スルニ至ラサリシコト 暴行ノ結果人ヲ傷害スルニ至リタル場合ニ於テハ第二百四條若クハ第二百七條ノ罪ヲ構成スヘキカ故ニ本條ノ適用ヲ見ルハ絶對的ニ傷害ナカリシコトヲ要ス若シ二人以上ニテ他人ニ暴行ヲ加ヘタル場合ニテモ其成傷カ何人ノ所爲ナリシヤ分明ナルニ於テハ傷害者其責ニ任スヘキヲ以テ傷害スルニ至ラサル暴行者ハ本條ノ適用ヲ受クルコトトナルヘキナリ

二、處分 本罪ヲ犯シタル者ハ一年以下ノ懲役若クハ五十圓以下ノ罰金又ハ拘留若クハ科料ニ處ス舊刑法ニ於テハ之ヲ違警罪中ニ規定シ拘留又ハ科料ニ處スルニ止メシト雖モ本法ハ一年以下ノ懲役若クハ五十圓以下ノ罰金ヲモ科シ得ルコトトシタリ、蓋シ傷害スルニ至ラスト雖モ被害者ハ頗ル苦痛ヲ感スルコトアルハ

キノミナラス結果ニ依リテ刑ヲ輕重スルカ如キハ必スシモ上乘ナル政策ニ非サルヲ以テ本法ハ更ニ其刑罰範圍ヲ擴大シ情狀ニ從ヒ裁判所ヲシテ適宜其刑ヲ量定セシメントシタルナリ

第二項 本項ハ單純暴行罪ノ親告罪ナルコトヲ規定ス、蓋シ本罪ハ固ト輕微ナル犯罪ニ屬スルヲ以テ國家カ強ヒテ之ニ干涉スルノ必要ナキモノトシテ一ニ之ヲ被害者ノ自由ニ任シタルナリ

第二十八章 過失傷害ノ罪

一、過失傷害トハ過失ニ因リテ人ヲ傷害シ若クハ死ニ致シタル罪ヲ謂フ、元來過失ハ強ヒテ之ヲ罰スヘキ必要ナキモノナリト雖モ人ノ身體、生命ニ關スルモノニ對シテハ公益上之ヲ不問ニ付スルヲ得ス是レ本章規定アル所以ナリ
二、本章ハ舊刑法第三編第一章第四節過失殺傷ノ罪ト題スル規定ニ相當スルモノニシテ規定ノ趣旨大略相類スト雖モ左ノ數點ニ於テ修補セラレタルヲ見ル
(イ) 舊刑法ハ本章ノ規定ニ相當スル罪ヲ過失殺傷ト名ツクト雖モ其用語少シク妥當ナラサルカ故ニ本法ハ之ヲ改メ過失傷害ト爲シタリ

(ロ) 舊刑法ニ於テハ過失ニ因ル殺傷ヲ一般的ニ規定シアリト雖モ特別ノ注意ヲ拂フコトヲ要スル責務アル一定ノ職務ニ従事スル者ノ業務上ニ於ケル過失ト此カル責務ナキ普通一般人ノ過失トハ之ヲ同一視ス可キニ非サルヲ以テ本法ハ之ヲ區別シ前場合ニ對スル刑ハ後場合ニ對スル其レヨリ一層重カラシメタリ

(ハ) 舊刑法ニ於テハ過失殺傷罪ハ總テ之ヲ非親告罪トナシタリシカ本法ハ非業務上ノ過失傷害罪(第二百九條)ニ付テハ親告ヲ要スヘキモノトナシタリ蓋シ之レ元ト輕微ナル犯罪ニ係ルヲ以テ實際ノ必要上被害者ノ意思如何ニ委シタルモノナリ

三、本章ハ僅ニ第二百九條乃至第二百十一條ノ三ヶ條ヨリ成リ左ノ三ヶノ罪ヲ含ム即チ(一)一般過失傷害罪(第二百九條)(二)一般過失致死罪(第二百十條)(三)業務上ノ過失死傷罪(第二百十一條)是ナリ左ニ各本條ニ就キ分説スヘシ

第二百九條 過失ニ因リ人ヲ傷害シタル者ハ五百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス
前項ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

本條ハ一般過失傷害罪即チ非業務上ニ關スル規定ナリ(舊刑法第三百十八條、第三

百十九條

一、成立要件 本罪ノ成立要件ヲ別チテ二トナス即チ(一)非業務上過失アリタルコト(二)因テ人ヲ傷害シタルコト是ナリ

第一要件 非業務上過失アリタルコト 舊刑法ニ於テハ疎虞懈怠又ハ規則慣習ヲ遵守セス過失ニ因リテ云々ト規定セラレシト雖モ既ニ過失ト云ヘハ自ら疎虞懈怠又ハ規則慣習ヲ遵守セサルコトヲ意味スルカ故ニ特ニ之ヲ明言スルノ要ナキノミナラス却テ之アルカ爲メニ疑義ヲ生スル弊アルヲ以テ本法ハ之ヲ削リタリ要スルニ過失トハ不注意ト云フニ同シ從テ故意ニ出テタル場合ハ普通有意犯タルヘク注意ヲ缺クコトナキ以上ハ不可抗力其他特別ノ原因ニ基ツクモノニシテ過失ナル問題ナシ然ラハ如何ナル程度ニ達シタルヲ以テ所謂過失アリトナスヤ等ノ問題ニ關シテハ既ニ失火罪(第十六條)ニ付キ述ヘタル所ナルヲ以テ同條等ヲ参照セラレヨ

第二要件 因リテ人ヲ傷害シタルコト 過失ノ結果トシテ人ヲ傷害シタルコトヲ要スルカ故ニ若シ過失ト傷害トノ間ニ於テ因果關係ノ存在ヲ認ムルコト能ハサルトキハ本罪ノ成立スヘキ餘地ナシ而カモ過失ト傷害トノ間ニ於テ因

果關係ヲ有スルモノナル以上ハ被害者ノ不注意其他ノ事情ハ過失犯ノ成立ヲ妨ケス唯犯情ニ關スル問題タルノミ

二、處分 本罪ヲ犯シタル者ハ五百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス、諸般ノ事情ニ依リ犯情ニ輕重アルヘキカ故ニ罰金五百圓ヨリ科料ニ至ラシメタリ、サレト舊刑法ノ罰金二百圓以下ナルニ比スレハ頗ル重キヲ加ヘタリ

第二項 本項ハ過失罪ノ親告罪ナルコトヲ規定シタルモノナリ 舊刑法ニ於テハ過失犯ヲ以テ凡テ非親告罪トナシタリト雖モ過失ハ常人ニ免ル可ラス過失ニ因リテ單ニ人ヲ傷害シタルニ止マル場合ノ如キハ極メテ輕微ナル犯罪ニ屬スルヲ以テ被害者ノ告訴ヲ待タスシテ之ヲ論スルノ價值ナキモノト認メタルカ故ニ本法ハ實際上ノ必要ニ應スヘク之ヲ親告罪トナシタリ而シテ本項ハ告訴權者ニ關シ何等規定スル所ナシ從テ其告訴權者ハ刑事訴訟法ノ規定ニヨリ被害者又ハ其代理人ニ屬スルモノナリト解ス(刑事訴訟法第四十九條第五十四條參照)

第二百十條 過失ニ因リ人ヲ死ニ致シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス 本條ハ過失致死罪ニ關スル規定ナリ(舊刑法第三百十七條)

一、成立要件 本罪ノ成立要件ヲ別チテ二トナス即チ(一)過失アリタルコト(二)因テ人ヲ死ニ致シタルコト是レナリ而シテ是等要件ノ意義ニ付テハ前條及ヒ第二百五條ニ關シ述ヘタル所ヲ參照スレハ自カラ了解セララルヘキヲ以テ特ニ茲ニ再ヒセス

二、處分 本罪ヲ犯シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス、舊刑法ノ最高額二百圓ナリシニ比シ遙ニ多キヲ加ヘタリ

第二百十一條 業務上必要ナル注意ヲ忘リ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ三年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

本條ハ所謂業務上ノ過失死傷罪ニ關スル規定ナリ、舊刑法ニ於テハ特ニ本場合ニ關スル規定ヲ缺キタリシモ本法ハ時勢ノ進運ニ鑑ミ之カ規定ヲ設ケタリ蓋シ亦一特色タルヲ失ハス

一、成立要件 本罪ノ成立要件ヲ別テ二トナス即チ(一)業務上必要ナル注意ヲ忘リタルコト(二)因テ人ヲ死傷ニ致シタルコト是ナリ、分説スルコト左ノ如シ

第一要件 業務上必要ナル注意ヲ忘リタルコト 本罪モ亦過失罪ノ一ナリ、只前二條ニ於ケル過失罪ト異ナル點ハ犯人ノ過失ハ業務上ニ關スルコトニ存ス

ルノミ、法文ニ所謂業務上必要ナル注意ヲ忘リタルト云フハ即チ一定ノ業務ニ従事スル犯人カ其業務ノ執行ニ付キ當然爲サル可ラサル注意ヲ忘リタル義ナリ、例セハ電車若クハ汽車ノ運轉手ノ其進行中ニ於ケル注意、醫師、産婆ノ診療中ニ於ケル注意、看護婦ノ看護上ニ於ケル注意若クハ小學校教師ノ學校ニ於ケル生徒ニ對スル注意等ノ如ク其職掌上ノ位置ニ伴フ當然ノ注意ヲ意味ス、然ラハ何ヲカ業務ト謂フカ是次テ來ルヘキ困難ナル問題ニシテ諸説アルヘシト雖モ予輩ハ所謂業務トハ公務タルト私務タルトニ論ナク一定ノ職業上ノ義務ナリト解スルヲ以テ妥當ナリト信スルモノナリ

第二要件 因テ人ヲ死傷ニ致シタルコト 所謂死傷トハ死亡又ハ傷害ナリ、過失ノ結果トシテ人ヲ死傷セシメタルコトヲ要スルカ故ニ此結果ナキトキハ本罪ヲ構成セサルコト勿論ナリ、仍ホ本條ハ結果犯ニシテ第二百五條等ノ趣旨ニ同シキヲ以テ同條及ヒ前二條ノ說明ヲ參酌シテ其法意ヲ了解セララルヘシ、猶ホ注意スヘキコトハ本條ノ致死傷罪ハ前條ノ致死罪ト共ニ非親告罪ナルコト是ナリ、本法ハ一般過失傷害罪ヲ以テ親告罪トナシタリシト雖モ本條ノ如キ業務上特ニ注意スヘキ義務アル者ノ過失ニ對シテハ公益上之ヲ被害者ノ自由

ニ委スヘキモノニ非サルヲ以テナリ

二、處分 本罪ヲ犯シタル者ハ三年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス蓋シ犯人ノ地位ニ鑑ミ常人ノ過失ニ比シ重ク罰スヘキ必要アルコト多言ヲ要セスシテ明カナルヘシト雖モ亦自ラ犯情ニ輕重アルヘキヲ以テ本法ハ體刑又ハ罰金ヲ定メ裁判所ヲシテ事情ヲ參酌シテ適宜處罰セシメントシタリ

第二十九章 墮胎ノ罪

一、墮胎トハ自然ノ分娩期ニ先チ人爲ヲ以テ胎兒ヲ母胎ヨリ分離スルコトヲ意味ス從テ胎兒ノ死亡ト否トハ墮胎ニ無關係ナルカ故ニ墮胎罪ト嬰兒殺罪トハ法律上全然別箇ノ觀念ニ屬ス抑々墮胎ハ淫靡逸樂ノ弊風ニ伴フ結果ナルヲ通例トシ其危險ハ雷ニ胎兒ニ對スルノミナラス延テ其母體ニ及ヒ公益ヲ害スル甚大ナルコト多言ヲ要セス國家力之ヲ罪トシ罰スル所以モ亦一ニ茲ニ存ス

二、本章ハ舊刑法第三編第一章第八節ニ相當スル規定ニシテ其內容彼我互ニ大略相同シト雖モ唯舊刑法ニ於テハ妊婦ノ承諾ナクシテ墮胎セシメタル場合ニ關シ特ニ其方法ヲ威逼、誑騙又ハ毆打其他暴行ニ限定シタルヲ以テ是等以外ノ方法ニ

因リタル場合ニ關シ疑義ヲ生スヘキカ故ニ本法ハ其方法ヲ限定セザリシノミ

三、本章規定スル所前後五條其內容ヲ大別スレハ(一)妊婦墮胎罪(第二百十二條)(二)承諾墮胎罪(第二百十三條)(三)不承諾墮胎罪(第二百十五條)(四)第二百十六條)之ナリ

以下各本條ニ就キ大略説明スヘシ

第二百十二條 懷胎ノ婦女藥物ヲ用ヒ又ハ其他ノ方法ヲ以テ墮胎シタルトキハ一年以下ノ懲役ニ處ス

本條ハ懷胎ノ婦女自身カ墮胎シタル場合ニ關スル規定ナリ(舊刑法第三百三十條)

一、成立要件 本罪ノ成立要件ヲ別テ二トナス、即チ(一)主體ハ懷胎ノ婦女ナルコト(二)藥物ヲ用ヒ又ハ其他ノ方法ヲ以テ墮胎シタルコト是ナリ、分説スルコト左ノ如シ

第一要件 主體ハ懷胎ノ婦女ナルコト 本罪ハ懷胎シタル婦女自身カ犯シタルモノナルコトヲ要スト雖モ妊婦自ラ直接ニ手ヲ下シタルト他人ニ依囑シテ爲シタルトヲ區別セス(但シ後ノ場合ニ於ケル他人ハ次條ノ規定ニヨリ處分セラルヘシ)而シテ懷胎ノ何タルヤニ付テハ別ニ説明ヲ要セスシテ明カナルヘケ

ンモ懐胎ハ正當夫婦間ノ關係ヨリ生シタルモノナルト否トヲ問フノ要ナク又所謂通常妊娠ナルト將タ又子宮外妊娠ナルト若クハ受胎後ノ年月ノ經過等ハ一切本罪ノ成立ニ影響スル所ナキモノタルコトヲ注意スヘシ

第二要件 藥物ヲ用ヒ又ハ其他ノ方法ヲ以テ墮胎シタルコト 所謂墮胎ノ意義ニ關シテハ學者ノ所說一ナラス或ハ(一)墮胎トハ自然ノ分娩期ニ先チ胎兒ヲ母胎ヨリ分離スルニ因リテ胎兒ヲ死亡セシムル行爲ヲ云フトナス所謂胎兒死亡說ト或ハ(二)墮胎トハ自然ノ分娩期ニ先チ人爲ヲ以テ胎兒ヲ母胎ヨリ分離スル行爲ヲ云フトナス所謂母體分離說トアリト雖モ予輩ハ多數ノ學者ト共ニ第二說ヲ採ラントス元來墮胎ハ通例母胎ニ危險ヲ與フルト同時ニ胎兒ニモ危險ヲ及ホス可キカ故ニ多クノ場合ニ於テハ胎兒死亡ノ結果ヲ見ンモ既ニ前述シタルカ如ク墮胎罪ノ成立ニハ胎兒ノ死亡スルコトヲ要セサルカ故ニ若シ犯人カ墮胎スルト同時ニ更ニ嬰兒ヲ殺害シタル場合ニ於テハ墮胎罪ノ外ニ猶嬰兒殺ノ罪ヲ構成スヘシ(判例モ之ヲ是認ス歐米ニ於テハ妊娠ノ苦痛ヲ免ル、爲メニ(殺意ナクシテ)人爲的ニ分娩期以前ニ分娩セシムルノ風アリト聞ケルカ此ノ如キハ疑モナク墮胎罪ヲ構成スルモノト信ス、而シテ墮胎ノ方法トシテハ法律

カ藥物ヲ用ヒタル場合ヲ例示シタル外何等ノ制限ヲ設ケサルカ故ニ藥物ヲ施用スルト按摩的方法ニ依ルト其他器械器具ノ力ヲ藉ルト否トヲ問ハス要ハ故ラニ或ル方法ニ由リテ自然的分娩期ニ先チテ胎兒ヲ母體ヨリ分離セシメタルコトニ存ス

二 處分 本罪ヲ犯シタル者ハ一年以下ノ懲役ニ處ス、舊法ノ六月以下ナルニ比シ倍加セラレタルヲ見ル

第二百十三條 婦女ノ囑託ヲ受ケ又ハ其承諾ヲ得テ墮胎セシメタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス因テ婦女ヲ死傷ニ致シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

本條ハ所謂承諾墮胎罪ノ一場合ニシテ他人カ妊娠ノ囑託ヲ受ケ又ハ其承諾ヲ得テ墮胎セシメタル罪ニ關スル規定ナリ(舊刑法第三百三十一條)而シテ本條ハ前段ト後段トニヨリ其罪素ト處分ヲ異ニスルヲ以テ便宜左ニ之ヲ分説スヘシ

(甲) 前段ノ罪 本罪ハ他人カ妊娠ノ囑託ヲ受ケ又ハ其承諾ヲ得テ墮胎セシメタル罪ノ規定ナリ

一 成立要件 本罪ノ成立要件ヲ別テ二トナス即チ(一)主體ハ妊娠以外ノ普通人タルコト(二)妊娠ノ囑託ヲ受ケ又ハ其承諾ヲ得テ墮胎セシメタルコト是ナリ

第一要件 主體ハ妊婦以外ノ普通人タルコト 妊婦自身ノ墮胎ニ關シテハ既ニ前條ノ規定スル所タリ故ニ本條ハ妊婦以外ノ人カ犯シタル一場合ニ付テ規定セルナリ妊婦以外ノ普通人トハ次條ニ規定セル醫師、產婆、藥劑師、藥種商以外ノ者ヲ指稱ス何トナレハ醫師、產婆、藥劑師、藥種商ニ關シテハ特ニ次條ニ規定スル所アルヲ以テ從テ是等ノ者ハ本條ノ主體中ヨリ除外セラルヘキコトトナルナリ

第二要件 妊婦ハ囑託ヲ受ケ又ハ其承諾ヲ得テ墮胎セシメタルコト 墮胎ノ何タルヤハ前條ノ下ニ於テ説明シタル所ナリ而シテ本罪ハ妊婦ノ囑託ヲ受ケ又ハ其承諾ヲ得タルコトヲ要ス若シ夫レ囑託ナク又ハ承諾ヲ得タルニ非サラシカ第二百十條ノ罪ヲ構成シ重罰セラルヘキノミ抑々本條ノ罪ハ前述シタル夫ノ自殺幫助罪(第二百二條)ニ同シク固ト婦女ノ墮胎行為ヲ助成シタル觀アリテ第二百十條ノ不承諾ノ場合ニ比シ犯情輕キコト勿論ナリト雖モ此ノ如キハ公益上看過スヘキニ非サルヲ以テ特ニ本條規定ヲ設ケテ之ヲ處罰スルコト舊刑法ニ異ナラス唯舊刑法第三百三十一條ニ於テハ藥物其他ノ方法ヲ以テ墮胎セシメタル者云々ト規定シアリタル結果婦女ノ囑託ヲ受

ケ又ハ其承諾ヲ得タル場合ニ關シ疑ヲ生スル處アリシカ故ニ本法ハ特ニ婦女ノ囑託ヲ受ケ又ハ其承諾ヲ得タル場合モ仍ホ罪トナルコトヲ明示シタルノミ

二、處分 本罪ヲ犯シタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス

(乙) 後段ノ罪 本罪ハ前段ノ罪ヲ犯シタル結果婦女ヲ死傷ニ致シタル場合ニ關スル規定ナリ

- 一、成立要件 本罪ノ成立要件ヲ別テ二トナス即チ(一)前段ハ罪ヲ犯シタルコト
- (二)因テ婦女ヲ死傷ニ致シタルコト是ナリ而シテ本段規定ノ趣旨ハ第二百十一條ノ規定ニ同シキヲ以テ同條及ヒ前段説明ヲ參照シテ了解セラルヘシ
- 二、處分 本罪ヲ犯シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス前段ノ罪ニ比シ科刑重キハ結果重大ナルカ爲メナルノミ

最後ニ本條ノ罪ト前條ノ罪トノ關係ニ付キ一言センニ婦女ノ身體ニ施術ヲ爲シテ墮胎セシメタル者ノ行為即チ本條ノ罪ト其施術ヲ受ケ墮胎シタル婦女ノ行為(即チ前條ノ罪)トハ全然別箇ノ行為ナルカ故ニ法律上之ヲ別罪トシテ處分スヘキモノナルカ故ニ施術者ハ第二百十三條ニヨリ被施術者(婦女)ハ第二百十二條ニヨ

リ處分スヘキナリ

五七四

第二百十四條

醫師、產婆、藥劑師又ハ藥種商、婦女ノ囑託ヲ受ケ其承諾ヲ得テ墮胎セシメタルトキハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス因テ婦女ヲ死傷ニ致シタルトキハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

本條ハ一定ノ職業ニ從事スル者即チ醫師、產婆、藥劑師又ハ藥種商カ墮胎セシメタル罪ノ規定ニシテ所謂承諾墮胎罪ノ一場合ナリ(舊刑法第三百三十二條)

一、成立要件 本罪ノ成立要件ヲ別テ二トナス即チ(一)主體ハ醫師、產婆、藥劑師又ハ藥種商ナルコト(二)婦女ノ囑託ヲ受ケ又ハ其承諾ヲ得テ墮胎セシメタルコト是ナリ

第一要件

主體ハ醫師、產婆、藥劑師又ハ藥種商ナルコト 本罪ハ法文列擧ノ資格ヲ有スルモノニヨリテ犯サレタルコトヲ要ス蓋シ是等ノ職ニアルモノハ此種ノ犯行ヲ爲スコト容易ニシテ且ツ確實ニ其效果ヲ收メ得ヘキヲ以テ普通人ニ比シ其危害一層大ナリ故ニ法律ハ特ニ本條ノ規定ヲ設ケテ之ヲ嚴罰スル所以ナリ而シテ本條モ亦婦女ノ囑託又ハ承諾ヲ得タルコトヲ要スルヲ以テ結局本條ハ前條ニ對スル例外タルト同時ニ又次條ニ對スル特別規定タリ從テ是等

ノ職ニアルモノト雖モ若シ婦女ノ囑託ヲ受ケタルコトナク又ハ其承諾ヲ得ナリシ場合ニ於テハ既ニ本條ノ範圍外ニ屬シ次條ノ適用ヲ受クヘキコト當然ナリ

第二要件

婦女ノ囑託ヲ受ケ又ハ其承諾ヲ得テ墮胎セシメタルコト 本要件ハ前條下ニ説明シタル所ニ同シケレハ再說セス

二、處分 本罪ヲ犯シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處スヘク若シ墮胎ニ因リテ婦女ヲ死傷ニ致シタル場合ニ於テハ結果一層重大ナルヲ以テ六月以上七年以下ノ懲役ニ處スヘキモノトス

第二百十五條

婦女ノ囑託ヲ受ケス又ハ其ノ承諾ヲ得スシテ墮胎セシメタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

本條ハ所謂不承諾墮胎ノ一場合ニ關スル規定ナリ(舊刑法第三百三十三條、第三百三十四條)

第一項 本項ハ本罪ノ既遂ニ關スル規定ニシテ其成立要件ト處分ハ左ノ如シ

一、成立要件 本罪ノ成立要件ヲ別テ二トナス即チ(一)主體ハ妊婦以外ノ人タルコ

ト(二)妊婦ノ囑託ヲ受ケス又ハ其承諾ヲ得スシテ墮胎セシメタルコト是ナリ

第一要件 主體ハ妊婦以外ハ人タルコト 苟クモ妊婦以外ノ人ナル以上ハ醫

師產婆等一定ノ職務ヲ執ルモノナルト否トヲ區別セシメテ其他別ニ説明ヲ要セス

第二要件 妊婦ハ囑託ヲ受ケス又ハ其承諾ヲ得スシテ墮胎セシメタルコト

妊婦ノ囑託ヲ受ケス又ハ其承諾ヲ得サリシコトハ本罪ト前二條ノ罪トヲ區別

スヘキ重要點ナリ舊刑法ニ於テハ本條ニ相當スル其第三百三十三條及ヒ第三

百三十四條ニ於テ墮胎ノ方法ヲ威逼、誑騙若クハ其他暴行ニ限リタル結果是等

列記ノ方法ニ因ラサル場合例セハ墮胎セシメントノ故意ヲ以テ妊婦ノ精神上

ニ激烈ナル痛苦ヲ與ヘタル結果墮胎セシムルニ至リタルカ如キ場合ニ關シテ

ハ疑義ヲ生スルヲ免レサルノミナラス是等威逼、誑騙若クハ暴行等ノ行爲ハ當

然婦女ノ不承諾ノ場合ニ於ケル墮胎行爲中ニ包含セラレ、方法ナルヘキカ故

ニ本法ハ之ヲ削除シ單ニ汎博的ニ規定シテ其方法ノ如何ヲ限定セス故ニ舊刑

法ニ所謂威逼、誑騙若クハ暴行ニ因ル場合ハ勿論其他何等ノ方法ニ因ルヲ論セ

ス婦女ノ囑託ナク又ハ其承諾ヲ得サリシニ拘ラス犯人ノ所爲ニ因リテ墮胎セ

シメタルニ於テ凡テ本罪ヲ構成スヘキナリ

二、處分 本罪ヲ犯シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス、蓋シ婦女ノ意ニ反

シテ爲シタル所業ナルヲ以テ重刑ヲ科スヘキコト當然ナルヘキノミ

第二項 本項ハ不承諾墮胎罪ノ未遂ヲ罰スヘキ規定ナリ

本章中未遂ヲ處罰スルハ獨リ本條第一項ノ不承諾墮胎罪ノ一場合ノミ從テ他ノ

墮胎罪ニ關シテハ未遂罪ナシ是レ注意スヘキ點ナリ

第二百十六條 前條ノ罪ヲ犯シ因テ婦女ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重

キニ從テ處斷ス

本條ハ不承諾墮胎罪ヲ犯シタル結果婦女ヲ死傷ニ致シタル場合ニ關スル規定ナ

リ(舊刑法第三百三十五條)

一、成立要件 本罪ノ成立要件ヲ別テ二トナス即チ(一)前條ハ罪ヲ犯シタルコト(二)

因テ婦女ヲ死傷ニ致シタルコト是ナリ而シテ本條規定ノ趣旨ハ前述シタル第二

百九十六條等ニ同シケレハ特ニ茲ニ再說スルノ要ナカルヘキナリ

二、處分 本罪ヲ犯シタル者ハ傷害罪ト前條ノ罪トヲ比較シ其重キモノニ從テ處

斷スヘキコトナル

第三十章 遺棄ノ罪

一、遺棄罪トハ老幼不具又ハ疾病等ノ爲メニ保護ヲ要スヘキ者ニ對シ保護ヲ加ヘサルヲ罰スルモノニシテ要スルニ本罪ノ趣旨ハ人類ノ仁義博愛ノ道ニ戻ルコトナカラシメンコトヲ期スルト同時ニ被遺棄者ノ生命身體ニ對スル危害ヲ防キ之ヲ保護セントスルニ存ス

二、本章ハ舊刑法第三篇第一章第九節幼者又ハ老疾者ヲ遺棄スル罪ト題スル規定ニ相當スルモノニシテ題名ヲ遺棄罪ト改メタル外猶左ノ數點ニ於テ修正セラレタルヲ見ル

- (イ) 舊刑法ニ於テハ被害者ニ關シ幼者ノ年齢ヲ八歳未滿者ニ限定シタリト雖モ保護ヲ加フヘキモノハ獨リ八歳未滿者ニ限ラサルヘキヲ以テ本法ハ何等ノ制限ヲ付セス又舊刑法ハ不具者ニ關シ何等規定スル所ナカリシト雖モ是レ又保護ヲ加フルヲ要スルコト幼者老疾者ニ異ナルナキカ故ニ本法ハ之ヲ加ヘタリ

(ロ) 舊刑法ニ於テ保護責任者ノ遺棄罪トシテ單ニ給料ヲ得テ人ノ寄託ヲ受ケ保

護ノ任ニ當リタル者ノミニ就テ規定シタルニ止マリシト雖モ保護スヘキ責任アル者ハ獨リ是ニ限ラサルヲ以テ本法ハ汎ク保護スヘキ責任アル者云々ト規定シ一切ノ場合ヲ包括セシメタリ

(ハ) 舊刑法ニ於テハ其第三百三十七條ニ於テ寮闕無人ノ地ニ遺棄シタル場合ヲ特別罪トシ重刑ヲ科シタリシト雖モ其意義明瞭ヲ缺クノ嫌アルノミナラス此ノ如キハ一犯情ノ重キモノタルニ過キサレヘキヲ以テ本法ハ之ヲ削除シタリ

以下各本條ニ就キ大略説明スヘシ

第二百十七條 老幼不具又ハ疾病ノ爲メ扶助ヲ要ス可キ者ヲ遺棄シタル者ハ一年以下ノ懲役ニ處ス

本條ハ老幼不具又ハ疾病ノ爲メニ扶助ヲ要スヘキ者ヲ遺棄シタル一般ノ場合ニ關スル規定ナリ(舊刑法第三百三十六條第三百三十七條)

一、成立要件 本罪ノ成立要件ヲ別テ三トス即チ(一)本罪ノ主體ハ扶養ノ義務者ニ非サルモノナルコト(二)被害ノ客體ハ老幼不具又ハ疾病ノ爲メ扶助ヲ要スヘキモノナルコト(三)遺棄シタルコト是ナリ、分説スルコト左ノ如シ

第一要件 主體ハ扶養ノ義務者ニ非サルモノナルコト、法律上扶養ノ義務アル場合ニ關シテハ次條ニ規定スル所ナルカ故ニ本罪ハ自ラ之ヲ除外シ扶養ノ非義務者ニヨリテ犯サレタル場合ナラサル可ラサルコト、ナル、左レハ何等扶養ノ義務ナキニ拘ラス之ヲ扶助セサル故ヲ以テ刑ヲ受クルハ一見甚タ酷ニ過クルノ觀アルヲ以テ議會ニ於テハ本罪ヲ扶養義務者ノミニ限ル可シトノ反對說アリシモ敗レ遂ニ本條ノ確定ヲ見ルニ至レリ、勿論立法論トシテハ猶論議スルノ餘地アルヘシト信スト雖モ本講義ノ目的ニ非ラサルカ故ニ敢テセス

第二要件 客體ハ老幼不具又ハ疾病ノ爲メ扶助ヲ要スヘキモノナルコト、所謂老幼トハ老者ト幼者トヲ含ミ其年齡ニ付キ制限スル所ナシト雖モ自ラ一定ノ程度アルヘキコト勿論ナリ、不具者トハ盲者聾者若クハ啞者等ノ如ク身體ノ具ハラサル者及ヒ低能者ノ如キ精神ノ完全ナラサル者ヲ謂ヒ、疾病者中ニハ通常病ニ罹レル者ハ勿論泥酔者ノ如キ異常ノ状態ニ在ル者ヲ含ムト解ス、然レトモ本罪ノ成立ニハ常ニ客體カ老幼不具若クハ疾病者タルノ一事ノミニテハ足ラス是等原因ノ爲メニ特ニ扶助ヲ要スヘキモノナラサル可ラス從テ是等以外ノ者カ他ノ原因ノ爲メニ扶助ヲ要スルニ至リタル場合ヲ除外ス、扶助ヲ要スルト

ハ被保護者躬自ラ自用ヲ便スルコト能ハサル場合ト自活スルコト能ハサル場合トヲ包含ス而シテ其果シテ扶助ヲ要スヘキモノナルヤ否ヤハ一ニ裁判所ノ認定ニヨリ定マルヘキモノトス

第三要件 遺棄シタルコト、所謂遺棄トハ(一)現在ノ場所ヨリ故ラニ被遺棄者ノ生命、身體ニ有害ナルヘキ場所ニ之ヲ移轉スル場合ト(二)被害者ノ生命、身體ニ有害ナルヘキ場所ニ之ヲ放置スル場合トヲ區別スルコトヲ得ヘシ、即チ第一ノ場合ニ於テハ被遺棄者ノ生命、身體ニ有害ナルヘキ場所ヘ故ラニ移轉スルコトヲ要スルカ故ニ安全ナル場所例セハ被遺棄者ノ親族又ハ警察署等ヘ移轉シタル場合ハ縱令犯人ニ扶助ヲ缺クノ意思アリタル場合ニ於テモ猶本罪ヲ構成セス何トナレハ被遺棄者ノ生命、身體ニ對シ何等ノ危害ナケレハナリ、又第二ノ場合ニ於テモ被遺棄者ノ生命、身體ニ有害ナルヘキ場所例セハ山林、原野等ニ放置スルヲ要スルカ故ニ他ニ扶助者アルヘキ家宅内ニ置去リタル如キ場合ニ於テハ本罪ヲ構成セサルモノト解ス(但シ反對說ハ他ヨリ被遺棄者カ救助ヲ受クルコト確實ナル場合ニ之ヲ爲スモ尙犯罪ノ成立ニ妨ナシト論ス)然レトモ被遺棄者ニ危險ナルヘキ場所ニ移轉シ若クハ放置シタル事實アル以上ハ茲ニ本罪成

立スルヲ以テ爾後ニ於テ偶他人ニ依リテ救助セラレタルコトアリトスルモ何等ノ影響ナシ

二、處分 本罪ヲ犯シタル者ハ一年以上ノ懲役ニ處ス、元來法律上何等扶助ノ義務ナキモノ、所爲ナルヲ以テ科刑モ亦輕キナリ

第二百十八條 老者、幼者、不具者又ハ病者ヲ保護ス可キ責任アル者之ヲ遺棄シ又ハ其

生存ニ必要ナル保護ヲ爲ササルトキハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ニ對シテ犯シタルトキハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

本條ハ保護ノ責任アル者ノ遺棄罪ニ關スル規定ナリ(舊刑法第三百三十八條、第三百六十三條)

第一項 本項ハ自己又ハ配偶者ノ直系尊屬以外ノ者ニ對スル遺棄罪ノ規定ニシテ其成立要件ト處分トハ次ノ如シ

一、成立要件 本項ノ罪ハ三ヶノ要件ヨリ成ル、即チ(一)主體ハ保護ノ責任ヲ有スル者ナルコト(二)客體ハ老者、幼者、不具者又ハ病者ナルコト(三)遺棄シ又ハ其生存ニ必要ナル保護ヲ爲サ、リシコト是ナリ

第一要件 主體ハ保護ノ責任ヲ有スル者ナルコト、法ニ老者、幼者、不具者又ハ

病者ヲ保護スヘキ責任アル者ト明示ス故ニ其責任ナキ者ニ對シテハ本罪ハ成立スルニ由ナシ、但シ第二項ニ於テ特ニ自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ニ對スル場合ヲ規定シアルヲ以テ被害者ノ直系尊屬及ヒ其配偶者ハ自ラ本項ノ主體中ヨリ除外セラルヘキコト勿論ナリ、舊刑法ニ於テハ單ニ給料ヲ得テ寄託ヲ受ケタル者ニ付テノミ規定セラレタリト雖モ本法ハ保護責任ノ因テ生シタル原由ニ關シ何等制限ヲ加ヘサルヲ以テ親族關係ニ因ルト、契約ニ因ルト其他職務上ノ關係等ニ因ルトヲ區別セサルモノトス

第二要件 客體ハ老者、幼者、不具者又ハ病者ナルコト、本條ハ客體ヲ老者、幼者、不具者又ハ病者ニ限定シタルヲ以テ此以外ノ者ニ對シテハ本罪ノ成立セサルコト勿論ナリトス而シテ是等法文列記ノモノタル以上ハ前條ニ於ケルカ如ク扶助ヲ要スヘキモノタルコトヲ必要トセス、蓋シ前條ハ保護責任ナキ者ニ對スル罪ナルヲ以テ特ニ扶助ヲ要スヘキモノタルコトヲ要ストナシタリシト雖モ本條ハ元來保護責任ヲ有スル者ニ對スル罪ナルヲ以テ扶助ヲ要スル程度ナルヤ否ヤハ之ヲ問フノ要ナケレハナリ

第三要件 之ヲ遺棄シ又ハ其生存ニ必要ナル保護ヲ爲サ、ルコト、所謂遺棄

ニ付テハ前説セリ其生存ニ必要ナル保護ヲ爲サスト云フハ之ヲ放擲シテ願ミ
ス其生命ヲ維持スルニ必要ナル手段ヲ講セサル義ナリ遺棄ト異ナルハ隔離セ
サル點ニ存ス

二處分 本罪ヲ犯シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス蓋シ保護ノ責任ア
ル者ナルニ拘ラス其義務ニ違反シタルモノナルヲ以テ前條ニ比シ科刑重キコト
當然ナリ

第二項 本項ハ自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ニ對シテ犯シタル場合ノ規定ニシテ
其罪素ト處分ハ左ノ如シ

一、成立要件 本項ノ罪ハ三箇ノ要件ヨリ成ル即チ(一)主體ハ直系卑屬又ハ其配偶
者ナルコト(二)客體ハ自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ナルコト(三)前項ハ所爲アリタル
コト是ナリ而シテ是等要件ハ前述シタル所ヲ參酌スレハ自ラ了解セラルヘキニ
ヨリ玆ニ再ヒセス

二、處分 本罪ヲ犯シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス被害者ノ身分ニヨ
ル重刑ナリ

第二百十九條 前二條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重

ニ從ヒテ處斷ス

本條ハ第二百十七條若クハ第二百十八條ノ罪ヲ犯シタル結果人ヲ死傷ニ致シタ
ル場合ノ規定ナリ舊刑法第三百三十九條)

一、成立要件 本條ノ罪ハ二ヶノ要件ヨリ成ル即チ(一)前二條ノ罪ヲ犯シタルコト
(二)因テ人ヲ死傷ニ致シタルコト是ナリ而シテ本條規定ハ第二百十六條等ノ趣旨
ニ同シキヲ以テ同條及ヒ前二條ノ說明ヲ參照スレハ分明スヘシ
二、處分 本罪ヲ犯シタル者ハ前二條ノ遺棄罪ノ刑ト傷害罪ノ刑トヲ比較シ其重
キヲ選ミ處斷スヘキモノタリ舊刑法ハ此場合ニ付キ別ニ刑ヲ設クト雖モ本法ハ
之ヲ必要ナラスト認メ第二百十七條第二百二十二條等同シク傷害ノ罪ニ比較
シ重キニ從テ處斷スルコト、シタリ

第三十一章 逮捕及ヒ監禁ノ罪

一、逮捕監禁罪ハ不法ニ人ヲ逮捕シ又ハ監禁スルヲ處罰スルモノニシテ人身ノ自
由拘束ニ對スル禁止ナリ抑吾人ハ法律ニ依ルニ非スシテ逮捕監禁セララルコト
ナキハ我憲法ノ保證スル所タリ(憲法第二十三條)故ニ本法ハ本章規定ヲ設ケテ不

法ニ人ヲ逮捕シ又ハ監禁シタル者ヲ罰シ以テ憲法ノ自由ニ對スル保證ヲシテ實效アラシメンコトヲ期ス

二、本章規定ハ舊刑法第三編第一章第六節擅ニ人ヲ逮捕監禁スル罪ト題スル規定ニ相當スレトモ左ノ數點ニ於テ修正セラレタリ

(イ) 舊刑法ニ於テハ監禁ノ場所ヲ獨リ私家ニ限リタリシモ是レ理由ナキ制限ナルノミナラス却テ之アルカ爲メニ實際上問題ヲ惹起スコトアリシヲ以テ本法ハ之ヲ削除シタリ

(ロ) 舊刑法ニ於テハ監禁日數十日ヲ加フル毎ニ刑一等ヲ加重スルモノトナシタリシモ本法ハ包括的刑期ヲ定メアリテ各犯情ニ適應スル刑ヲ量定スルコトヲ得セシメタルヲ以テ舊法ノ如キ加重規定ヲ存置スルノ要ナシト認メ之ヲ削除シタリ

(ハ) 舊刑法ニ於テハ監禁制縛シテ苛酷ノ所爲ヲ加ヘタル場合ヲ特別罪ト爲シタリト雖モ此ノ如キハ是レ犯罪ノ一態様ニ過キサレハキヲ以テ特ニ之ヲ別罪トシテ規定スルノ要ナキモノトシテ削除シタリ

(ニ) 舊刑法ニ於テハ水火ノ際其監禁ヲ解クコトヲ怠リタル結果死傷ニ對シタル

場合ヲ特別罪トシテ規定シタリト雖モ是レ又逮捕監禁致死罪ノ一場合ニ過キサレヲ以テ特ニ之ヲ別罪トシテ存置スル要ナシトシテ削除シタリ

以下各本條ニ就キ略説スヘシ

第二百二十條 不法ニ人ヲ逮捕又ハ監禁シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ニ對シテ犯シタルトキハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

本條ハ不法ニ人ヲ逮捕又ハ監禁シタル場合ニ關スル規定ナリ(舊刑法第三百二十二條、第三百二十三條、第三百六十三條)

第一項 本項ハ一般人ニ對スル逮捕監禁ノ罪ニシテ其成立要件ト處分トハ左ノ如シ

一、成立要件 本罪ノ成立要件ヲ別テ三トナス即チ(一)客體ハ自己又ハ配偶者ノ直系尊屬以外ノ人ナルコト(二)逮捕又ハ監禁シタルコト(三)不法ナルコト是ナリ順次説明スヘシ

第一要件 犯罪ノ客體ハ自己又ハ配偶者ノ直系尊屬以外ノ人ナルコト、本罪ノ客體カ犯人自身又ハ配偶者ノ直系尊屬以外ノ人タルコトヲ要スルハ次項ニ於テ特ニ犯人又ハ配偶者ノ直系尊屬ニ對スル場合ヲ別罪トシテ規定シアルニ

徴シ洵ニ明瞭ナル所ニ屬ス、從テ自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ナラサル以上ハ其
何人タルヲ問ハス本罪ヲ構成スルモノトス

第二要件 逮捕又ハ監禁シタルコト 逮捕ト云ヒ監禁ト云フモ共ニ人身ノ自
由ニ對スル拘束ヲ意味ス、即チ逮捕トハ人ノ居所移轉ニ關スル自由ヲ剝奪スル
ヲ謂ヒ監禁トハ一定ノ區畫外ニ出ツルノ自由ヲ剝奪スルヲ謂フ、孰レモ直接ニ
人ノ身體ノ上ニ物質力ヲ加ヘテ實行スルヲ通例トスト雖モ必ラシモ之アルヲ
要セス、故ニ例セハ一室ニ在リタル者ニ對シ外部ヨリ錠ヲ施シ外出スルコト能
ハサラシムルカ如キ又ハ二階ニ在リタル者ニ對シ櫓子ヲ除去シテ降下スルコ
ト能ハサラシメタルカ如ク毫モ身體ノ上ニ物質的力ヲ加ヘサル場合ニ於テモ
本罪ハ成立スルモノトス

第三要件 不法ナルコト 犯罪一般ノ通素トシテ行爲ハ不法性ナルコトヲ要
ス故ニ本罪ニ在リテモ其逮捕監禁ハ不法ナルニ非ラサレハ罪ヲ構成セサルコ
ト當然ノコトニ屬スルヲ以テ之ヲ法文ニ明示スル要ナキカ如シト雖モ逮捕、監
禁ハ數々權利又ハ義務行爲トシテ顯ハル、コトアルヲ以テ法律ハ注意的ニ此
語ヲ冠セシノミ、舊刑法ニ所謂「權ニ」トアルモ畢竟同意義ニ外ナラス

二處分 本罪ヲ犯シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス舊刑法ニ比シ刑罰
範圍ヲ著シク擴大セラレタリ

第二項 本項ハ自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ニ對スル逮捕監禁罪ノ規定ニシテ其
成立要件ト處分ハ左ノ如シ

一、成立要件 本罪ノ成立要件ヲ別テ二トナス、即チ(一)客體ハ自己又ハ配偶者ハ直
系尊屬ナルコト(二)不法ニ逮捕又ハ監禁シタルコト是ナリ而シテ是等要件ハ前項
及ヒ第二百條ノ下ニ於ケル説明ヲ參酌シテ了解セラルヘシ

二處分 本罪ヲ犯シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス、被害者ノ身分關係
上前項ノ罪ニ比シ科刑重カルヘキコト當然ニシテ別ニ説明ヲ要セス

第二百二十一條 前條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重
キニ從テ處斷ス

本條ハ不法逮捕監禁罪ヲ犯シタル結果、人ヲ死傷ニ致シタル場合ニ關スル特別規
定ナリ(舊刑法第三百二十四條、第三百二十五條)

本條ハ所謂結果犯ナルヲ以テ被害者ノ死傷ト不法逮捕監禁罪トノ間ニ因果關係
アルニ於テハ死傷ニ付テハ持ニ故意又ハ過失アリタルト否トヲ問ハス唯不法ニ

逮捕又ハ監禁スルニ因リテ死傷ト云フ結果ヲ惹起シタルヲ以テ足ルモノトシタ
リ而シテ處分ハ第二百二十條ノ罪ト傷害罪トヲ比較シ結局重キ傷害ノ罪ニ從ヒ
テ處罰セラル、コト、ナルヘシ

第三十二章 脅迫ノ罪

一、脅迫罪トハ人ヲ畏怖セシムル目的ヲ以テ害惡ヲ加フヘキコトヲ通知スルヲ謂
フ、從來學者或ハ脅迫罪ハ被害者ヲシテ畏怖心ヲ生セシムル所爲ナリト説キタリ
ト雖モ現今ノ多數説ニ從ヘハ是レ又公益ヲ害スル罪ノ一種ニシテ敢テ被害者ノ
感情如何ヲ問フノ必要ナシト云フニ一致セリ

二、本條ハ舊刑法第三篇第一章第七節脅迫ノ罪ト題スル規定ニ相當スルモノニシ
テ左ノ數點ニ於テ修正セラレタリ

- (イ) 舊刑法ニ於テハ脅迫ノ種額ヲ殺人、放火、暴行等ニ限定シタリト雖モ自由及ヒ
名譽ニ對スル場合ヲ缺如シタルヲ以テ本法ハ之ヲ補足シタリ
- (ロ) 舊刑法ニ於テハ其手段ノ殺人、放火ニヨルト、暴行其他毀壞却掠ニヨルト、兇器
ヲ持シタル場合トヲ區別シ刑ニ輕重アリタリト雖モ此ノ如キハ一ニ情狀ニ

關スル問題ニ過キサルヲ以テ包括的刑罰範圍ヲ定メタル本法ニ於テハ此區
別ヲ爲スノ必要ナキモノトシテ此區別ヲ認メス從テ舊刑法ニ比シ大ニ條文
ノ數ヲ減シタリ

(ハ) 舊刑法ニ於テハ脅迫ノ結果人ヲシテ義務ナキコトヲ行ハシメ又ハ行フヘキ
權利ヲ妨害シタル場合ニ關シ何等規定スル所ナカリシカ此ノ如キ結果ヲ生
シタル場合ハ之ヲ單ニ脅迫ヲ爲シタルニ止マリシ場合ト同一視スルヲ得サ
ルヲ以テ本法ハ新ニ是ニ關スル規定ヲ設クルニ至レリ

(ニ) 舊刑法ニ於テハ本罪ヲ以テ親告罪トナシタリシカ本法ハ之ヲ改メテ非親告
罪トナシタリ盡シ本罪ハ私人ノ名譽ニ關スルヨリハ寧ロ公ノ秩序ニ關スル
罪ナルノミナラス之ヲ以テ親告罪トセハ實際上被害者ハ後難ヲ恐レテ告訴
ヲ爲シ得サル場合多カルヘク却テ刑法ノ目的ヲ達スルニ適當ナラサルヲ以
テナリ

三、本章規定スル所僅ニ二條、其内容ヲ(一)單純脅迫罪(第二百二十二條)(二)加重脅迫罪
(第二百二十三條)トニ別ツ
以下各本條ニ就キ略説スヘシ